ヒヤリ・ハット調査
「シニア世代における衣服・履物の危険」
報告書

平成26年9月

東京都生活文化局消費生活部

目　次

Ⅰ．調査概要 1
１．調査の目的 1
２．調査対象者および調査方法等 1
３．集計・分析にあたって 3
Ⅱ．調査結果 4
１．　回答者の基本情報 4
（１）性別 4
（２）年代 4
（３）居住地 5
（４）代理回答 5
２．衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験について 6
（１）衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験（全体傾向） 6
（２）衣服を着用していたことによる転倒 9
（３）履物を着用していたことによる転倒 29
（４）着衣着火 55
（５）皮膚障害 71
（６）その他の事例 80
３．　高齢者における衣服・履物に関する意識について 83
Ⅲ．まとめ 100

Ⅰ．調査概要

１．調査の目的

日常生活における「ヒヤリ･ハット」経験は、どこへも情報提供されることなく多数埋もれていることから、東京都では危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ･ハット調査を実施している。

高齢者の事故は交通事故等とともに、日常生活において多数起こっているが、自分の不注意や身体機能の低下によるものだという本人の思い込みもあり顕在化しないケースも多い。今回は、そのような高齢者のヒヤリ・ハットや危害経験のなかから、加齢による身体能力の影響が顕著に出やすく重篤なケガに直結すると思われる「転倒」、高齢者の致死率が高い「着衣着火」、加齢による皮膚感覚の変化から生じやすいと思われる「皮膚障害」に焦点を当てた。日常生活の中で欠かすことが出来ない衣服・履物に関することからこれらのヒヤリ・ハット経験を想起していくというアプローチでアンケート調査を行い、高齢者の生活の実態の一部を浮き彫りにすることにより高齢者とその周りの人へ注意喚起やアドバイス、製造・販売の事業者には安全性の高い商品開発の一助となるよう、事例を掘り起こしてまとめた。

２．調査対象者および調査方法等

調査対象者：　東京都及び近県（神奈川県・埼玉県・千葉県）に在住する60 歳以上の男女
※調査は主に東京都在住者を対象として実施し、不足する部分を神奈川県、埼玉県、千葉県在住者にて補完した。
※70 歳以上についてご本人の回答が難しい場合、同居家族による代理回答にて調査を実施した。

回答者数：　3,000 人

調査実施方法：　インターネットアンケート

調査期間　：　平成 25 年 11 月 28 日～12 月 6 日

【回答者内訳】

	合計		男性		女性	
		内、代理回答		内、代理回答		内、代理回答
合計（人）	3,000	487	1,500	58	1,500	429
割合（%）	100.0	16.2	100.0	3.9	50.0	28.6
60～64 歳（人）	600	0	300	0	300	0
割合（%）	100.0	0.0	100.0	0.0	10.0	0.0
65～69 歳	600	0	300	0	300	0
割合（%）	100.0	0.0	100.0	0.0	10.0	0.0
70～74 歳	600	46	300	8	300	38
割合（%）	100.0	7.7	100.0	2.7	10.0	12.7
75～79 歳	600	163	300	7	300	156
割合（%）	100.0	27.2	100.0	2.3	10.0	52.0
80 歳以上	600	278	300	43	300	235
割合（%）	100.0	46.3	100.0	14.3	10.0	78.3

回収サンプル設計（男女、年代均等各 300 名）に基づき対象者が予定数に達した時点で調査終了とした。

■調査項目：

（１）衣服・履物に関するヒヤリ・ハットや危害経験※の実態

（２）衣服の選択基準について

（３）衣服・履物に関する要望について

（４）その他のヒヤリ・ハットや危害経験について

※衣服・履物に関するヒヤリ・ハットや危害経験

本報告書において“ヒヤリ・ハット”とはけがに至っていないが、けがをしそうになったこと、“危害”とはけがをしたり、発火・発煙・引火したことを示す。

本調査では衣服･履物に関する過去５年間に経験した次の５つのヒヤリ･ハット、危害経験について調査を行った。

① 衣服を着用していたことによる転倒
② 履物を着用していたことによる転倒
③ 着衣着火
④ 皮膚障害
⑤ 衣服・履物によるその他のヒヤリ・ハットや危害経験

３．集計・分析にあたって

- 回答比率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合がある。
- 設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- グラフに表記される「Ｎ＝＊」「ｎ＝＊」（＊は数字）は、対象の母数を表す。Ｎはグラフ全体の母数、ｎは各項目の母数を表す。
- グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

Ⅱ．調査結果

１．　回答者の基本情報

（１）性別

性別は、「男性」50.0%、「女性」50.0%。

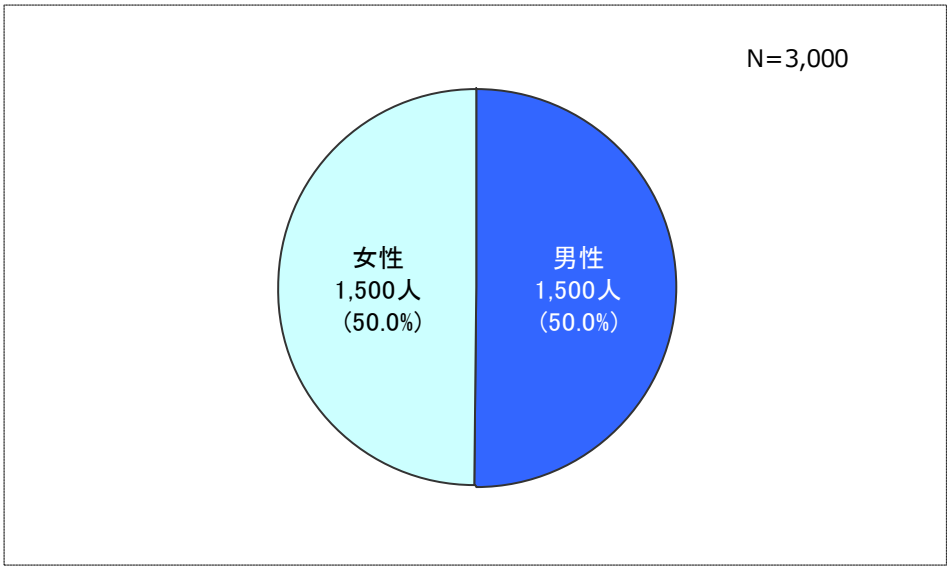


図 1_1. 性別

（２）年代

年代は、「60 代前半」「60 代後半」「70 代前半」「70 代後半」「80 代以上」でそれぞれ 20.0%。

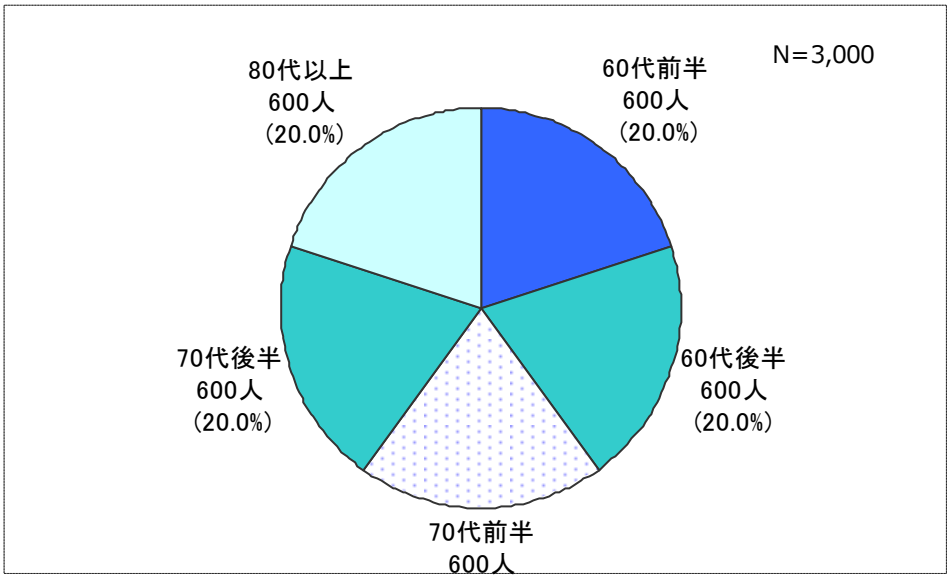


図 1_2. 年代別

（３）居住地

居住地は「東京都」が 69.5%、次いで「神奈川県」が 13.8%、「千葉県」が 8.7%、「埼玉県」が 8.0%。

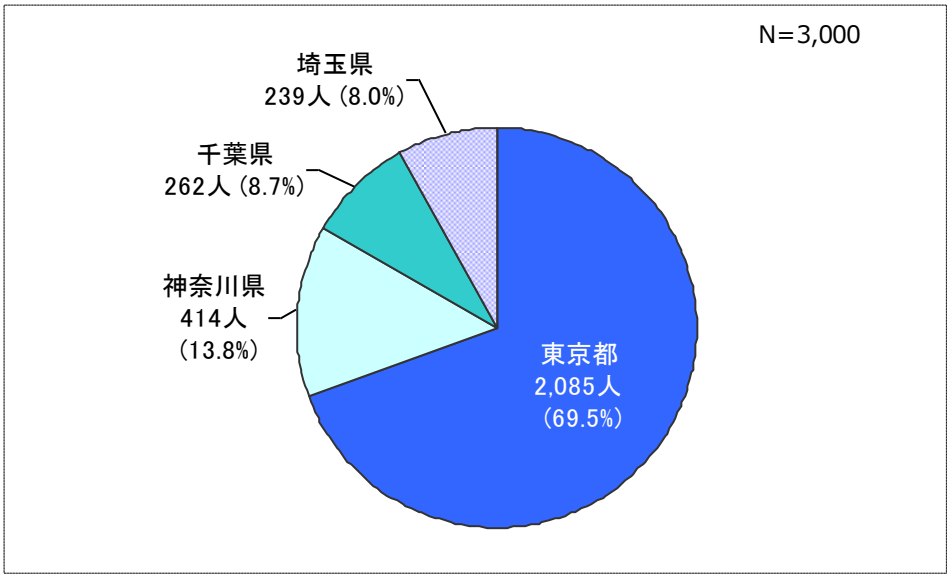


図 1_3. 居住地

（４）代理回答

各年代毎の代理回答の割合を図 1_4 に示す。全体では本人による回答が 83.8%、同居家族による代理回答は 16.2%となっている。60 代は前半、後半とも代理回答は含まれない。

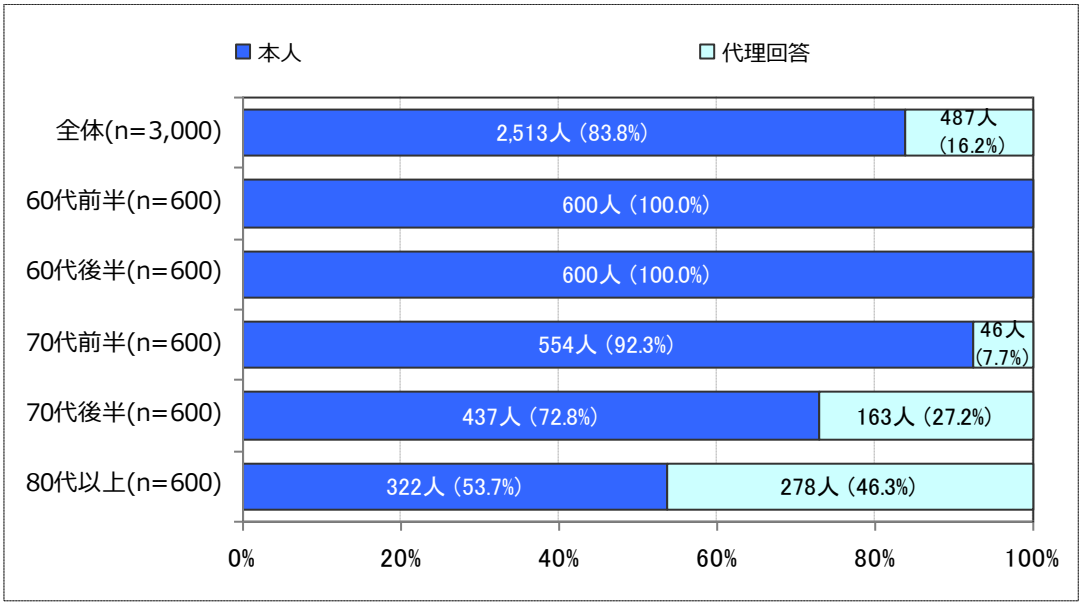


図 1_4. 年代別代理回答割合

２．衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験について

（１）衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験（全体傾向）

①ヒヤリ・ハット経験の有無

図 2_1_1 は衣服・履物に関するヒヤリ・ハットや危害経験について、調査項目全体での経験割合を示している。何らかのヒヤリ・ハットや危害を経験した人は 1,735 人（57.9%）と６割近くに達している。その内、実際にケガ等の危害経験のある人は 506 人（16.9%）となっている。

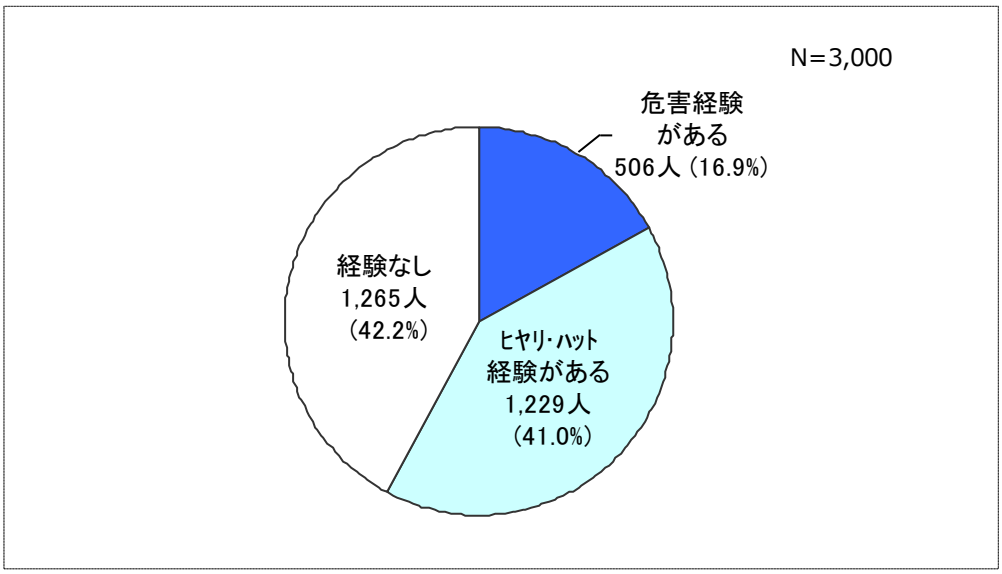


図 2_1_1. 衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験〔全体〕

［注 1］“危害経験がある”は衣服・履物を原因とする転倒により「ケガをした」、着衣着火により「やけどをした」、衣服により「皮膚障害を起こした」、その他事例より「ケガをした」との回答数を示す。

［注 2］“ヒヤリ・ハット経験がある”は衣服・履物を原因とする転倒により「ヒヤリとしたりハッとしたりした」および「転倒したがケガはしなかった」、着衣着火により「ヒヤリとしたりハッとしたりした」、衣服により「皮膚に違和感を感じた」、その他事例より「ケガをしそうになった」との回答数を示す。

［注 3］回答者が複数のヒヤリ・ハットや危害を経験している場合、より危害程度の高い方を計算対象とする。

図 2_1_2 は男女別でのヒヤリ・ハットや危害経験の割合を示している。男女別による経験割合の差は見られない。

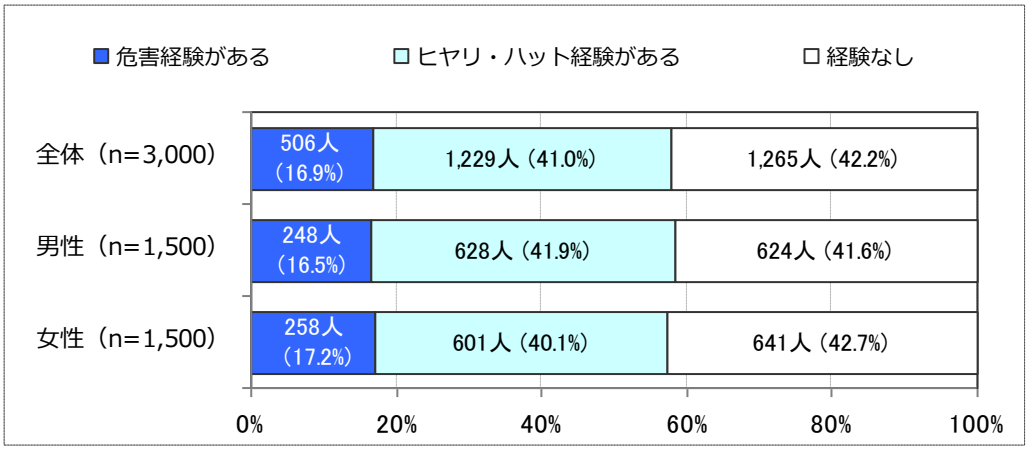


図 2_1_2. 衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験〔男女別〕

図 2_1_3 は年代別でのヒヤリ・ハットや危害経験の割合を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験者は 60 代前半が 68.4%と最も高く、次いで 60 代後半が 63.8%となっている。70 代後半や 80 代以上と比較すると、60 代前後半や 70 代前半の年齢の低い層の方がヒヤリ・ハットや危害を経験している割合が高い。

年齢の低い層ほど活動範囲も広く、より多くのヒヤリ・ハットや危害を経験していることが窺える。

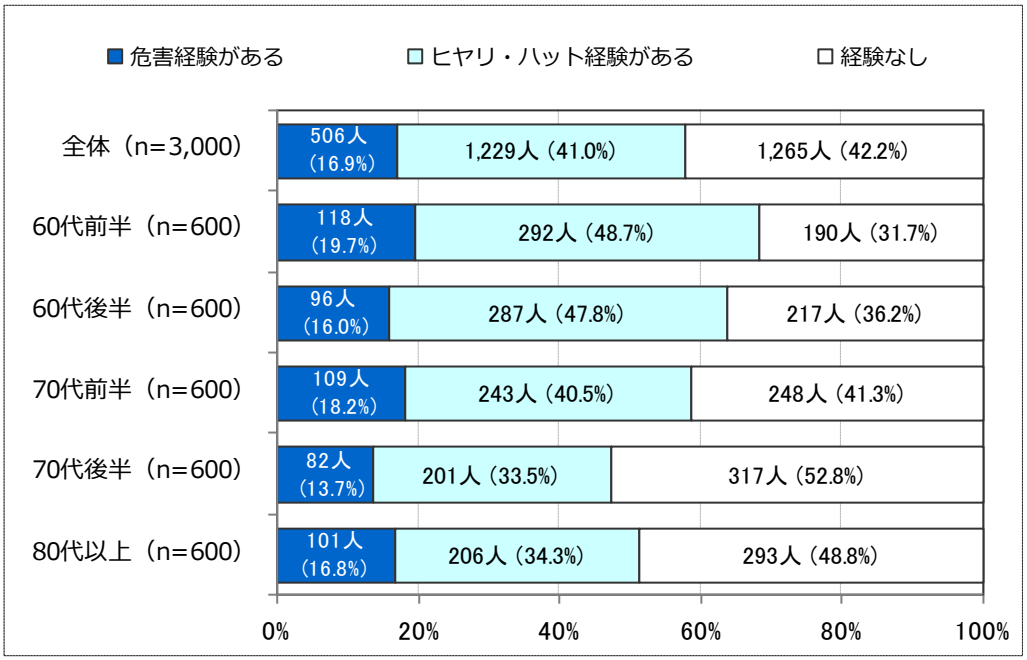
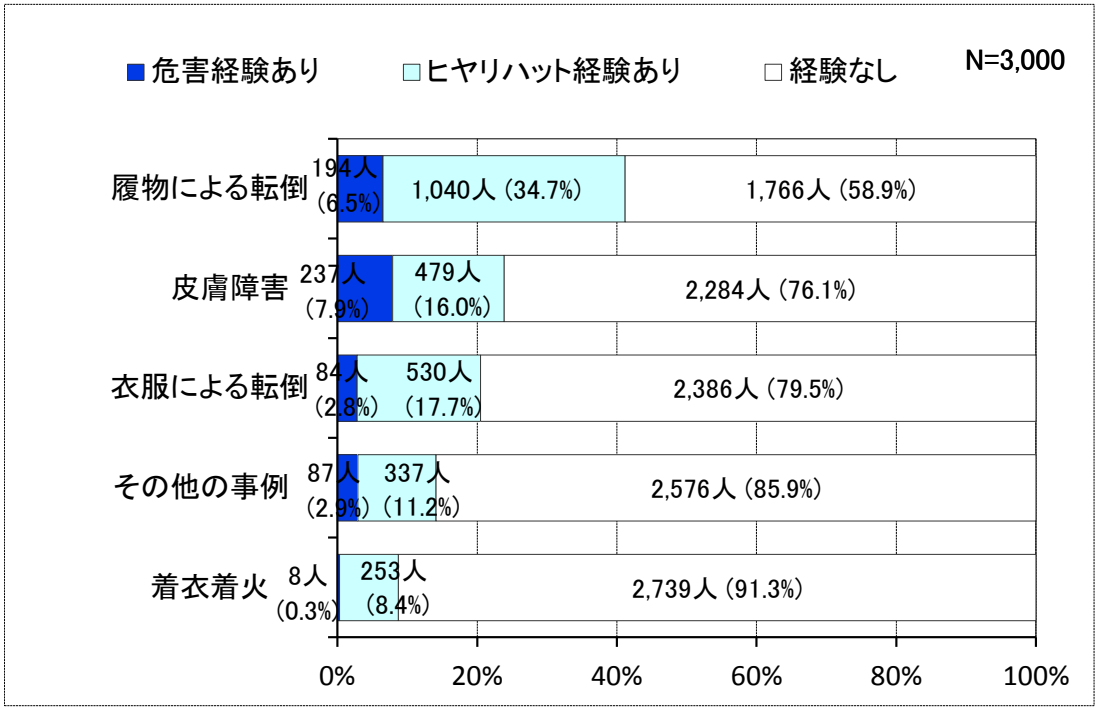


図 2_1_3. 衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験〔年代別〕

図 2_1_4 は本調査で聴取したヒヤリ・ハットや危害をそれぞれ項目別に経験した割合である。「転倒」によるケガ、「着衣着火」によるやけど、「皮膚障害」におけるかぶれ等は、危害の種類も程度も比較できるものではないが、経験数を把握するための参考として示した。



2_1_4. 衣服・履物に関するヒヤリ・ハット経験〔項目別〕

（2）衣服を着用していたことによる転倒

図 2_2_1 は衣服の着用による転倒した、またはしそうになった際の衣服の種類別にヒヤリ・ハットや危害経験の件数をまとめた結果である。

衣服を着用していたことで転倒した、またはしそうになったと回答した人数は 614 人、回答されたヒヤリ・ハットや危害経験は 1,934 件であった。

そのうち、ヒヤリ・ハットや危害経験が最も多く発生していた衣服は「ズボン」で 351 人（57.2%）となり、ヒヤリ・ハットや危害件数は 935 件（48.3%）である。次いで「パジャマ等の寝間着」が 153 人（24.9%）で 386 件（20.0%）であった。「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「ズボン」の着用時が 32 件と最も多く、次いで「パジャマ等の寝間着」の着用時が 17 件、「上衣」の着用時が 6 件と続く。

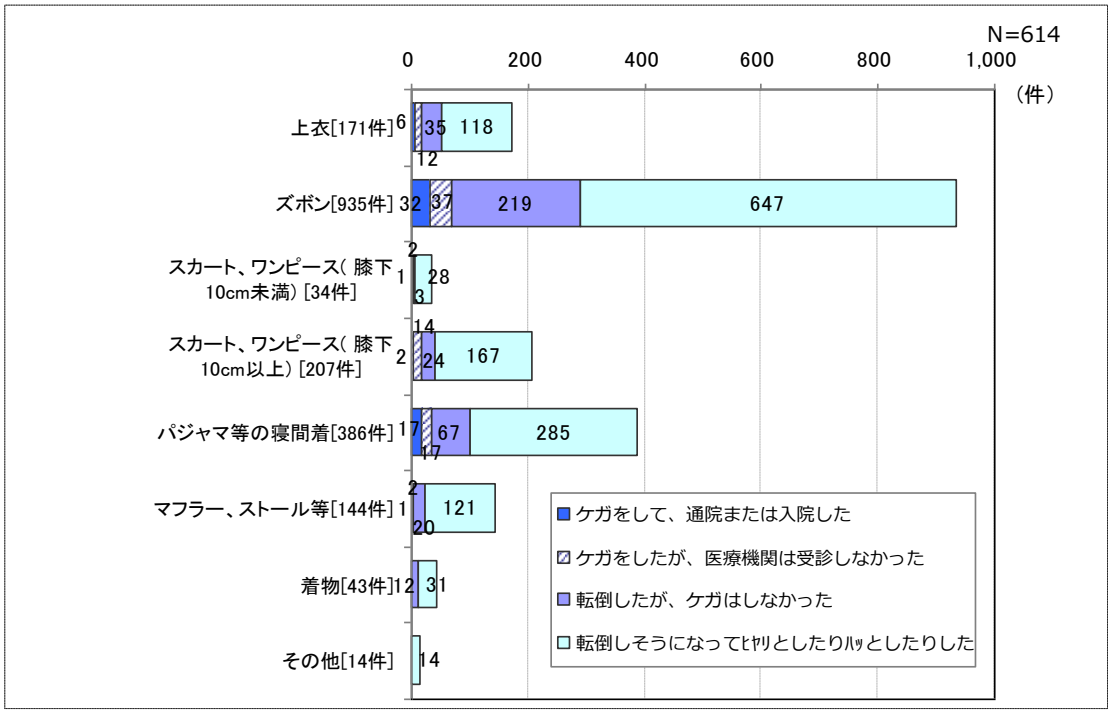


図 2_2_1. 衣服を着用していたことによる転倒〔衣服種類別〕【複数回答】

表 2_2_1 は衣服の種類別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男性、女性ともに「ズボン」を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験が最も多いが、男性は 552 件、女性は 383 件と特に男性において顕著である。

男性では次いで「パジャマ等の寝間着」が 209 件、「上衣」が 77 件と続く。女性では「スカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)」が 207 件、「パジャマ等の寝間着」が 177 件と続く。

また女性において「スカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)」や「マフラー、ストール等」によるヒヤリ・ハットや危害経験は 60 代前半から 70 代前半に多く見られ、70 代後半からの経験者が少ない。年齢を重ねるに従いスカートやワンピースを着用しなくなる等、日常着の変化が見受けられる。

表 2_2_1. 衣服を着用していたことによる転倒〔衣服種類×男女･年代別〕【複数回答】

		N数	上衣 (件)	ズボン (件)	スカート、ワンピース(膝下10cm未満) (件)	スカート、ワンピース(膝下10cm以上) (件)	パジャマ等の寝間着 (件)	マフラー、ストール等 (件)	着物 (件)	その他 (件)
【全　　体】		614	171	935	34	207	386	144	43	14
【男女・年代別】										
男性		301	77	552	－	－	209	44	10	1
	60 代前半	85	29	161	－	－	75	11	1	0
	60 代後半	74	24	124	－	－	46	22	4	0
	70 代前半	55	12	115	－	－	26	4	1	1
	70 代後半	37	2	50	－	－	32	4	4	0
	80 代以上	50	10	102	－	－	30	3	0	0
女性		313	94	383	34	207	177	100	33	13
	60 代前半	82	28	74	7	72	10	34	1	11
	60 代後半	67	19	75	6	46	45	30	9	1
	70 代前半	62	11	72	14	63	23	27	10	0
	70 代後半	45	19	72	5	17	31	5	5	0
	80 代以上	57	17	90	2	9	68	4	8	1

①上衣を着用していたことによる転倒

図 2_2_2 は上衣を着用によるヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。上衣を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 89 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 171 件であった。

上衣を着用によるヒヤリ・ハットや危害経験 171 件のうち、「設備や家具に引っかかった」原因によるものが 61 件（35.7%）と最も多く、次いで「衣服の着脱の際に衣服にからまった」原因によるものが 38 件（22.2%）、「服が足にからまった」原因によるものが 34 件（19.9%）と続く。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「服が足にからまった」原因において 2 件、「服についているヒモを踏んだりからまったりした」原因において 2 件あった。

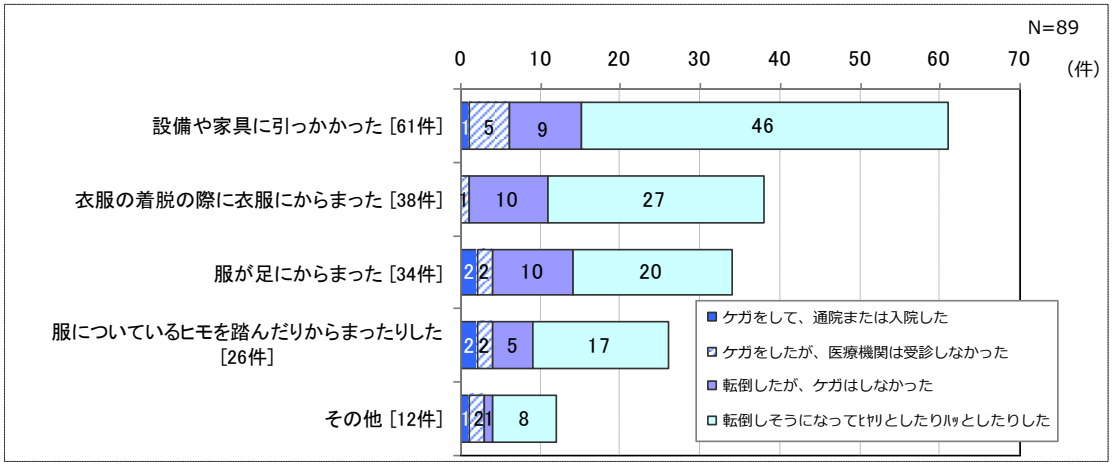


図 2_2_2 ． 上衣を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_2_3 に示す結果となった。いずれの原因においても「家の中」が最も多く、「設備や家具に引っかかった」原因において 50 件、「衣服の着脱の際に衣服にからまった」原因において 32 件となった。

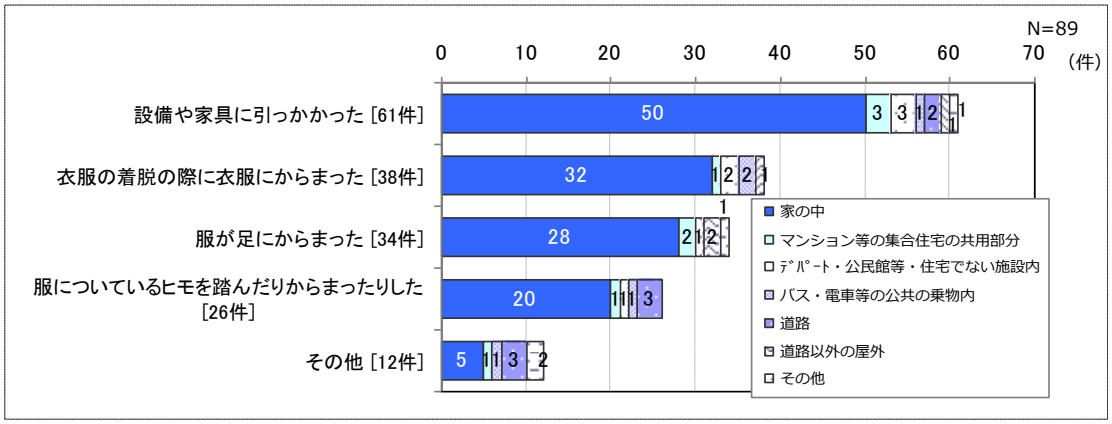


図 2_2_3 ． 上衣を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_2 は上衣の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男性、女性ともに「設備や家具に引っかかった」ことが原因のヒヤリ・ハットや危害経験がそれぞれ 30 件、31 件と最も多い。

また女性において「服についているヒモを踏んだりからまったりした」ことが原因のヒヤリ・ハットや危害経験が 18 件と男性と比較して多くなっている。

男性、女性ともに 60 代前半の経験者が最も多くなっている。

表 2_2_2. 上衣を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

		N数	設備や家具に引っかかった（件）	衣服の着脱の際に衣服にからまった（件）	服が足にからまった（件）	服についているヒモを踏んだりからまったりした（件）	その他（件）
【全　　体】		89	61	38	34	26	12
【男女・年代別】							
男性		46	30	18	16	8	5
	60 代前半	19	13	7	6	1	2
	60 代後半	12	8	6	6	4	0
	70 代前半	8	6	2	1	2	1
	70 代後半	1	1	1	0	0	0
	80 代以上	6	2	2	3	1	2
女性		43	31	20	18	18	7
	60 代前半	15	11	3	4	6	4
	60 代後半	8	7	5	3	4	0
	70 代前半	6	3	2	2	3	1
	70 代後半	7	4	5	5	3	2
	80 代以上	7	6	5	4	2	0

②ズボンを着用していたことによる転倒

図 2_2_4 はズボンの着用によるヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。転倒した、またはしそうになったと回答したのは 351 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 935 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 935 件のうち、「すそを踏んだ」原因によるものが 247 件と最も多く、次いで「着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した」原因によるものが 198 件、「服が足にからまった」原因によるものが 143 件と続く。

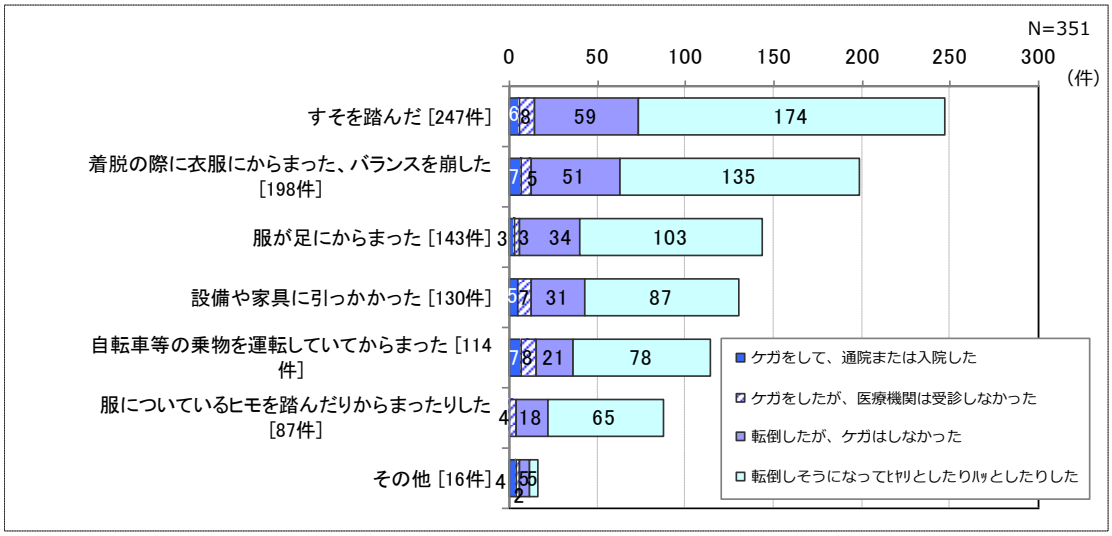


図 2_2_4 ． ズボンを着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所については、図 2_2_5 に示すとおりである。「すそを踏んだ」原因による 247 件のうち、「家の中」が 194 件（78.5%）と最も多く、「道路」が 32 件（13.0%）であった。

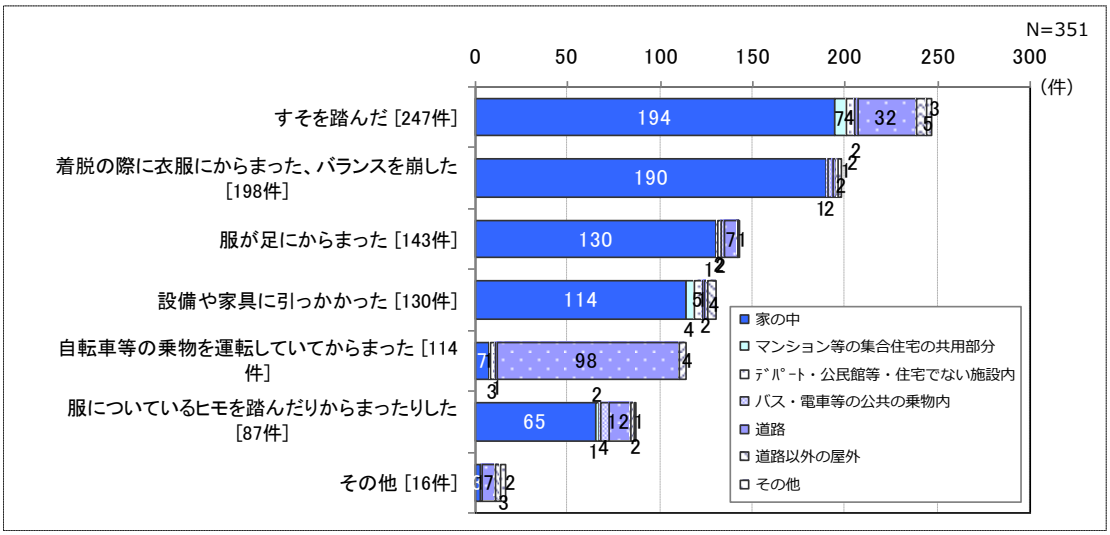


図 2_2_5 ． ズボンを着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_3 はズボンの着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男性と女性を比較すると、男性が 203 件、女性が 148 件と男性の方が多くのヒヤリ・ハットや危害を経験している。

男性も女性も「すそを踏んだ」の回答が最も多く、次に「着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した」が続いている。

表 2_2_3. ズボンを着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	すそを踏んだ（件）	着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した（件）	服が足にからまった（件）	設備や家具に引っかかった（件）	自転車等の乗物を運転していてからまった（件）	服についているヒモを踏んだりからまったりした（件）	その他（件）
【全　　体】	351	247	198	143	130	114	87	16
【男女・年代別】								
男性	203	141	122	80	74	74	50	11
60 代前半	56	40	36	19	24	25	17	0
60 代後半	50	32	24	21	15	18	13	1
70 代前半	37	30	30	20	15	10	8	2
70 代後半	22	12	11	5	6	7	4	5
80 代以上	38	27	21	15	14	14	8	3
女性	148	106	76	63	56	40	37	5
60 代前半	32	25	10	10	8	12	9	0
60 代後半	26	20	13	10	11	10	11	0
70 代前半	27	18	19	12	8	7	5	3
70 代後半	29	19	12	17	8	8	7	1
80 代以上	34	24	22	14	21	3	5	1

③スカート、ワンピース(膝下 10cm 未満)を着用していたことによる転倒

図 2_2_6 は、女性を対象としたスカート、ワンピース(膝下 10cm 未満)を着用によるヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。スカート、ワンピース(膝下 10cm 未満)を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 12 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 34 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 34 件のうち、「すそを踏んだ」原因によるものが 9 件と最も多く、次いで「服が足にからまった」原因によるものが 7 件であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「服が足にからまった」原因において 1 件あった。

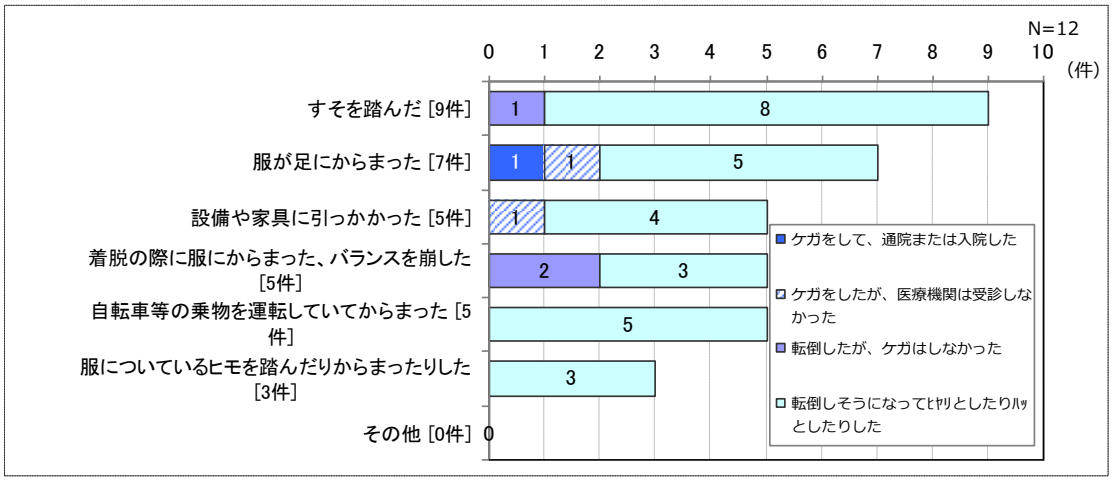


図 2_2_6 ． ｽｶｰﾄ、ﾜﾝﾋﾟｰｽ(膝下 10cm 未満)を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_2_7 に示す結果となった。「すそを踏んだ」原因による 9 件のうち、「家の中」が 7 件と最も多く見られた。

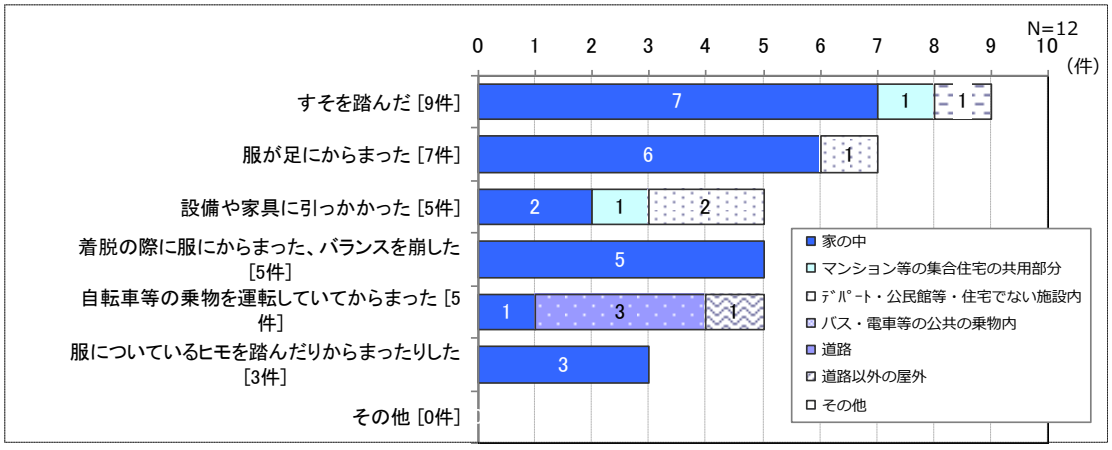


図 2_2_7 ． ｽｶｰﾄ、ﾜﾝﾋﾟｰｽ(膝下 10cm 未満)を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_4 はスカート、ワンピース(膝下 10cm 未満)の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。

表 2_2_4. ｽｶｰﾄ、ﾜﾝﾋﾟｰｽ(膝下 10cm 未満)を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	すそを踏んだ (件)	服が足にからまった (件)	設備や家具に引っかかった (件)	着脱の際に服にからまった、バランスを崩した (件)	自転車等の乗物を運転していてからまった (件)	服についているヒモを踏んだりからまったりした (件)	その他 (件)
【全　　体】	12	9	7	5	5	5	3	0
【男女・年代別】								
男性	－	－	－	－	－	－	－	－
60 代前半	－	－	－	－	－	－	－	－
60 代後半	－	－	－	－	－	－	－	－
70 代前半	－	－	－	－	－	－	－	－
70 代後半	－	－	－	－	－	－	－	－
80 代以上	－	－	－	－	－	－	－	－
女性	12	9	7	5	5	5	3	0
60 代前半	3	2	1	0	1	2	1	0
60 代後半	2	2	1	0	1	1	1	0
70 代前半	4	3	3	3	2	2	1	0
70 代後半	2	1	1	2	1	0	0	0
80 代以上	1	1	1	0	0	0	0	0

[注]男性は回答対象外

④スカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)を 着用していたことによる転倒

図 2_2_8 はスカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)を 着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた。スカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)を 着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 87 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験は 207 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 207 件のうち、「すそを踏んだ」原因によるものが 73 件（35.3%）と最も多く、次いで「服が足にからまった」と「自転車等の乗物を運転していてからまった」原因によるものがそれぞれ 33 件（15.9%）と続く。

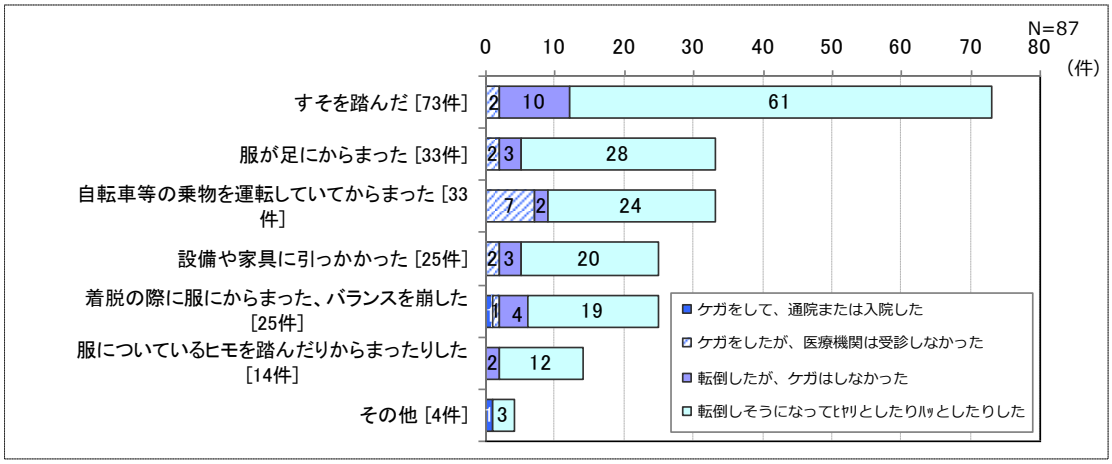


図 2_2_8 . ｽｶｰﾄ、ﾜﾝﾋﾟｰｽ(膝下 10cm 以上)を 着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_2_9 に示す結果となった。「すそを踏んだ」原因による 73 件のうち、「家の中」が 34 件（46.6%）と最も多く見られた。次いで「道路」が 14 件（19.2%）、「マンション等の集合住宅の共用部分」「バス、電車等の公共の乗り物内」および「道路以外の屋外」がそれぞれ 6 件（8.2%）となっており、家の中だけでなく様々な場所で経験されていることが分かる。

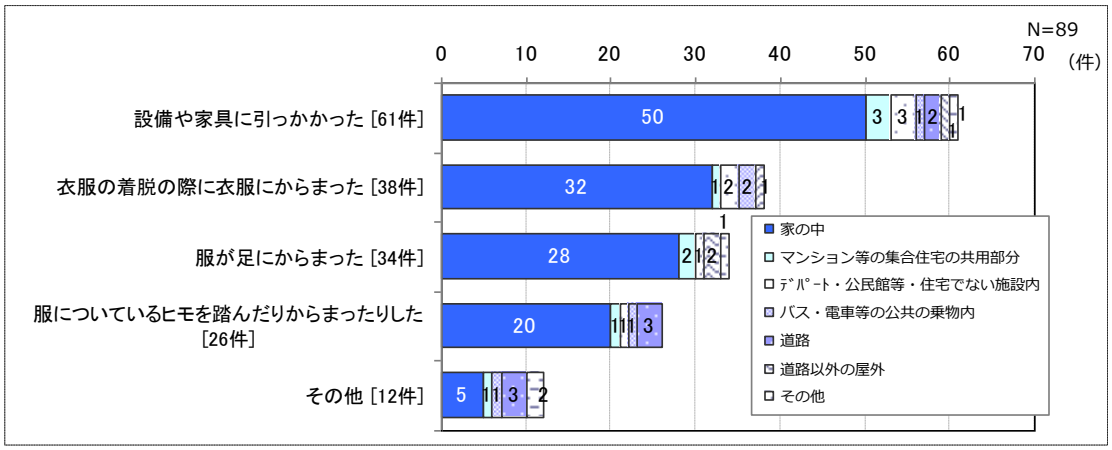


図 2_2_9 . ｽｶｰﾄ、ﾜﾝﾋﾟｰｽ(膝下 10cm 以上)を 着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_5 はスカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)を着用していたことにより転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。

年代別に見ると、60 代前半～70 代前半におけるヒヤリ・ハットや危害経験数が多く、70 代後半以降はその経験数が非常に少なくなっている。また、「自転車等の乗物を運転していてからまった」は 60 代までは経験されているが、70 代前半以降はその経験数が非常に少なくなり、80 代以上においては 0 件となっている。

年代が上がるにしたがい、スカート、ワンピース(膝下 10cm 以上)を着用しなくなったり、自転車に乗らなくなったりすることでこうしたヒヤリ・ハットや危害経験が減少しているものと思われる。一方で、活動的な 60 代においては屋内、屋外ともに多くのヒヤリ・ハットや危害を経験する可能性が高い事がうかがえる。

表 2_2_5. ｽｶｰﾄ、ﾜﾝﾋﾟｰｽ(膝下 10cm 以上)を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	すそを踏んだ (件)	服が足にからまった (件)	自転車等の乗物を運転していてからまった (件)	設備や家具に引っかかった (件)	着脱の際に服にからまった、バランスを崩した (件)	服についているヒモを踏んだりからまったりした (件)	その他 (件)
【全　　体】	87	73	33	33	25	25	14	4
【男女・年代別】								
男性	－	－	－	－	－	－	－	－
60 代前半	－	－	－	－	－	－	－	－
60 代後半	－	－	－	－	－	－	－	－
70 代前半	－	－	－	－	－	－	－	－
70 代後半	－	－	－	－	－	－	－	－
80 代以上	－	－	－	－	－	－	－	－
女性	87	73	33	33	25	25	14	4
60 代前半	32	28	10	12	10	8	4	0
60 代後半	20	16	6	12	4	4	4	0
70 代前半	24	21	11	8	7	8	5	3
70 代後半	7	4	5	1	2	3	1	1
80 代以上	4	4	1	0	2	2	0	0

[注]男性は回答対象外

⑤パジャマ等の寝間着を着用していたことによる転倒

図 2_2_10 はパジャマ等の寝間着を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。パジャマ等の寝間着を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 153 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 386 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 386 件のうち、「すそを踏んだ」原因によるものが 115 件（29.8%）と最も多く、次いで「服が足にからまった」原因によるものが 80 件（20.7%）、「着脱の際に服にからまった、バランスを崩した」原因によるものが 76 件（19.7%）と続く。

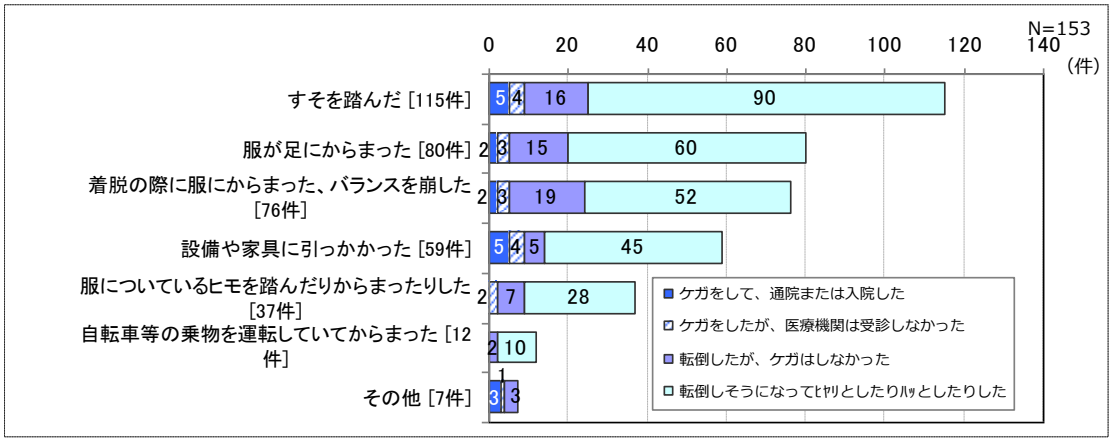


図 2_2_10 ． パジャマ等の寝間着を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_2_11 に示す結果となった。全 386 件のうち、378 件（97.9%）が「家の中」で発生していた。

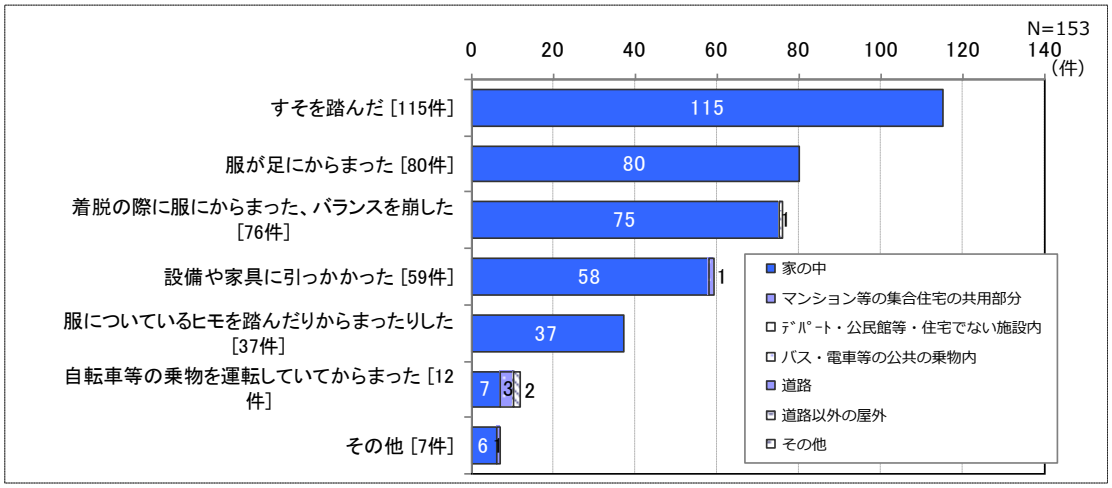


図 2_2_11 ． パジャマ等の寝間着を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_6 はパジャマ等の寝間着の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男性と女性を比較すると、男性が 84 件、女性が 69 件と男性の方が多くのヒヤリ・ハットや危害を経験しているが、男女・年代別に見ると、女性の 80 代以上にヒヤリ・ハットや危害の経験者が最も多い。

表 2_2_6. パジャマ等の寝間着を着用していたことによる転倒〔原因×男女・年代別〕

【複数回答】

	N数	すそを踏んだ（件）	服が足にからまった（件）	着脱の際に服にからまった、バランスを崩した（件）	設備や家具に引っかかった（件）	服についているヒモを踏んだりからまったりした（件）	自転車等の乗物を運転していてからまった（件）	その他（件）
【全　　体】	153	115	80	76	59	37	12	7
【男女・年代別】								
男性	84	60	45	43	33	17	8	3
60 代前半	25	18	16	15	11	11	4	0
60 代後半	21	14	11	10	7	2	2	0
70 代前半	10	7	7	5	5	1	1	0
70 代後半	14	10	5	6	7	2	1	1
80 代以上	14	11	6	7	3	1	0	2
女性	69	55	35	33	26	20	4	4
60 代前半	5	4	0	2	2	2	0	0
60 代後半	15	12	10	7	5	7	3	1
70 代前半	9	8	4	4	3	3	1	0
70 代後半	13	9	7	7	5	3	0	0
80 代以上	27	22	14	13	11	5	0	3

⑥マフラー、ストール等を着用していたことによる転倒

図 2_2_12 はマフラー、ストール等を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。マフラー、ストール等を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 78 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 144 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 144 件のうち、「設備や家具に引っかかった」原因によるものが 64 件（44.4%）と最も多く、次いで「端を踏んだ」原因によるものが 33 件（22.9%）、「自転車等の乗物を運転していてからまった」原因によるものが 22 件（15.3%）と続く。

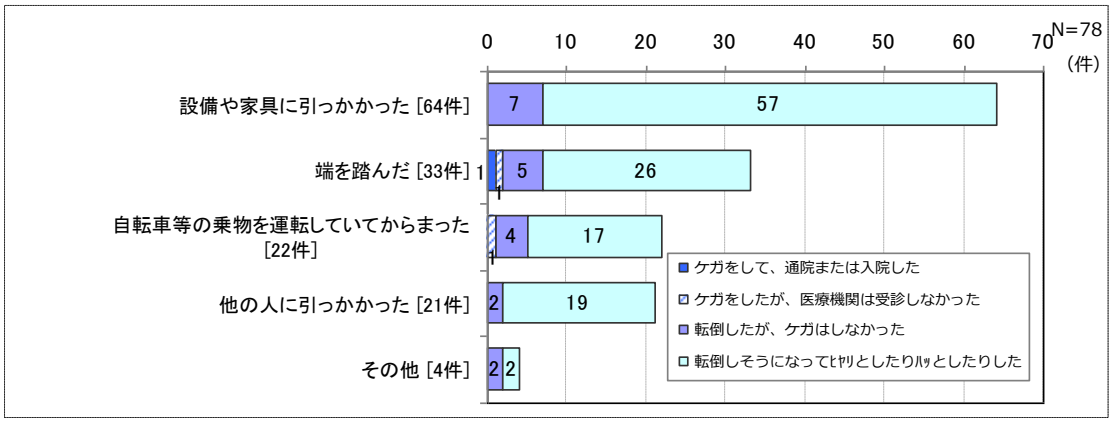


図 2_2_12. マフラー、ストール等を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_2_13 に示す結果となった。「設備や家具に引っかかった」原因によるヒヤリ･ハットや危害の経験 64 件のうち、「家の中」が 37 件（57.8%）、「デパート・公民館等・住宅でない施設内」が 11 件（17.2%）であった。

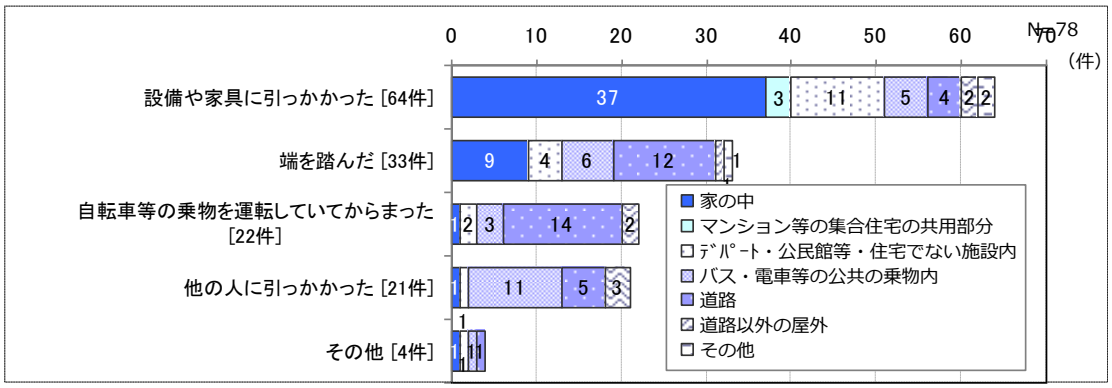


図 2_2_13 ． マフラー、ストール等を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_7 はマフラー、ストール等の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で比較すると、男性が 23 件、女性が 55 件と女性の方が多くのヒヤリ･ハットや危害を経験している。

年代別に見ると、男性においては年代別の差があまり見られないのに対し、女性においては年代が若くなるほど多くのヒヤリ･ハットや危害を経験していることがうかがえる。

表 2_2_7. ﾏﾌﾗｰ、ｽﾄｰﾙ等を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	設備や家具に引っかかった（件）	端を踏んだ（件）	自転車等の乗物を運転していてからまった（件）	他の人に引っかかった（件）	その他（件）
【全　　体】	78	64	33	22	21	4
【男女・年代別】						
男性	23	15	11	9	7	2
60 代前半	6	4	3	3	1	0
60 代後半	9	7	4	5	5	1
70 代前半	4	2	1	0	1	0
70 代後半	2	1	2	1	0	0
80 代以上	2	1	1	0	0	1
女性	55	49	22	13	14	2
60 代前半	18	18	6	4	6	0
60 代後半	15	13	7	3	6	1
70 代前半	13	12	6	6	2	1
70 代後半	5	3	2	0	0	0
80 代以上	4	3	1	0	0	0

⑦着物を着用していたことによる転倒

図 2_2_14 は着物を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。着物を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 26 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 43 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 43 件のうち、「すそを踏んだ」原因によるものが 20 件と最も多く、次いで「服が足にからまった」原因によるものが 11 件と続く。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースはなかった。

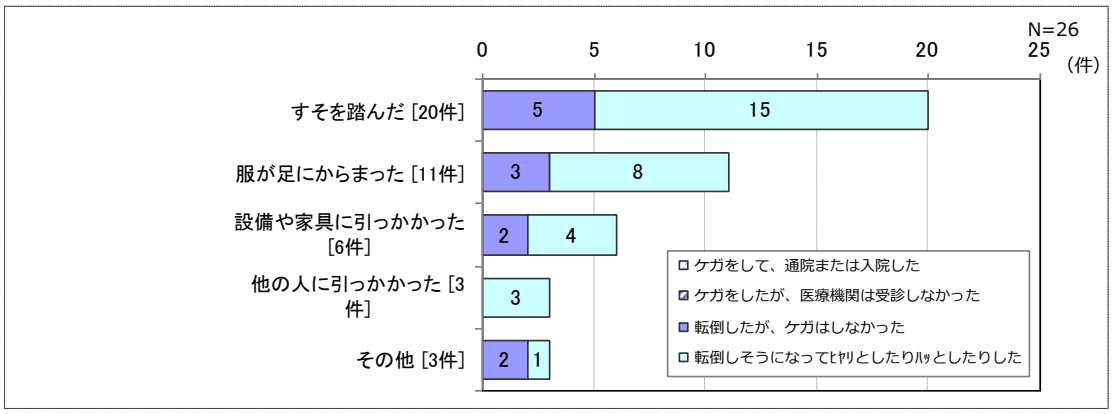


図 2_2_14 ． 着物を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_2_15 に示す結果となった。「すそを踏んだ」原因によるヒヤリ･ハットや危害経験 20 件のうち、13 件が「家の中」で発生していた。

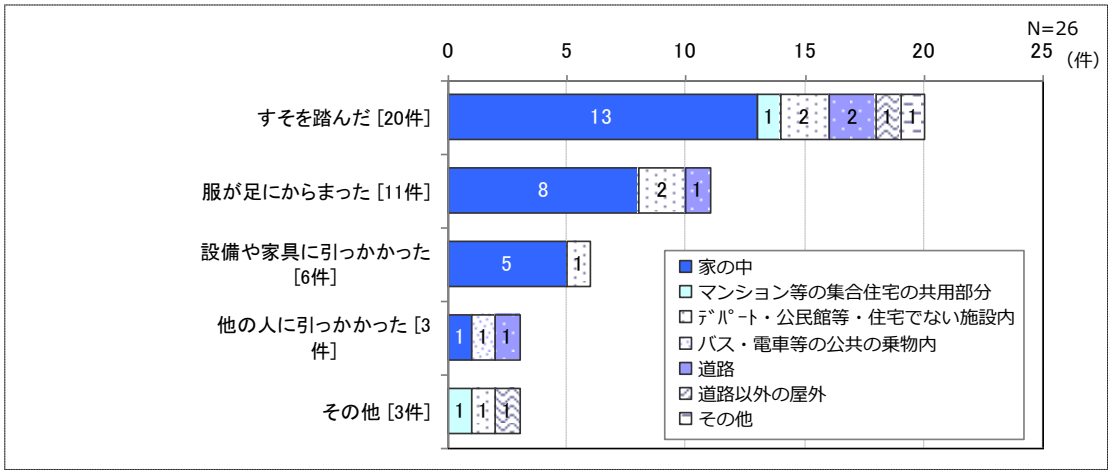


図 2_2_15. 着物を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_2_8 は着物の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で比較すると、男性が 6 件、女性が 20 件と女性の方が多くのヒヤリ･ハットや危害を経験している。

年代別では特に大きな差は見られない。

表 2_2_8. 着物を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	すそを踏んだ（件）	服が足にからまった（件）	設備や家具に引っかかった（件）	他の人に引っかかった（件）	その他（件）
【全　　体】	26	20	11	6	3	3
【男女・年代別】						
男性	6	6	1	1	1	1
60 代前半	1	1	0	0	0	0
60 代後半	1	1	1	1	1	0
70 代前半	1	1	0	0	0	0
70 代後半	3	3	0	0	0	1
80 代以上	0	0	0	0	0	0
女性	20	14	10	5	2	2
60 代前半	1	1	0	0	0	0
60 代後半	5	4	1	1	1	2
70 代前半	6	4	4	1	1	0
70 代後半	3	2	3	0	0	0
80 代以上	5	3	2	3	0	0

表 2_2_9 は衣服の着用による転倒した経験のうち、最も印象的な事例について男女・年代別にまとめたものである。男女で比較してみると「すそを踏んだ」は女性が 122 件、男性が 82 件と、女性の事例が多い。「上手く着脱できなかった」は男性が 94 件、女性が 50 件と、男性の事例が多く見られた。

図表 2_2_9. 衣服を着ていたことによる転倒〔具体事例×男女・年代別〕

		件数	すそを踏んだ	絡まった	引っ掛かった	上手く着脱できなかった	その他
【全　　体】		614	204	132	107	144	27
【男女・年代別】							
男性		301	82	62	50	94	13
	60 代前半	85	23	21	14	27	0
	60 代後半	74	14	22	12	25	1
	70 代前半	55	17	5	12	19	2
	70 代後半	37	10	4	6	9	8
	80 代以上	50	18	10	6	14	2
女性		313	122	70	57	50	14
	60 代前半	82	32	23	16	9	2
	60 代後半	67	25	16	15	9	2
	70 代前半	62	25	16	7	10	4
	70 代後半	45	16	10	7	10	2
	80 代以上	57	24	5	12	12	4

表 2_2_10. 衣服を着用していたことによる転倒〔最も印象的な事例の具体的な内容例〕

項目		衣服種類	内容	回答者
1	すそを踏んだ	ズボン	駅で電車に乗ろうと改札から駈け出したところ、すそを踏んでしまい前のめりに転倒した。ガネがホームに当たって壊れ、顔に強く当たり顔が少し切れた。	60 代男性
2	すそを踏んだ	ズボン	自宅で掃除をしている時、すそを踏んで転倒してしまい、肩を打った。病院で湿布薬をもらって、1 ヶ月通院した。	70 代女性
3	すそを踏んだ	ズボン	建物の入口で、ズボンのすそを踏んで、つまずいて転んだ。怪我は擦り傷程度で、大事には至らなかった。	80 代女性
4	すそを踏んだ	ｽｶｰﾄ（くるぶし丈）	階段を上るとき、すそを踏んで前に転んで手をついた。	70 代女性
5	すそを踏んだ	パジャマ等の寝間着	夜中にトイレに行こうとしてパジャマのすそを踏み、タンスの角に額をぶつけ出血し、病院に行った。	70 代男性
6	すそを踏んだ	パジャマ等の寝間着	寒がりなので長めのガウンを使用している。ベッドから出てガウンを着てトイレに行こうとした際にすそを踏み転倒しそうになった。	80 代女性
7	すそを踏んだ	パジャマ等の寝間着	起床後、リビングに入るときに、ズボンのすそを踏んで転倒。支えた手を骨折して2週間入院した。	90 代男性
8	すそを踏んだ	マフラー、ストール等	道路でマフラーを引きずっているのに気付かず、踏んで転倒した。救急車で運ばれ、入院した。	70 代女性
9	絡まった	ズボン	自転車のチェーンにズボンのすそが絡まり、バランスを崩して転倒し、手の小指を骨折した。	60 代男性
10	絡まった	ズボン	自転車に乗り土手の坂道を登る時、すそがペダルに引っ掛かり転倒。頭を打ったので、念のため病院へ行き、頭部の MRI 検査を受けた。	90 代男性
11	絡まった	ズボン	自転車に乗っていた時、ズボンのすそが自転車の後輪に絡まってしまい転倒した。	70 代女性
12	絡まった	ズボン	自転車に引っ掛かり、慌てて取ろうとした際に転倒した。右手をついて痛むので、受診したところ骨折と診断され、ギブスをはめて 1 か月程度リハビリの為に通院した。	70 代女性
13	引っ掛かった	ズボン	すその紐が家具の角に引っかかり転倒。背中を負傷し、動けなくなったため、救急車で整形外科に搬送。5か月経過したが、いまだに完治せず背中が痛い。	60 代女性
14	引っ掛かった	上衣	体重計をどかそうとして屈んだときに、電気マッサージ椅子にセーターが引っかかり転倒。頭部を打撲した。	80 代女性
15	上手く着脱できなかった	ズボン	ズボンを脱ぐ時、左の足で体を支え切らずに転倒して左の肩を打った。打撲で2週間ほど通院した。	70 代男性
16	上手く着脱できなかった	ズボン	ズボンを脱いだときにすそが内側に折り返っていたが、そのまま履いたために、上手く履けずに転倒し、腰を打って骨折した。	70 代男性
17	上手く着脱できなかった	ズボン	着替えの時にズボンを脱ごうとして絡まり、転倒して頭を切った。救急車で病院へ搬送され、数針縫った。	80 代男性
18	上手く着脱できなかった	ズボン	自宅でズボンをはく際にバランスを崩して転倒。こたつの角にアバラ骨を強打し骨折、通院した。	80 代女性

図 2_2_16 は衣服を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験のうち、最も印象に残った事例が生じたと思われる理由について自由記述されたものを分類した結果である。「服や着方に問題があった」が 208 件（33.9%）と最も多く、「老化による体力、脚力等の衰え」が 149 件（24.3%）と続く。

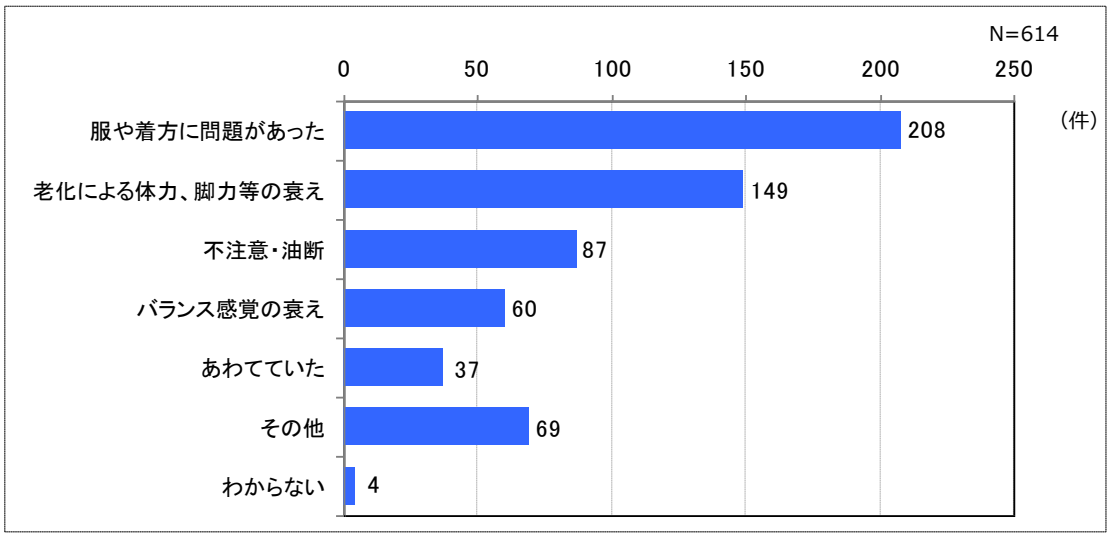


図 2_2_16. 衣服を着用していたことによる転倒〔理由〕

表 2_2_10.衣服を着用していたことによる転倒〔理由〕

項目		衣服種類	事例	理由	回答者
1	服や着方に問題があった	ズボン	自転車等の乗物を運転していてからまった	風でズボンのすそがギアに触れて、かみあわせの中に入ってしまったから。	60 代男性
2	服や着方に問題があった	ズボン	自転車等の乗物を運転していてからまった	坂道の下り坂を自転車で下っていて、スピードがついたはずみで、ズボンのすそが自転車の後輪に絡まって転倒してしまった。	70 代女性
3	服や着方に問題があった	ズボン	着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した	若い時と比べて足さばきが悪くなっていること、ズボンをはくときにちゃんとまっすぐに整えられてなかった。	70 代女性
4	服や着方に問題があった	スカート、ワンピース(膝下 10㎝以上)	すそを踏んだ	年齢とともに痩せて身長が縮み、身だしなみを気にせずベルトをしっかり締めないため。	80 代女性
5	服や着方に問題があった	パジャマ等の寝間着	すそを踏んだ	やせて腰周りがゆるくなって、すそ引きずったせいである。	80 代男性
6	老化による体力、脚力等の衰え	ズボン	その他	若い時と比べ、体の柔軟性がなくなり体勢が崩れると立て直しが出来ないため転倒した。	70 代男性
7	老化による体力、脚力等の衰え	ズボン	すそを踏んだ	年齢のためか足が思うようにあげられない。	80 代女性
8	老化による体力、脚力等の衰え	パジャマ等の寝間着	着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した	若いときよりも脚が上がりにくくなっていることと、パジャマの脚の部分が長すぎたせいだと思う。	60 代男性
9	老化による体力、脚力等の衰え	パジャマ等の寝間着	着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した	布団の上でバランスが悪かったこと。足を上げているつもりが思うほど上がっておらず引っかかってしまった。	70 代女性
10	不注意・油断	上衣	設備や家具に引っかかった	車から降りる際の不注意で、上着のファスナーを開けたままだったので、ドアに引っ掛かりやすい状態だった。	60 代男性
11	不注意・油断	パジャマ等の寝間着	すそを踏んだ	寝起きのせいで、パジャマが下がり気味になっていたので、踏んでしまった。幸いなことに、手で防御して倒れるのを防いだ。	60 代男性
12	バランス感覚の衰え	ズボン	着脱の際に衣服にからまった、バランスを崩した	加齢によって足腰が弱くなったので、ちょっとした加減でバランスを崩してしまった。	70 代女性
13	あわてていた	上衣	設備や家具に引っかかった	ドアが開ききっておらず、急いで通り抜ける際にヒラヒラしている折り返しの袋の部分が偶然にも引っかかった。	60 代男性

（3）履物を着用していたことによる転倒

①履物によるヒヤリ・ハットや危害経験

図 2_3_1 は履物を着用していたことで転倒した、またはしそうになった際に着用していた履物種類をまとめた結果である。履物を着用していたことで転倒した、またはしそうになったと回答した人数は 1,234 人、回答されたヒヤリ・ハットや危害経験は 3,382 件であった。

そのうち、ヒヤリ・ハットや危害経験が最も多く発生していた履物は「サンダル（つっかけ）」で 490 人（39.7%）となり、ヒヤリ・ハットや危害件数は 1,087 件（32.1%）である。次いで「スリッパ等室内履き」が 384 人（31.1%）で 805 件（23.8%）であった。

「ケガをして、通院・入院した」という医療機関を受診したケースは「サンダル（つっかけ）」が 33 件で最も多く、次いで「ヒールのついた靴、革靴等」が 21 件、「ウォーキングシューズ」が 19 件、「スリッパ等室内履き」が 15 件と続く。

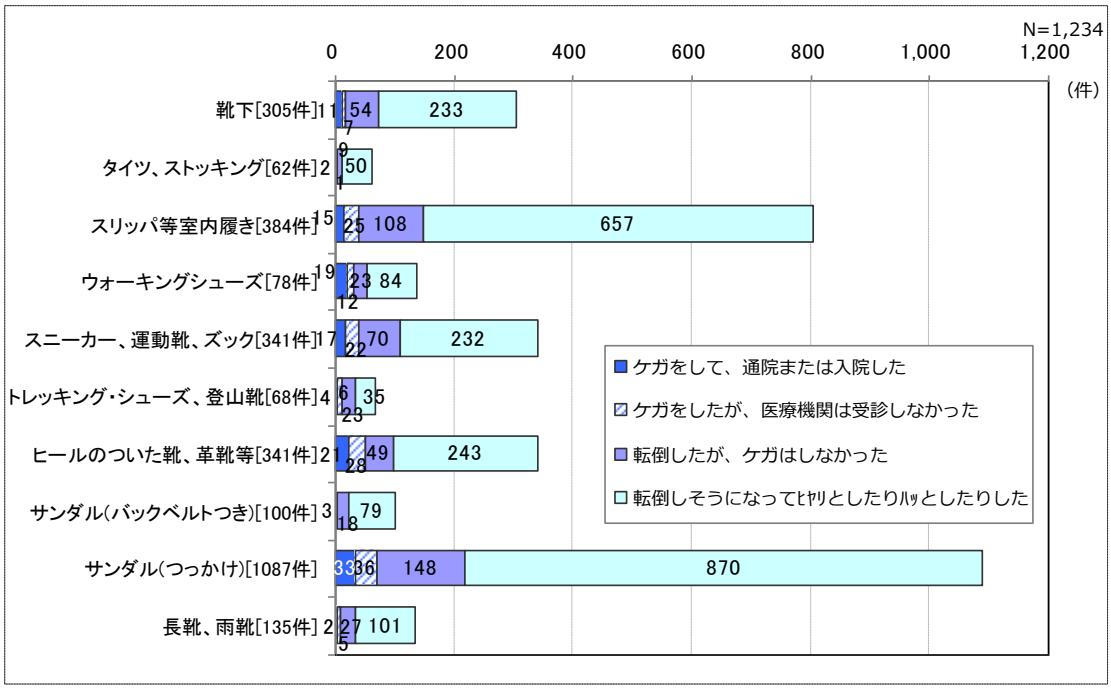


図 2_3_1. 履物を着用していたことによる転倒〔履物種類別〕【複数回答】

表 2_3_1 は履物を着用していたことによるヒヤリ･ハットや危害経験について、履物の種類別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男性、女性ともに「サンダル（つっかけ)」によるヒヤリ・ハットや危害経験が多く見られる。

女性の場合、「ヒールのついた靴、革靴等」で男性が 90 件に対し、女性が 251 件と女性のヒヤリ・ハットや危害経験の中ではサンダル（つっかけ)、スリッパ等室内履きに次いで多く見られる。

年代別に見ると、男性、女性ともに 60 代前半～70 代前半は 70 代後半や 80 代以上の世代と比べると、履物を着用していた事によるヒヤリ･ハットや危害の経験が多くなっている。

表 2_3_1. 履物を着用していたことによる転倒〔履物種類×男女･年代別〕【複数回答】

		N数	靴下 (件)	タイツ、ストッキング (件)	スリッパ等室内履き (件)	ウォーキングシューズ (件)	スニーカー、運動靴、ズック (件)	トレッキング・シューズ、登山靴 (件)	ヒールのついた靴、革靴等 (件)	サンダル（バックベルトつき） (件)	サンダル（つっかけ） (件)	長靴、雨靴 (件)
【全　　体】		1,234	305	62	805	138	341	68	341	100	1,087	135
【男女・年代別】												
男性		627	157	13	368	83	188	49	90	43	593	75
	60 代前半	165	58	3	89	22	64	11	35	14	140	22
	60 代後半	139	29	5	82	18	43	9	16	10	104	11
	70 代前半	123	26	3	83	13	30	14	16	10	128	12
	70 代後半	100	20	2	54	14	28	10	12	2	117	12
	80 代以上	100	24	0	60	16	23	5	11	7	104	18
女性		607	148	49	437	55	153	19	251	57	494	60
	60 代前半	136	36	11	90	10	36	2	90	17	106	15
	60 代後半	140	21	8	97	13	23	3	58	19	91	17
	70 代前半	130	33	18	96	1	40	8	56	8	120	13
	70 代後半	98	18	6	72	10	19	6	32	10	99	8
	80 代以上	103	40	6	82	21	35	0	15	3	78	7

①靴下を着用していたことによる転倒

図 2_3_2 は靴下を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。靴下を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 216 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 305 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 305 件のうち、「滑った」原因によるものが 185 件（60.7%）と最も多く 6 割を超えた。次いで「つまずいた」原因によるものが 74 件（24.3%）であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因において 9 件あった。

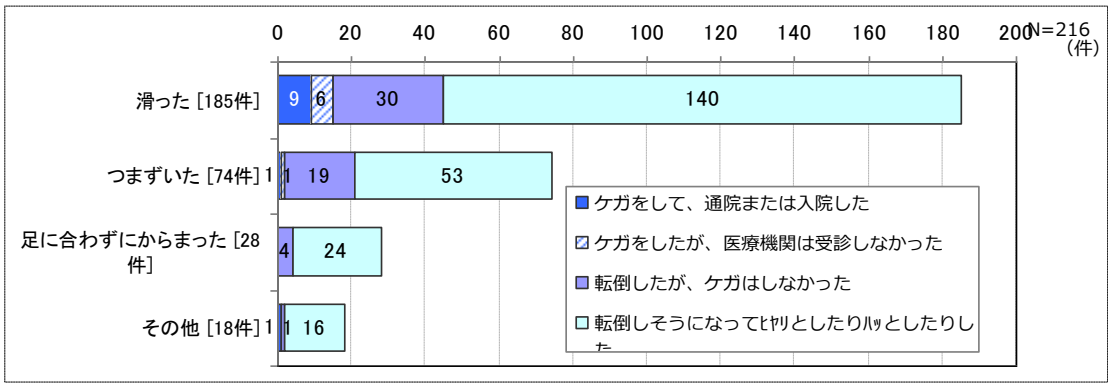


図 2_3_2. 靴下を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_3 に示す結果となった。いずれの原因においても「家の中」が最も多く、靴下を着用していたことによるヒヤリ･ハットや危害経験全 305 件のうち、298 件（97.7%）が「家の中」で起きていた。

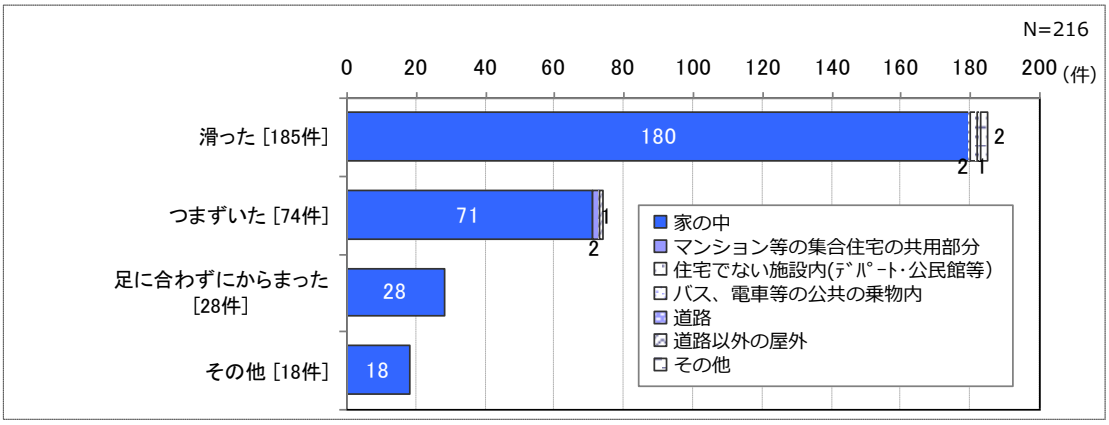


図 2_3_3. 靴下を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_2 は靴下の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別に見ると、特に大きな差異は見られない。年代別では、男性の 60 代前半にヒヤリ・ハットや危害経験が多く見られた。

表 2_3_2. 靴下を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	滑った（件）	つまずいた（件）	足に合わずにからまった（件）	その他（件）
【全　　体】	216	185	74	28	18
【男女・年代別】					
男性	114	92	36	16	13
60 代前半	37	31	16	9	2
60 代後半	25	17	4	3	5
70 代前半	18	13	8	2	3
70 代後半	15	15	3	2	0
80 代以上	19	16	5	0	3
女性	102	93	38	12	5
60 代前半	27	24	8	3	1
60 代後半	15	15	5	1	0
70 代前半	22	21	7	4	1
70 代後半	13	11	6	1	0
80 代以上	25	22	12	3	3

②タイツ、ストッキングを着用していたことによる転倒

図 2_3_4 はタイツ、ストッキングを着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。タイツ、ストッキングを着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 40 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 62 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 62 件のうち、「滑った」原因によるものが 29 件と最も多く、次いで「つまずいた」原因によるものが 19 件であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」および「その他」においてそれぞれ 1 件ずつであった。

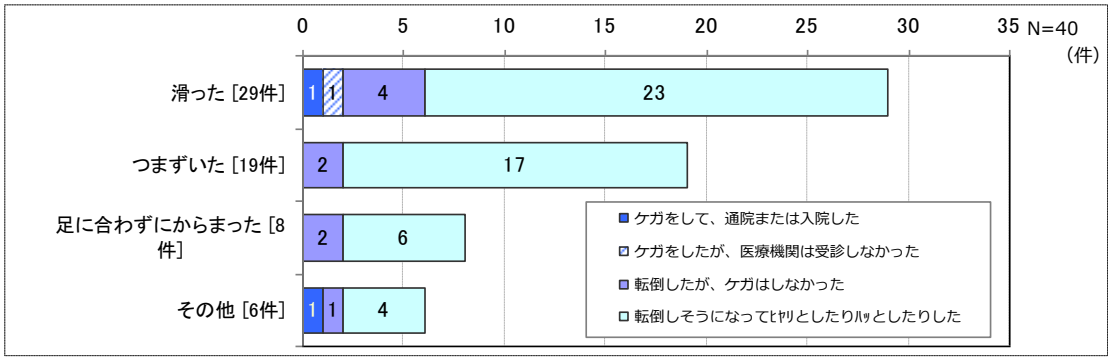


図 2_3_4 ． タイツ、ストッキングを着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_5 に示す結果となった。タイツ、ストッキングを着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験数 62 件のうち、61 件（98.4%）が「家の中」で起きていた。

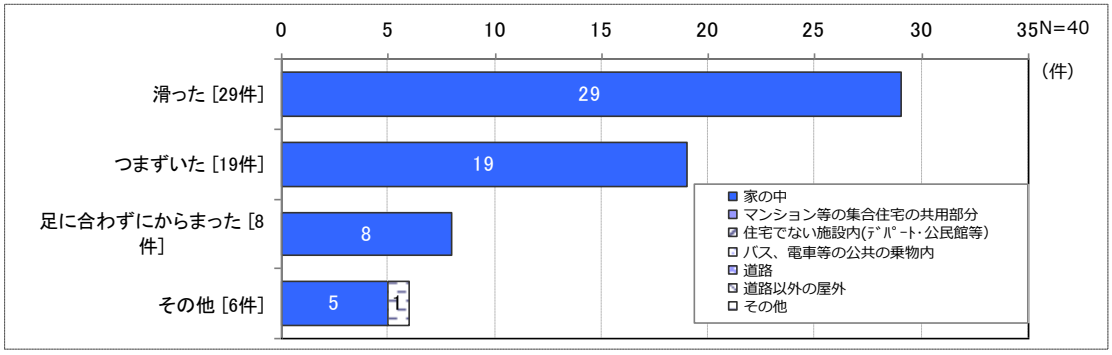


図 2_3_5 ． タイツ、ストッキングを着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_3 はタイツ、ストッキングの着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 8 件、女性が 32 件である。また女性を年代別で見ると 70 代前半において他の年代よりも多くの経験が報告された。

表 2_3_3. ﾀｲﾂ、ｽﾄｯｷﾝｸﾞを着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	滑った（件）	つまずいた（件）	足に合わずにからまった（件）	その他（件）
【全　　体】	40	29	19	8	6
【男女・年代別】					
男性	8	5	5	1	2
60 代前半	1	1	1	1	0
60 代後半	4	2	2	0	1
70 代前半	2	1	1	0	1
70 代後半	1	1	1	0	0
80 代以上	0	0	0	0	0
女性	32	24	14	7	4
60 代前半	7	6	3	1	1
60 代後半	5	5	2	1	0
70 代前半	11	9	4	3	2
70 代後半	5	2	2	2	0
80 代以上	4	2	3	0	1

③スリッパ等室内履きを着用していたことによる転倒

図 2_3_6 はスリッパ等室内履きを着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。スリッパ等室内履きを着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 384 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 786 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 786 件のうち、「つまずいた」原因によるものが 279 件（35.5%）と最も多く、次いで「滑った」原因によるものが 245 件（31.2%）、「脱げた」原因によるものが 210 件（26.7%）と続く。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因において 9 件、「つまずいた」原因において 5 件あった。

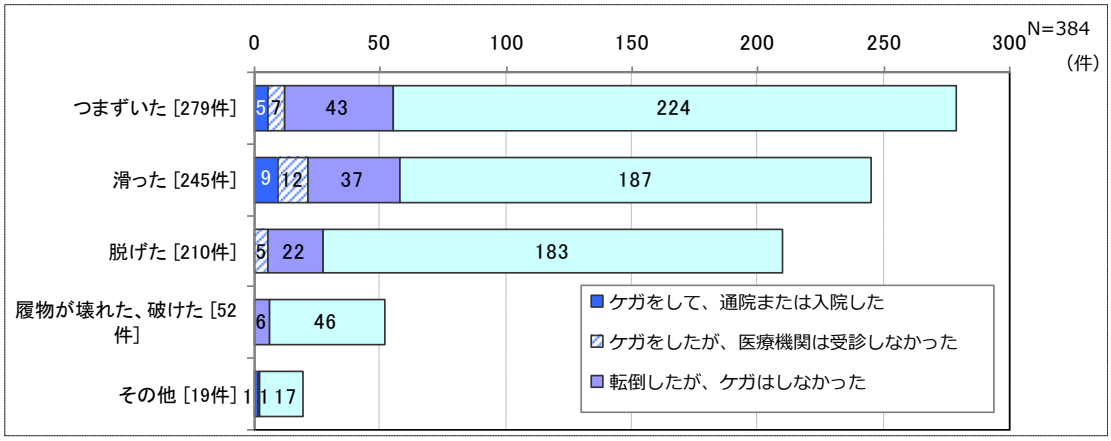


図 2_3_6 ． スリッパ等室内履きを着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_7 に示す結果となった。いずれの原因においても「家の中」が最も多いが、「住宅でない施設内（デパート・公共施設）」での発生件数も「つまずいた」および「脱げた」原因によって各 12 件、「滑った」原因によって 11 件見られた。

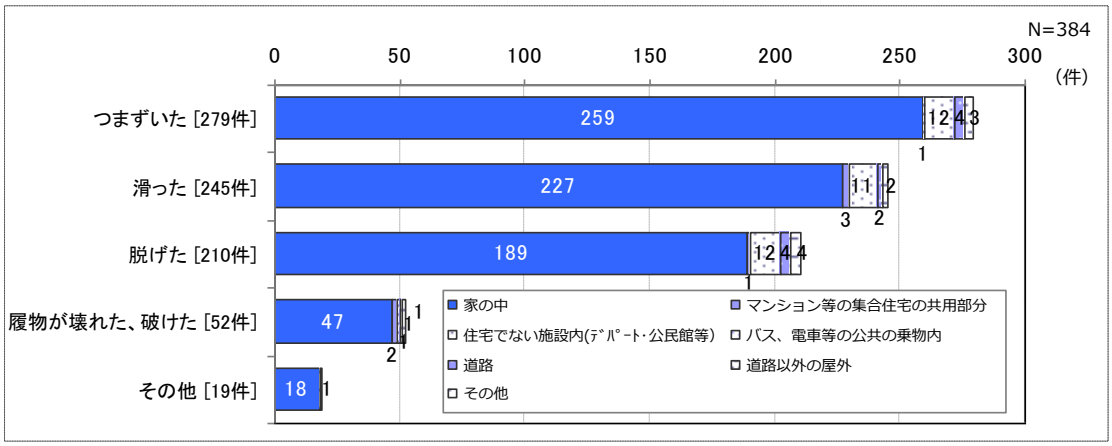


図 2_3_7. スリッパ等室内履きを着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_4 はスリッパ等室内履きの着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 174 件、女性が 210 件と女性の方が多い。

また、年代別に見ると、男性において 60 代前半～70 代前半の発生件数が、70 代後半～80 代以上と比較すると多くなっている。

表 2_3_4. ｽﾘｯﾊﾟ等室内履きを着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	つまずいた（件）	滑った（件）	脱げた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	その他（件）
【全　　体】	384	279	245	210	52	19
【男女・年代別】						
男性	174	126	103	100	27	12
60 代前半	41	32	25	24	6	2
60 代後半	44	28	26	21	4	3
70 代前半	36	29	22	22	6	4
70 代後半	24	17	15	17	4	1
80 代以上	29	20	15	16	7	2
女性	210	153	142	110	25	7
60 代前半	45	27	35	24	3	1
60 代後半	46	32	32	25	7	1
70 代前半	44	32	32	25	4	3
70 代後半	33	27	20	18	7	0
80 代以上	42	35	23	18	4	2

④ウォーキングシューズを着用していたことによる転倒

図 2_3_8 はウォーキングシューズを着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。ウォーキングシューズを着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 78 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 132 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 132 件のうち、「つまずいた」原因によるものが 63 件（47.7%）と最も多く、次いで「滑った」原因によるものが 54 件（40.9%）であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「つまずいた」原因において 11 件、「滑った」原因において 6 件あった。

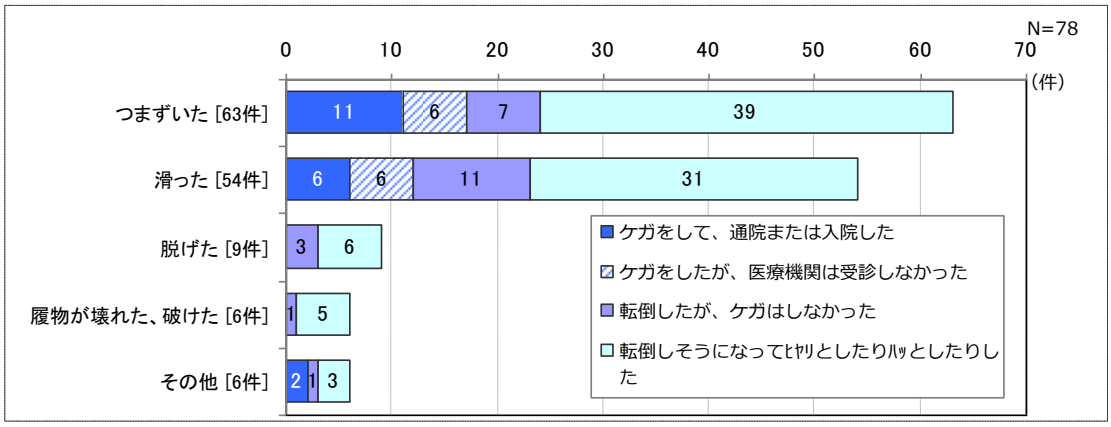


図 2_3_8 ． ウォーキングシューズを着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_9 に示す結果となった。いずれの原因においても「道路」が最も多く、「つまずいた」原因において 43 件、「滑った」原因において 32 件となっていた。

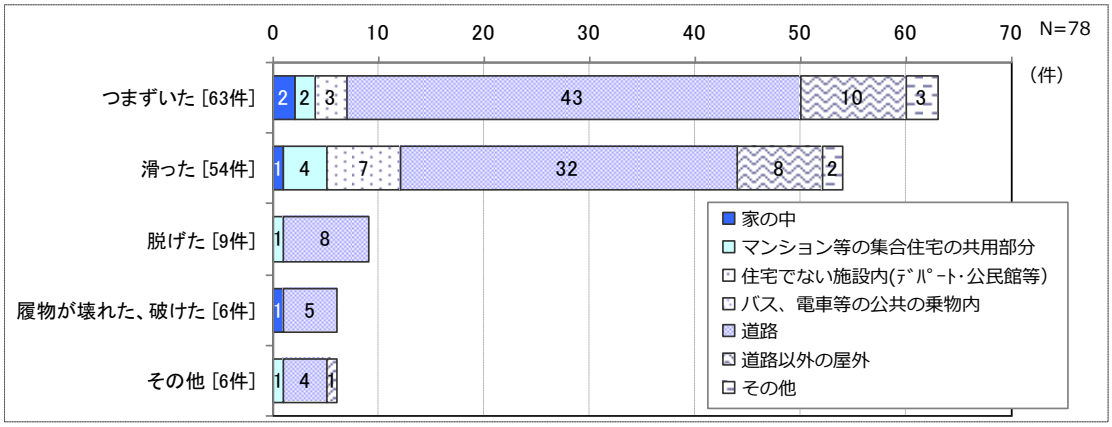


図 2_3_9 ． ウォーキングシューズを着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_5 はウォーキングシューズの着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 47 件、女性が 31 件と男性の方が多い。また、年代別にみると、女性において 80 代以上が他の年代と比較してヒヤリ・ハットや危害を多く経験していた。

表 2_3_5. ｳｫｰｷﾝｸﾞｼｭｰｽﾞを着用していたことによる転倒〔原因×男女・年代別〕【複数回答】

	N数	つまずいた（件）	滑った（件）	脱げた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	その他（件）
【全　　体】	78	63	54	9	6	6
【男女・年代別】						
男性	47	38	34	5	2	4
60 代前半	9	8	8	3	2	1
60 代後半	12	9	7	1	0	1
70 代前半	9	8	4	0	0	1
70 代後半	8	5	8	0	0	1
80 代以上	9	8	7	1	0	0
女性	31	25	20	4	4	2
60 代前半	7	5	4	0	1	0
60 代後半	7	5	7	1	0	0
70 代前半	1	1	0	0	0	0
70 代後半	5	4	4	1	1	0
80 代以上	11	10	5	2	2	2

⑤スニーカー、運動靴、ズックを着用していたことによる転倒

図 2_3_10 はスニーカー、運動靴、ズックを着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。スニーカー、運動靴、ズックを着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 187 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 328 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 328 件のうち、「つまずいた」原因によるものが 142 件（43.3%）と最も多く、次いで「滑った」原因によるものが 131 件（39.9%）であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因において 8 件、「つまずいた」原因において 7 件あった。

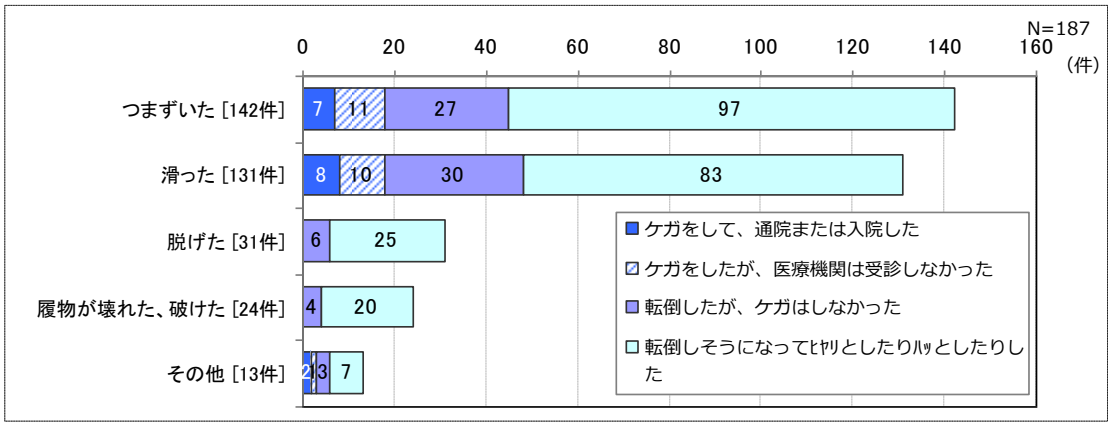


図 2_3_10 ． ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ｽﾞｯｸを着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_11 に示す結果となった。「つまずいた」原因においては「道路」が 89 件、「道路以外の屋外」が 20 件、「住宅でない施設内（デパート・公民館等）」が 11 件と屋内・屋外を問わず様々な場所でヒヤリ･ハットや危害を経験していることが分かった。

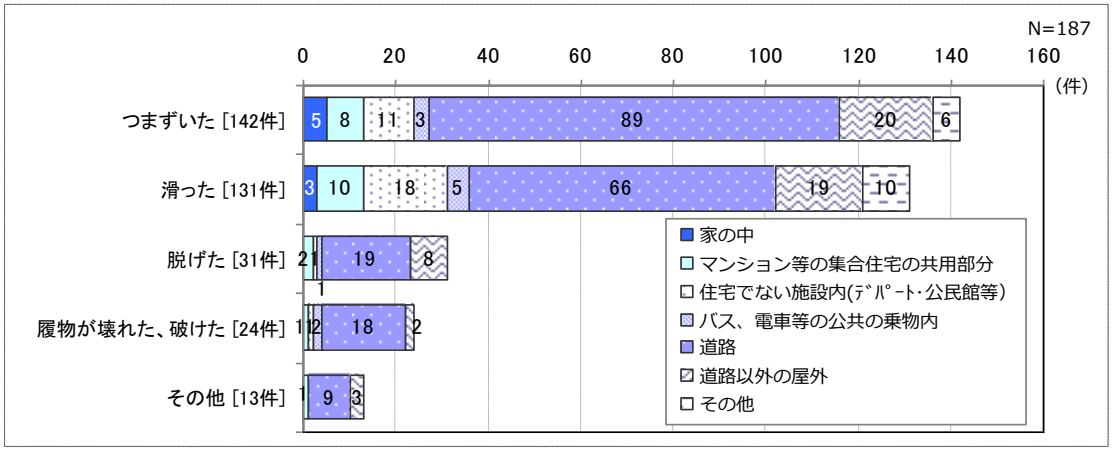


図 2_3_11 ． ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ｽﾞｯｸを着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_6 はスニーカー、運動靴、ズックの着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 105 件、女性が 82 件と男性の方が多く見られる。年代別に見ると特に男性において 60 代前半や 60 代後半等、若い世代の方が多くのヒヤリ･ハットや危害を経験している。

表 2_3_6. ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ｽﾞｯｸを着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	つまずいた（件）	滑った（件）	脱げた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	その他（件）
【全　　体】	187	142	131	31	24	13
【男女・年代別】						
男性	105	73	78	16	12	9
60 代前半	35	27	24	6	4	3
60 代後半	27	15	20	5	2	1
70 代前半	17	12	13	1	2	2
70 代後半	17	12	14	1	1	0
80 代以上	9	7	7	3	3	3
女性	82	69	53	15	12	4
60 代前半	22	17	14	1	2	2
60 代後半	15	11	10	1	0	1
70 代前半	19	16	12	7	4	1
70 代後半	10	9	8	1	1	0
80 代以上	16	16	9	5	5	0

⑥トレッキング・シューズ、登山靴を着用していたことによる転倒

図 2_3_12 はトレッキング・シューズ、登山靴を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。トレッキング・シューズ、登山靴を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 40 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 62 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 62 件のうち、「滑った」原因によるものが 31 件と最も多く、次いで「つまずいた」原因によるものが 27 件となった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因および、「つまずいた」原因においてそれぞれ 2 件あった。

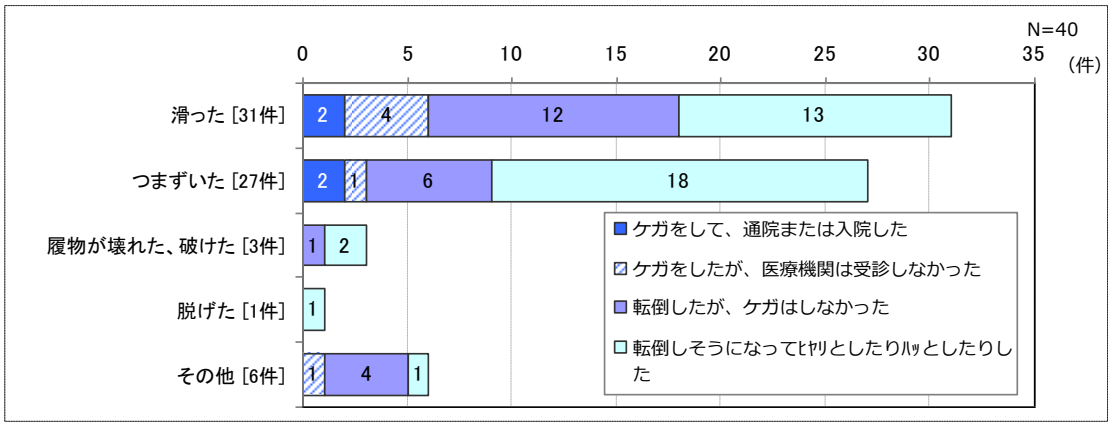


図 2_3_12．ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ･ｼｭｰｽﾞ、登山靴を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_13 に示す結果となった。「滑った」原因および「つまずいた」原因においては「その他」がそれぞれ 15 件、12 件となっており、自由記述によれば、レジャー中の山道等に見られた。

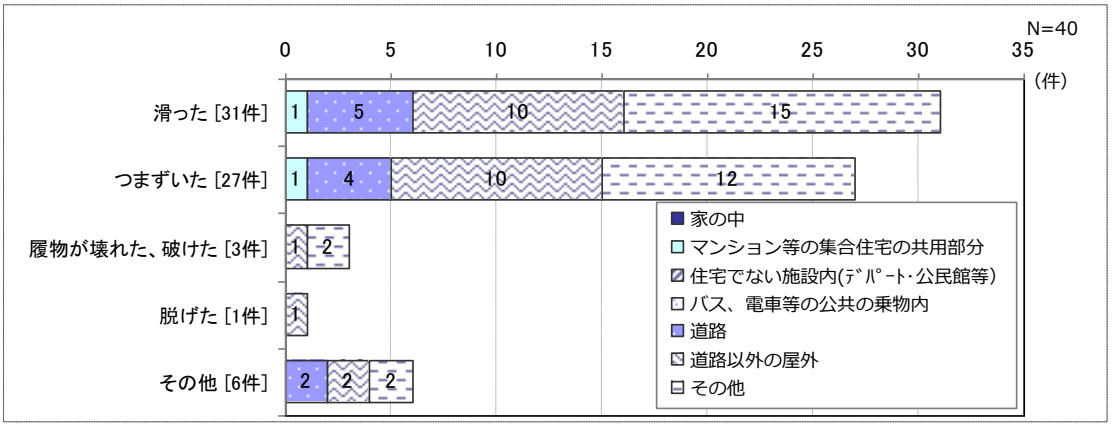


図 2_3_13．ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ･ｼｭｰｽﾞ、登山靴を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_7 はトレッキング・シューズ、登山靴の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 28 件、女性が 12 件と男性が多く見られた。年代別に見ると、女性の 80 代以上においては 0 件と発生していなかったが、それ以外の年代においては大きな差は見られなかった。

表 2_3_7. ﾄﾚｯｷﾝｸﾞ･ｼｭｰｽﾞ、登山靴を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	滑った（件）	つまずいた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	脱げた（件）	その他（件）
【全　　体】	40	31	27	3	1	6
【男女・年代別】						
男性	28	22	20	2	1	4
60 代前半	6	4	5	1	0	1
60 代後半	5	4	3	0	1	1
70 代前半	8	7	7	0	0	0
70 代後半	6	5	4	1	0	0
80 代以上	3	2	1	0	0	2
女性	12	9	7	1	0	2
60 代前半	2	1	0	0	0	1
60 代後半	3	1	1	0	0	1
70 代前半	4	4	3	1	0	0
70 代後半	3	3	3	0	0	0
80 代以上	0	0	0	0	0	0

⑦ヒールのついた靴、革靴等を着用していたことによる転倒

図 2_3_14 はヒールのついた靴、革靴等を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。ヒールのついた靴、革靴等を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 175 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 328 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 328 件のうち、「滑った」原因によるものが 131 件（39.9%）と最も多く、次いで「つまずいた」原因によるものが 117 件（35.7%）であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因において 9 件、「つまずいた」原因において 6 件あった。

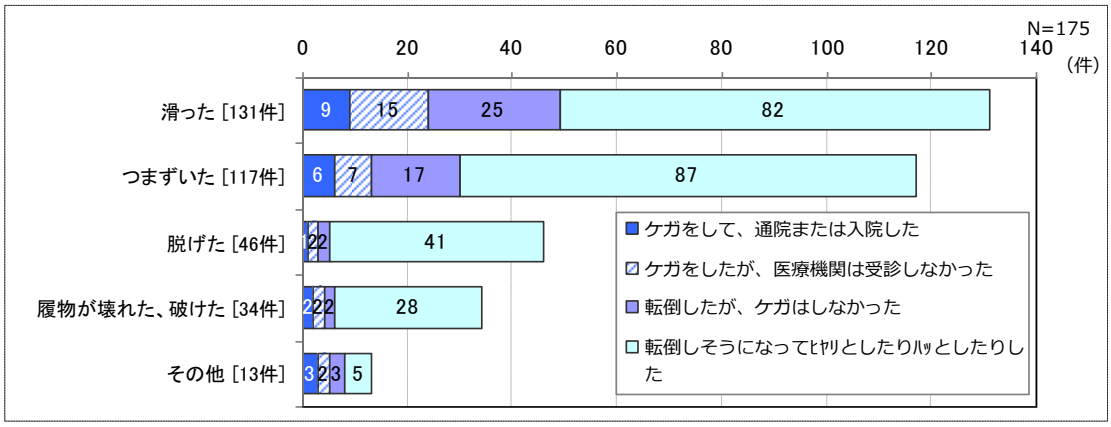


図 2_3_14．ヒールのついた靴、革靴等を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_15 に示す結果となった。いずれの原因においても「道路」が最も多く、「滑った」原因において 83 件、「つまずいた」原因において 78 件となった。

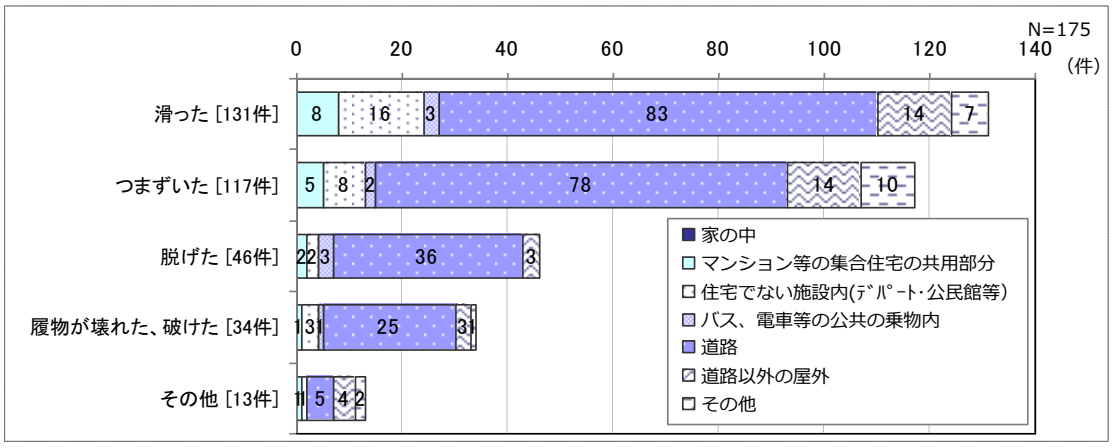


図 2_3_15．ヒールのついた靴、革靴等を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_8 はヒールのついた靴、革靴等の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 57 件、女性が 118 件と女性の方が多くなっている。

年代別に見ると、男性、女性ともに高齢となるほどヒヤリ･ハットや危害の発生数が少なくなる傾向が見られる。

表 2_3_8. ﾋｰﾙのついた靴、革靴等を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	滑った（件）	つまずいた（件）	脱げた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	その他（件）
【全　　体】	175	131	117	46	34	13
【男女・年代別】						
男性	57	49	29	7	4	1
60 代前半	19	18	11	3	3	0
60 代後半	12	10	5	1	0	0
70 代前半	10	8	4	3	1	0
70 代後半	9	8	4	0	0	0
80 代以上	7	5	5	0	0	1
女性	118	82	88	39	30	12
60 代前半	42	32	31	14	10	3
60 代後半	30	19	20	8	8	3
70 代前半	24	14	21	9	8	4
70 代後半	15	10	11	7	2	2
80 代以上	7	7	5	1	2	0

⑧サンダル(バックベルトつき)を着用していたことによる転倒

図 2_3_16 はサンダル(バックベルトつき)を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。サンダル(バックベルトつき)を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 40 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 96 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 96 件のうち、「つまずいた」原因によるものが 32 件（33.3%）と最も多く、次いで「滑った」原因によるものが 24 件（25.0%）、「脱げた」原因によるものが 23 件（24.0%）と続く。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは見られなかった。

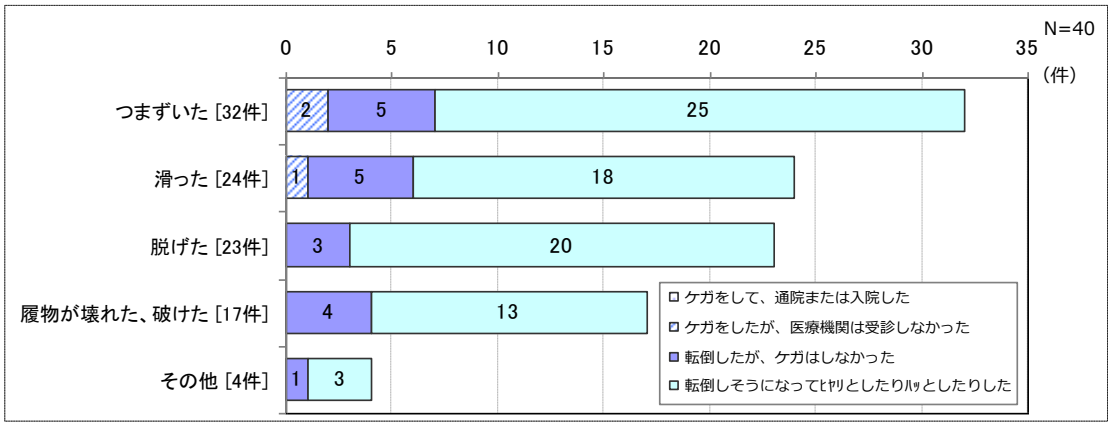


図 2_3_16 ． ｻﾝﾀﾞﾙ(ﾊﾞｯｸﾍﾞﾙﾄつき)を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_17 に示す結果となった。「つまずいた」原因においては「道路」が 15 件と最も多く、次いで「道路以外の屋外」が 8 件、「住宅でない施設内」が 3 件と様々な場所でヒヤリ・ハットや危害が経験されていた。

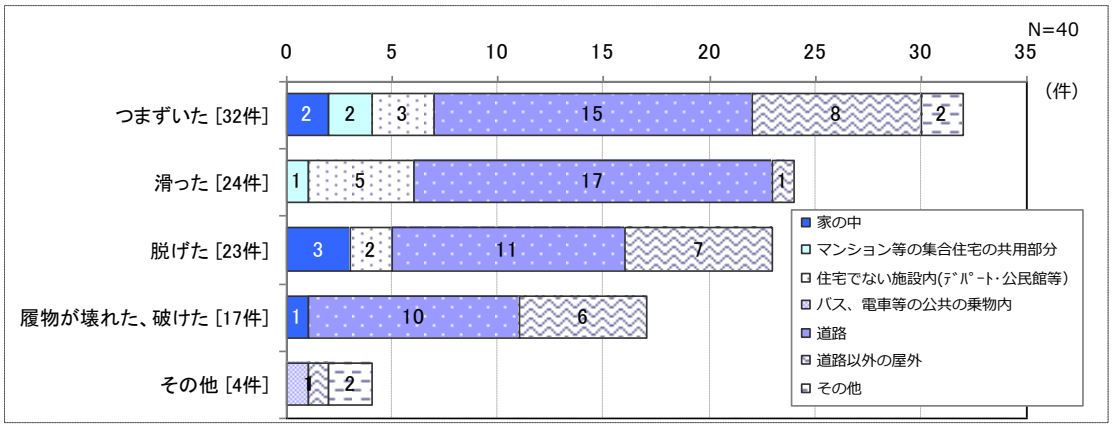


図 2_3_17 ． ｻﾝﾀﾞﾙ(ﾊﾞｯｸﾍﾞﾙﾄつき)を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_9 はサンダル(バックベルトつき)の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性が 15 件、女性が 25 件と女性の方が多くなっている。年代別に見ると特に女性においては年齢が高い程少なくなる傾向が見られたが、男性はあまり差が見られなかつた。

表 2_3_9. ｻﾝﾀﾞﾙ(ﾊﾞｯｸﾍﾞﾙﾄつき)を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	つまずいた（件）	滑った（件）	脱げた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	その他（件）
【全　　体】	40	32	24	23	17	4
【男女・年代別】						
男性	15	12	10	11	9	1
60 代前半	5	4	3	4	3	0
60 代後半	3	2	3	2	2	1
70 代前半	3	3	3	2	2	0
70 代後半	1	1	0	1	0	0
80 代以上	3	2	1	2	2	0
女性	25	20	14	12	8	3
60 代前半	7	6	6	4	1	0
60 代後半	8	7	5	3	3	1
70 代前半	4	3	2	2	1	0
70 代後半	4	3	1	2	2	2
80 代以上	2	1	0	1	1	0

⑨サンダル(つっかけ)を着用していたことによる転倒

図 2_3_18 はサンダル(つっかけ)を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。サンダル(つっかけ)を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 490 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 1,072 件で、履物を着用していたことによる転倒の中で最も多い。

ヒヤリ・ハットや危害経験 1,072 件のうち、「つまずいた」原因によるものが 350 件（32.6%）と最も多く、次いで「滑った」原因によるものが 315 件（29.4%）、「脱げた」原因によるものが 300 件（28.0%）と続く。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因において 12 件、「つまずいた」原因において 11 件あった。

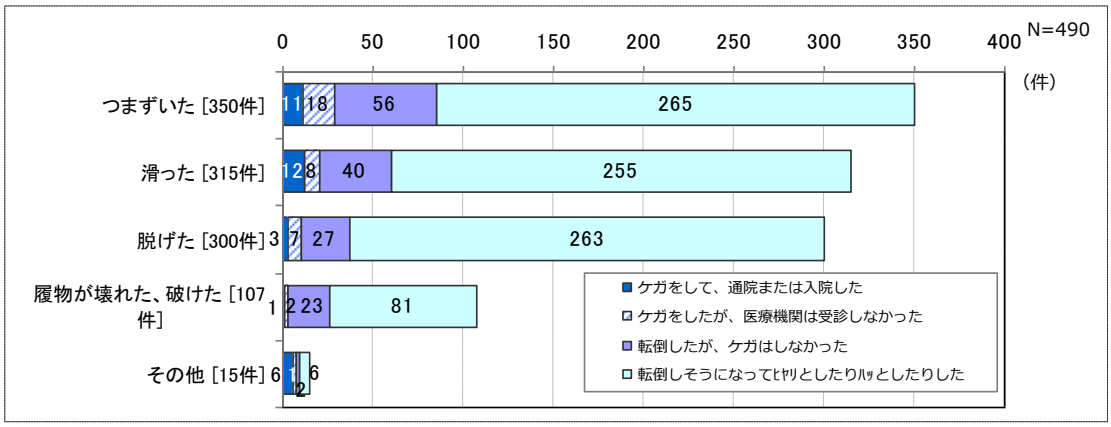


図 2_3_18 ． サンダル(つっかけ)を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_19 に示す結果となった。「つまずいた」原因においては「道路」が 150 件、「道路以外の屋外」が 73 件、「マンション等の集合住宅の共用部分」が 53 件と様々な場所でヒヤリ・ハットや危害が経験されていた。

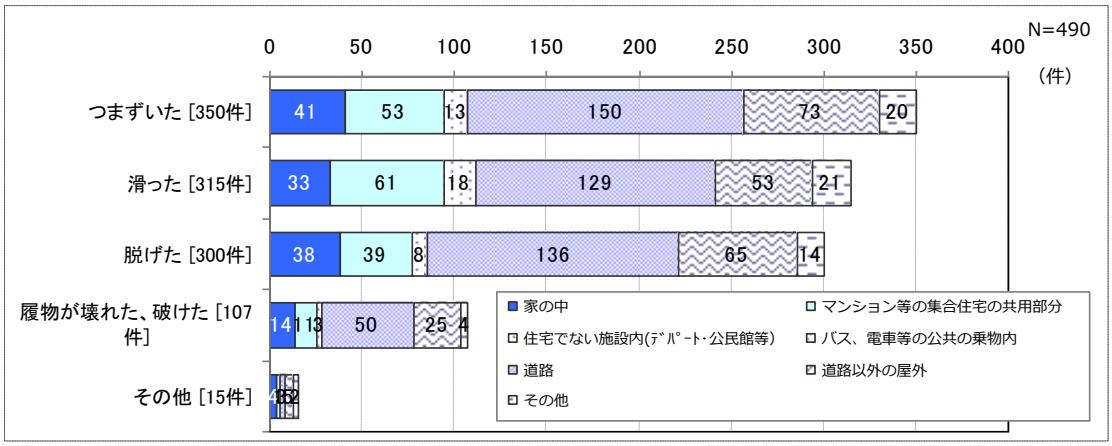


図 2_3_19 ． サンダル(つっかけ)を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_10 はサンダル(つっかけ)の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、経験件数に大きな差異は見られなかった。ヒヤリ・ハットや危害経験の原因として男性においては「滑った」や「脱げた」原因が女性と比較して多く見られた。

年代別に見ると、やや高齢となるにつれて減少する傾向が見られるものの、80 代以上においても男性で 44 件、女性で 37 件とまんべんなく経験者が見られた。

表 2_3_10. ｻﾝﾀﾞﾙ(つっかけ)を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕

【複数回答】

	N数	つまずいた (件)	滑った (件)	脱げた (件)	履物が壊れた、破けた (件)	その他 (件)
【全　　体】	490	350	315	300	107	15
【男女・年代別】						
男性	258	176	182	166	62	7
60 代前半	61	44	41	43	11	1
60 代後半	49	31	34	29	10	0
70 代前半	57	31	44	38	14	1
70 代後半	47	36	35	27	18	1
80 代以上	44	34	28	29	9	4
女性	232	174	133	134	45	8
60 代前半	48	36	33	28	9	0
60 代後半	47	34	24	25	7	1
70 代前半	55	45	28	31	10	6
70 代後半	45	36	29	25	8	1
80 代以上	37	23	19	25	11	0

⑩長靴、雨靴を着用していたことによる転倒

図 2_3_20 は長靴､雨靴を着用していた際のヒヤリ･ハットや危害経験について、その原因ごとに危害程度別の件数をまとめた結果である。長靴、雨靴を着用していた際に、転倒した、またはしそうになったと回答したのは 85 人、ヒヤリ・ハットや危害の経験数は 130 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害経験 130 件のうち、「滑った」原因によるものが 80 件（61.5%）と最も多く 6 割を超えていた。次いで「つまずいた」原因によるものが 35 件（26.9%）であった。

「ケガをして、通院または入院した」という医療機関を受診したケースは「滑った」原因において 2 件あった。

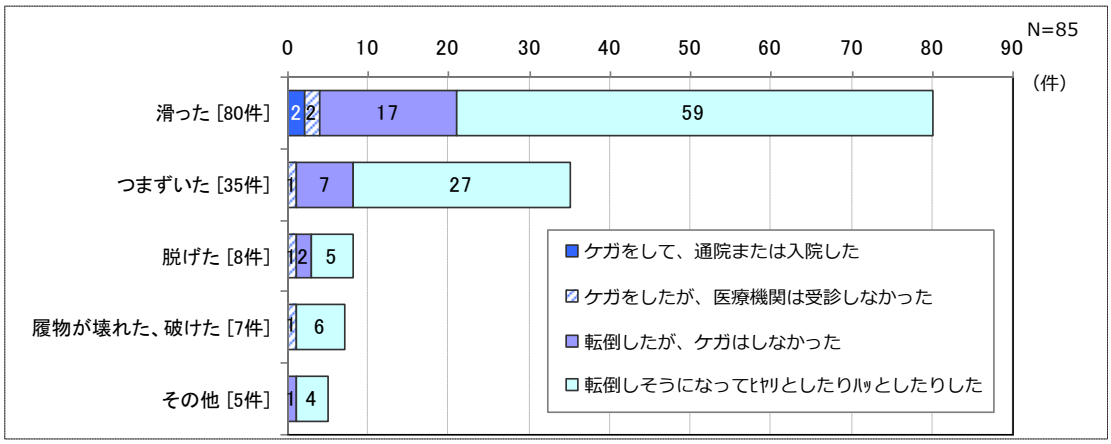


図 2_3_20. 長靴、雨靴を着用していたことによる転倒〔危害程度別〕【複数回答】

転倒した、またはしそうになった原因別にその発生場所についてまとめたところ図 2_3_21 に示す結果となった。いずれの原因においても「道路」が最も多く、「滑った」原因において 51 件、「つまずいた」原因において 22 件となった。

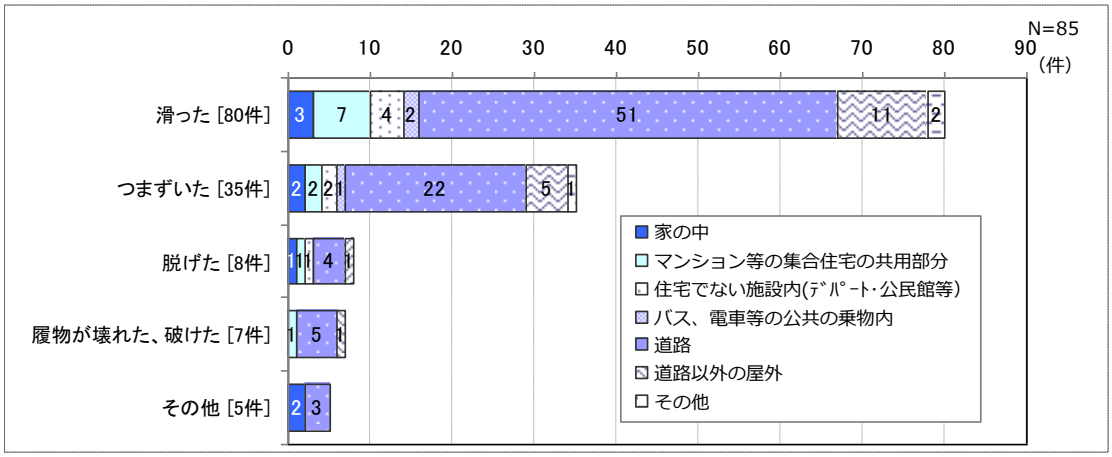


図 2_3_21 ． 長靴、雨靴を着用していたことによる転倒〔発生場所別〕【複数回答】

表 2_3_11 は長靴、雨靴の着用による転倒した、またはしそうになった原因別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で見ると、男性と女性に大きな差異は見られない。年代別に見ると、女性においては年齢が高齢となるにつれて発生数が減少する傾向が見られるのに対し、男性においては 80 代以上で 12 件と比較的多くヒヤリ･ハットや危害が経験されていることが特徴的である。

表 2_3_11. 長靴、雨靴を着用していたことによる転倒〔原因×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	滑った（件）	つまずいた（件）	脱げた（件）	履物が壊れた、破けた（件）	その他（件）
【全　　体】	85	80	35	8	7	5
【男女・年代別】						
男性	44	41	20	4	5	5
60 代前半	12	12	5	2	2	1
60 代後半	6	4	5	1	0	1
70 代前半	7	7	3	1	1	0
70 代後半	7	6	4	0	1	1
80 代以上	12	12	3	0	1	2
女性	41	39	15	4	2	0
60 代前半	10	9	5	1	0	0
60 代後半	10	10	4	2	1	0
70 代前半	10	10	3	0	0	0
70 代後半	7	7	1	0	0	0
80 代以上	4	3	2	1	1	0

表 2_3_12 は履物を履いていたことで転倒・転落した経験のうち、最も印象的な事例について性年代別にまとめたものである。男女で比較してみると「滑った」経験は男性が 338 件、女性が 279 件と男性の事例が多い。一方、「つまずいた」経験は男性が 162 件、女性が 197 件と女性の事例が多く見られた。

年代別に見ると、「つまずいた」事例は女性の 70 代後半より高齢では、「滑った」経験よりも多くなっていた。

表 2_3_12. 履物を履いていたことによる転倒〔具体事例×性年代別〕

	件数	滑った	つまずいた	脱げた	引っ掛かった	履物が壊れた	踏んだ	着脱が上手くできなかった	体勢・バランスを崩した	その他
【全　　体】	1234	622	365	99	36	33	14	30	7	28
【性・年代別】										
男性	627	341	164	48	16	13	12	21	3	9
60 代前半	165	101	38	11	4	2	3	3	2	1
60 代後半	139	77	32	9	5	4	4	7	0	1
70 代前半	121	59	37	11	0	3	2	6	1	2
70 代後半	102	59	24	8	4	2	2	1	0	2
80 代以上	100	45	33	9	3	2	1	4	0	3
女性	607	281	201	51	20	20	2	9	4	19
60 代前半	136	78	31	10	6	3	0	2	1	5
60 代後半	140	69	41	12	5	5	2	3	0	3
70 代前半	130	59	42	17	5	4	0	0	0	3
70 代後半	98	36	43	4	1	6	0	1	1	6
80 代以上	103	39	44	8	3	2	0	3	2	2

表 2_3_13. 履物を着用していたことによる転倒〔具体的な内容〕

項目		履物種類	内容	回答者
1	滑った	スニーカー、運動靴、ズック	雪の降った後で外の階段が凍っていたところを歩いて滑り、唇を切り歯を折った。	60 代男性
2	滑った	サンダル(つっかけ)	雨あがりの鉄骨の階段で滑って階段を数段落ちて、額にこぶをつくった。	60 代女性
3	滑った	靴下	足元が絨毯からフローリングの床に変わったところで靴下が滑り、転倒した。	70 代女性
4	滑った	靴下	フローリングの床を歩いている時、滑って頭を強く打ち、しばらく動けなかった。ただちに病院に行き、精密検査を受けた。	80 代男性
5	滑った	スリッパ等室内履き	玄関でスリッパを履くのと同時に歩こうとして滑りそうになった。	70 代男性
6	つまずいた	サンダル(つっかけ)	5センチほどの段差のある道路で、右足のサンダルがつまずき、小指の付け根の骨が折れて、1ヵ月寝込んだ。	60 代男性
7	つまずいた	ヒールのついた靴、革靴等	道路の側溝につまずいて転び、骨折した。自宅で3ヶ月寝たきりだった。	70 代女性
8	つまずいた	サンダル(つっかけ)	玄関から廊下へ上がろうと　つっかけを脱いだのに脱げておらず、慌てて脱ごうとしたら足が両方上げるような格好になり　尻もちをついて倒れた。	70 代女性
9	つまずいた	ウォーキングシューズ	買い物に行く途中、道路の段差につまずいて転び、肘をついて骨折して10日間入院した。	80 代女性
10	脱げた	サンダル(つっかけ)	サンダルの大きさが合わなかったのか、道路を走っていた時に、サンダルが脱げて飛んでいった。	80 代男性
11	脱げた	スリッパ等室内履き	階段を下りている途中でスリッパが脱げて、慌てて壁に手をつけて転倒や滑り落ちるのを防いだ。	80 代女性
12	体勢・バランスを崩した	スリッパ等室内履き	キッチンで急いで横に移動しようとして、底が引っ掛かり横に倒れ、テーブルの角にぶつかり耳たぶが 2/3 ほど切れて 8 針縫った。	70 代女性
13	体勢・バランスを崩した	サンダル(つっかけ)	サンダルで自転車に乗ろうとした時、浮いたかかと部分を車体に引っ掛けてバランスを失い転倒した。膝をすりむき関節にも痛みが残ったので、3 ヵ月ほど整形外科に通院した。	80 代男性
14	引っ掛かった	ヒールのついた靴、革靴等	タイルの歩道でヒールが挟まり抜けずに折れたため、転んで膝を怪我した。病院に 3 回ほど通院した。	70 代女性
15	引っ掛かった	サンダル(つっかけ)	近所の家の門扉付近で、地面の凹凸に足が引っかかり転倒し、手首を骨折した。	90 代男性
16	履物が壊れた	サンダル(つっかけ)	マンションでサンダル履きで走ったところ、カバー部分が破れ危うく転倒しそうになった。	70 代男性
17	踏んだ	スニーカー、運動靴、ズック	スニーカーの紐が緩んでいて踏んでしまった。転倒した際に、手で防ぐのが遅れたので、膝を地面に強打した。	60 代男性
18	滑った	スニーカー、運動靴、ズック	雪の降った後で外の階段が凍っていたところを歩いて滑り、唇を切り歯を折った。	60 代男性
19	滑った	サンダル(つっかけ)	ベランダの落ち葉を清掃中、湿っていた所に乗った為、滑って尻餅をつき腰を痛めた。2 カ月ほど通院した。	70 代男性

図 2_3_22 は履物を着用していた際のヒヤリ・ハットや危害経験のうち、最も印象に残った事例が生じたと思われる理由について自由記述されたものを分類した結果である。「履物や履き方に問題があった」が 361 件（29.3%）と最も多く、「床・道等が滑りやすかった」が 185 件（15.0%）と続く。

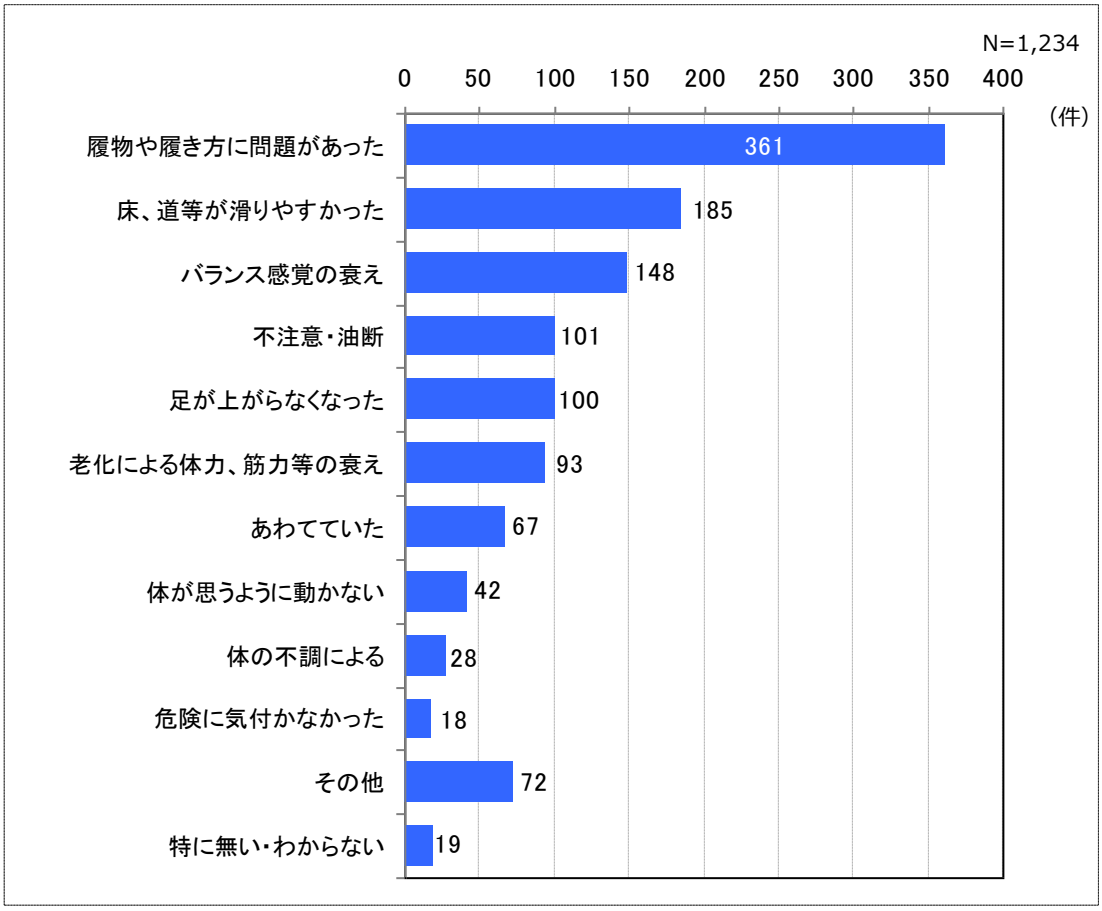


図 2_3_22. 履物を着用していたことによる転倒〔理由〕

表 2_3_13. 履物を着用していたことによる転倒〔理由〕

項目		履物種類	事例	理由	回答者
1	履物や履き方に問題があった	靴下	滑った	階段の角はすべりやすく、厚手の靴下のため感覚がわからずすべってしまった。	60 代男性
2	履物や履き方に問題があった	サンダル（つっかけ）	滑った	雨上がりで、階段がすべりやすかったのと、サンダルの底が磨り減っていた。	60 代女性
3	床、道等が滑りやすかった	ヒールのついた靴、革靴等	滑った	滑るとは思っていなかったが、タイル状の路面だったのと着用していたのが革靴だったため、滑りやすい条件が整ってしまった。	70 代男性
4	床、道等が滑りやすかった	ヒールのついた靴、革靴等	滑った	年齢的に足元が弱くなっているので、雨の日に革靴で坂道は避けるべきだった。	80 代女性
5	バランス感覚の衰え	ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ズック	つまずいた	若いときより身体のバランスが取りにくくなっていた。	60 代男性
6	バランス感覚の衰え	ヒールのついた靴、革靴等	引っ掛かった	ハイヒールは４０年ほどずっと履いているので階段を急いで降りても大丈夫という過信があった。年齢のせいで体のバランスも取りにくくなっていたのだと思う。それ以来階段は手摺を持って降りるようになった。	70 代女性
7	不注意・油断	靴下	滑った	急ぎすぎ足元の注意を怠り、一歩一歩踏みしめて歩かなかったから。若くないのに、注意が足りなかった。	60 代男性
8	不注意・油断	スリッパ等室内履き	滑った	ふだんからすべりやすかったので、注意をしていたが、すべってしまった。	70 代女性
9	足が上がらなくなった	ウォーキングシューズ	つまずいた	自分では十分足を上げて小石を越えたつもりだったが、実際には足が十分上がっていなかった。	70 代男性
10	足が上がらなくなった	ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ズック	つまずいた	若い時より反応が鈍くなっているのと、自分では上げているつもりでも、足が上がっていなくてつまずきやすい。	70 代女性
11	老化による体力、筋力等の衰え	ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ズック	つまずいた	若い頃のように走っていたが、筋力が衰えているためつま先が上がらずちょっとした段差に引っかかってしまう。	60 代男性
12	老化による体力、筋力等の衰え	ヒールのついた靴、革靴等	つまずいた	太ってからと年のせいで運動神経も鈍っている。些細な段差も踏み外すのは運動不足もある。	60 代女性
13	あわてていた	ｽﾆｰｶｰ、運動靴、ズック	滑った	しっかり床を踏みしめていれば良かったのだが、あわててしまった。	70 代男性
14	体が思うように動かない	ウォーキングシューズ	つまずいた	若い時よりも、とっさの危険回避動作が出来なくなっている。	70 代男性
15	体の不調による	ヒールのついた靴、革靴等	つまずいた	歩き疲れていて足が痛かった。	70 代女性
16	危険に気付かなかった	ヒールのついた靴、革靴等	滑った	目が悪く遠近感がなくなり段差を見落とす。	80 代女性

（4）着衣着火

①着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験

図 2_4_1 は着衣着火した、またはしそうになった際に着用していた衣服種類をまとめた結果である。着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験があったと回答したのは 261 人、回答されたヒヤリ･ハットや危害経験は 378 件である。

そのうち、最も多く事故が発生していた衣服は「セーター」で 79 件（30.3%）となり、次いで「フリースのジャケット等の上着」が 47 件（18.0%）、「トレーナー、パーカー」が 41 件（15.7%）と続く。

「やけどをして、通院・入院した」という医療機関を受診したケースは全体で 2 件あり、着用していた衣服は「ズボン」が 1 件、「パジャマ等の寝間着」が 1 件であった。

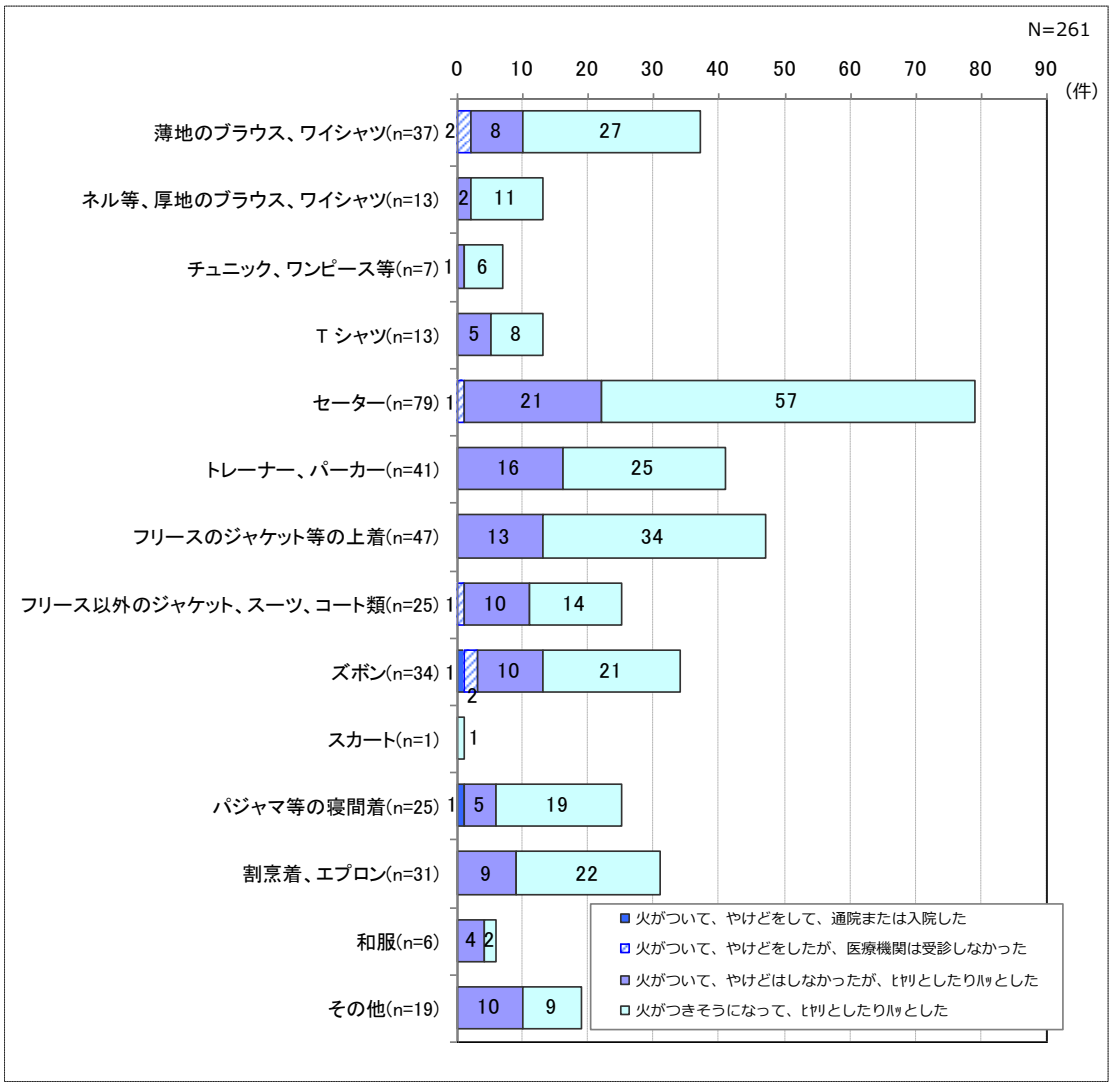


図 2_4_1. 着衣着火〔衣服種類別〕【複数回答】

図 2_4_2 は着衣着火した、またはしそうになった衣服の部位についてまとめた結果である。全体で最も多いのは「腕（袖）」でヒヤリ・ハットや危害経験は 238 件となった。次いで「すそ」が 56 件、「胸、腹」が 42 件と続く。

ヒヤリ・ハットや危害を経験した件数が 79 件と最も多い「セーター」においては、「腕（袖）」が 64 件（81.0%）、「胸、腹」が 7 件（8.9%）であった。

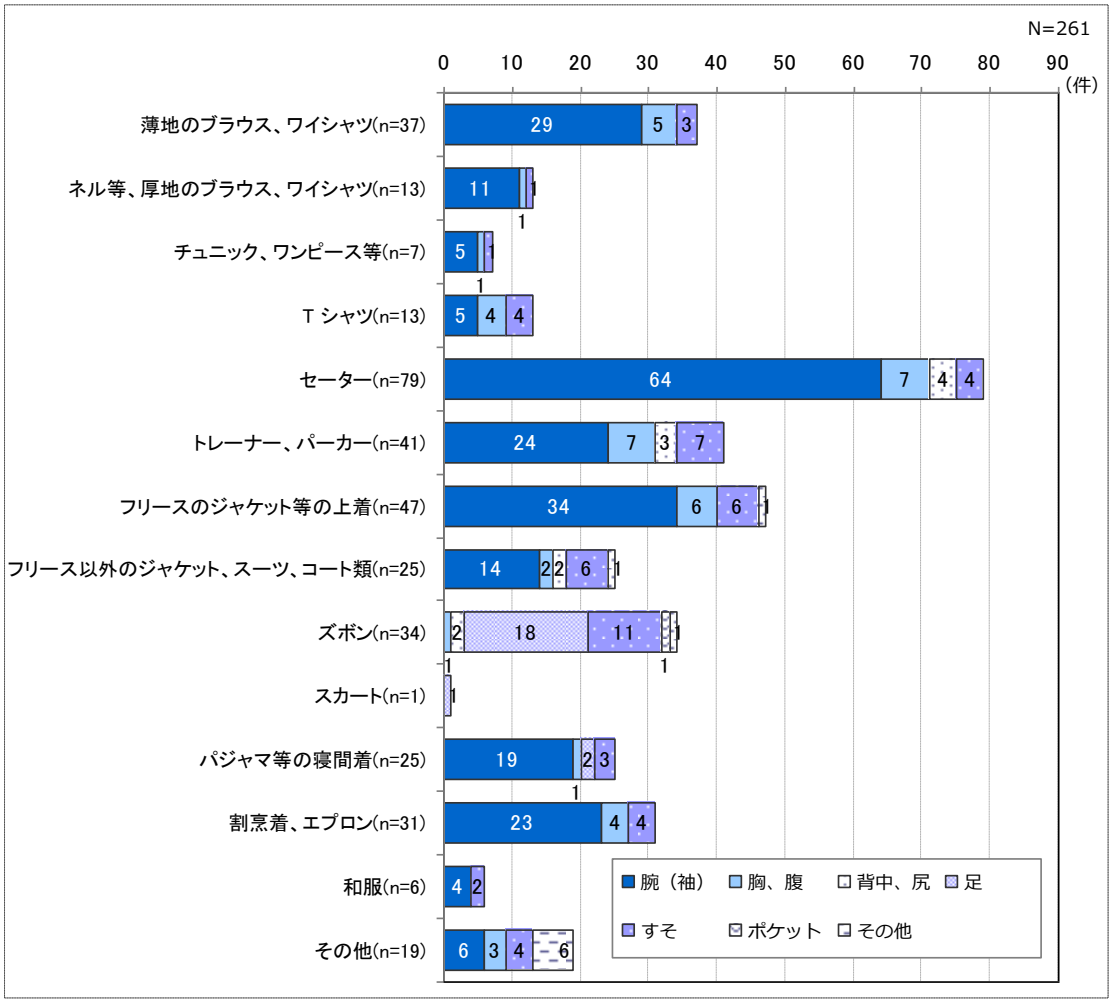


図 2_4_2. 着衣着火〔着火部位別〕【複数回答】

図 2_4_3 は着衣着火した、またはしそうになった際の火の元についてまとめた結果である。全体で最も多いのは「台所のコンロ」でヒヤリ・ハットや危害経験は 233 件となった。次いで「ストーブ」と「たばこ」がそれぞれ 44 件であった。

ヒヤリ・ハットや危害を経験した人数が 79 件と最も多い「セーター」においては、「台所のコンロ」が 61 件（77.2%）、「ストーブ」が 7 件（8.9%）であった。

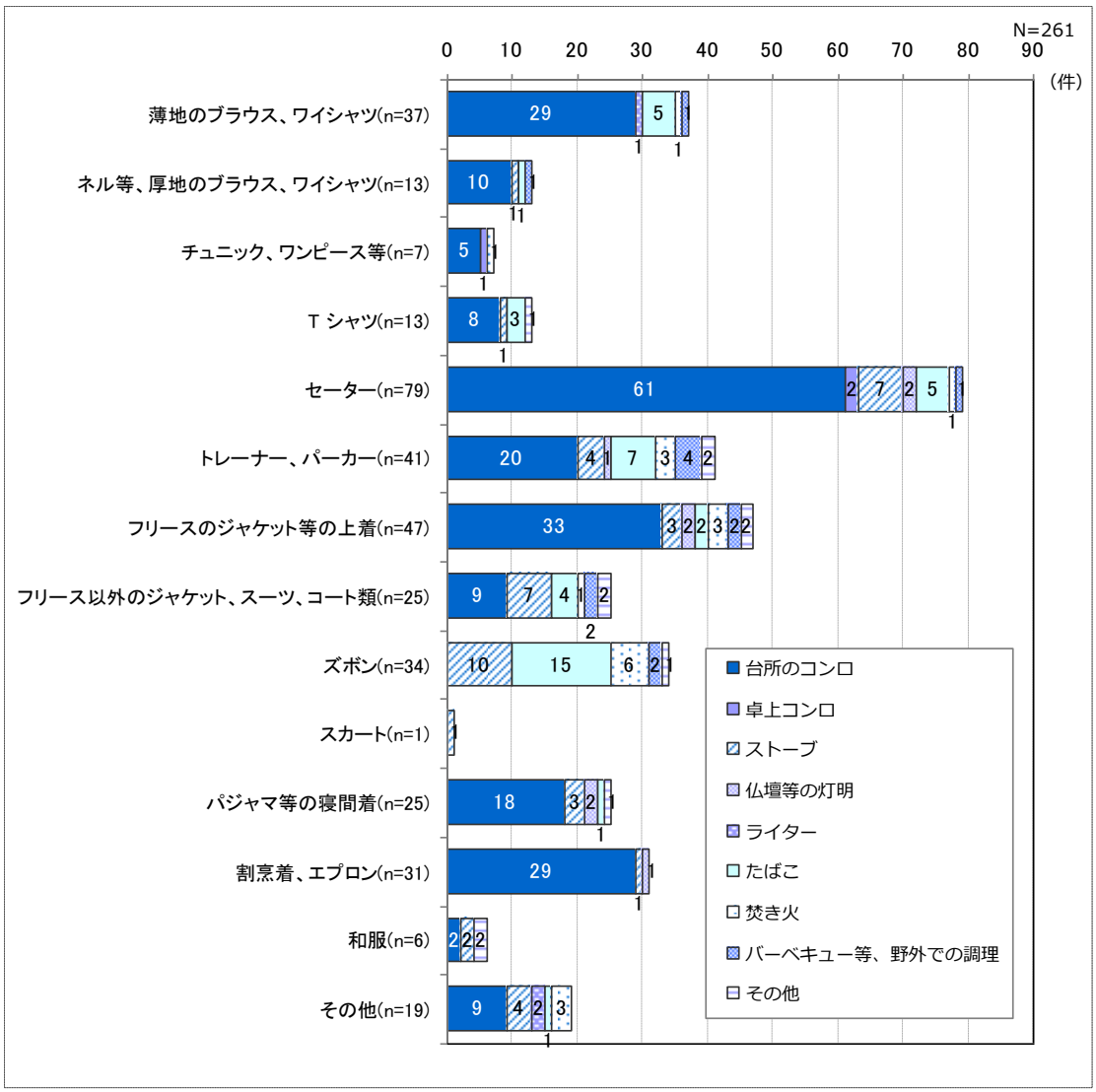


図 2_4_3. 着衣着火〔火の元別〕【複数回答】

着衣着火した、またはしそうになった際の火の元について「ストーブ」と回答した 31 件に対し、ストーブの種類について尋ねたところ、「石油ストーブ」が 17 件（54.8%）と最も多く、次いで電気ストーブが 9 件（29.0%）、ガスストーブ 4 件（12.9%）、その他 1 件（3.2%）であった。

表 2_4_1 は着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験について、衣服の種類別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で最も差が大きく見られたのは「セーター」で男性が 23 件に対し、女性が 56 件と女性のヒヤリ・ハットや危害経験が多く見られる。一方、「ズボン」は男性が 30 件に対し、女性が 4 件と男性のヒヤリ・ハットや危害経験が多く見られる。

表 2_4_1. 着衣着火〔衣服種類×男女･年代別〕【複数回答】

		N 数	薄地のブラウス、ワイシャツ (件)	ネル等、厚地のブラウス、ワイシャツ (件)	チュニック、ワンピース等 (件)	Tシャツ (件)	セーター (件)	トレーナー、パーカー (件)	フリースのジャケット等の上着 (件)	フリース以外のジャケット、スーツ、コート類 (件)	ズボン (件)	スカート (件)	パジャマ等の寝間着 (件)	割烹着、エプロン (件)	和服 (件)	その他 (件)
【全体】		261	37	13	7	13	79	41	47	25	34	1	25	31	6	19
【男女・年代別】																
男性		117	16	7	−	4	23	26	20	10	30	−	11	2	3	10
	60 代前半	36	5	2	−	2	5	9	11	3	6	−	4	0	0	2
	60 代後半	31	3	2	−	2	7	10	5	3	8	−	5	1	1	1
	70 代前半	20	5	2	−	0	3	2	3	1	5	−	2	0	1	3
	70 代後半	13	1	0	−	0	5	1	1	1	4	−	0	1	0	3
	80 代以上	17	2	1	−	0	3	4	0	2	7	−	0	0	1	1
女性		144	21	6	7	9	56	15	27	15	4	1	14	29	3	9
	60 代前半	36	1	0	0	0	15	4	8	0	1	0	2	9	1	0
	60 代後半	31	3	2	2	3	14	3	5	6	1	0	0	5	0	1
	70 代前半	31	7	3	2	2	10	3	6	4	1	1	5	6	1	5
	70 代後半	25	3	1	1	2	12	4	3	3	1	0	4	4	1	1
	80 代以上	21	7	0	2	2	5	1	5	2	0	0	3	5	0	2

図 2_4_4 は着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験について、火の元ごとにその危害程度をまとめた結果である。ヒヤリ･ハットや危害経験が最も多く報告されたのは「台所のコンロ」で 233 件である。次いで、「ストーブ」「たばこ」がそれぞれ 44 件と続く。

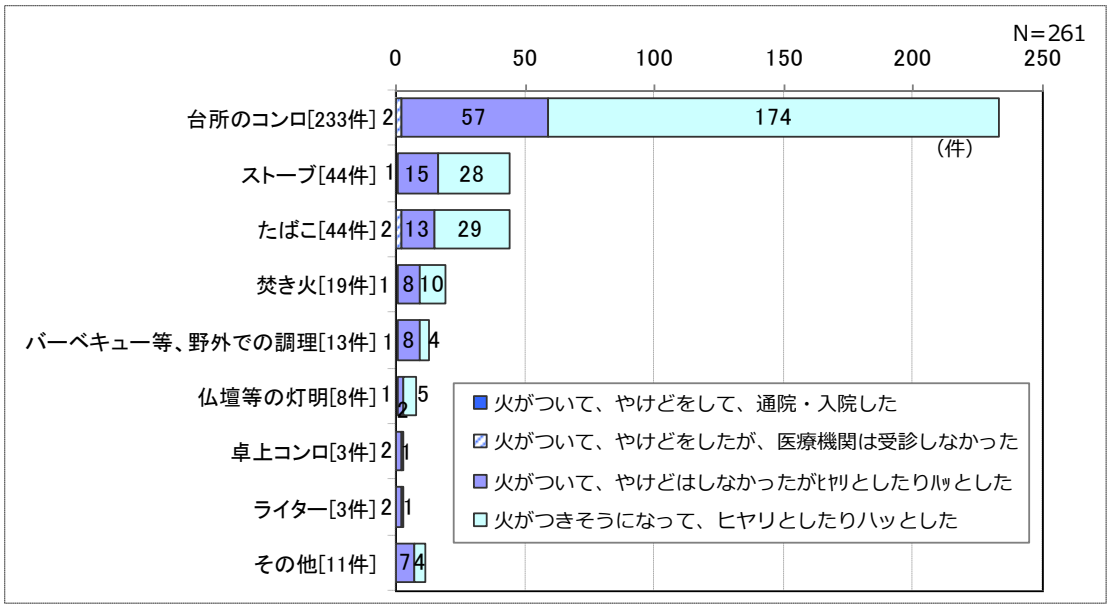


図 2_4_4. 着衣着火〔火の元×危害程度別〕

図 2_4_5 は着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験のうち、火の元ごとにその際に着用していた衣服についてまとめた結果である。「台所のコンロ」を火の元とする事例では「上衣」の着用が最も多く、175 件であった。次いで「その他」が 58 件と続く。「その他」の内訳は「割烹着、エプロン」が 29 件、パジャマ等の寝間着が 18 件、「和服」が 2 件、マフラー、ひざかけなどその他のものが 9 件であった。

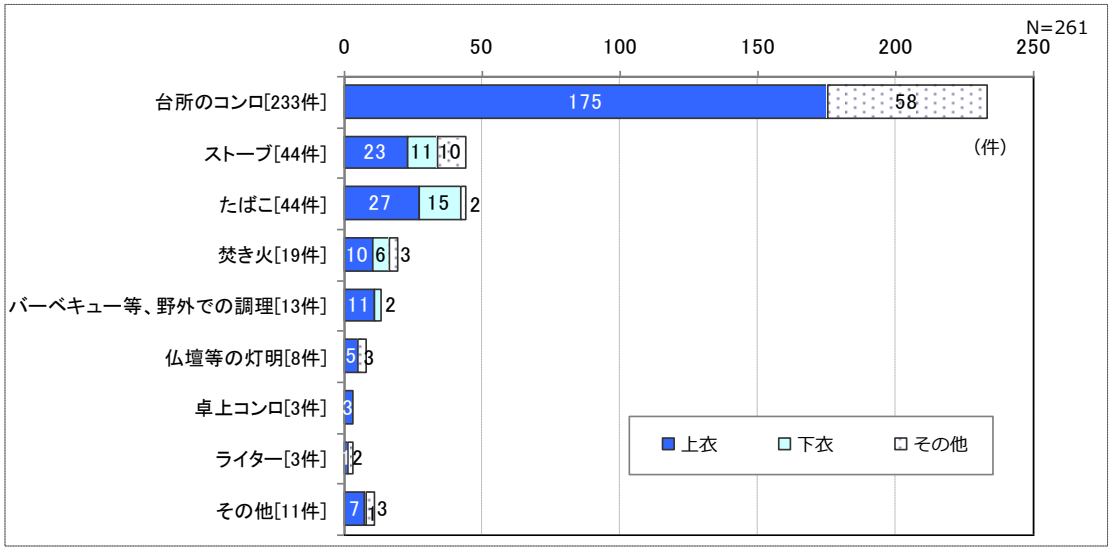


図 2_4_5. 着衣着火〔火の元×衣服種類別〕

図 2_4_6 は着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験のうち、火の元ごとに着火した部位についてまとめた結果である。「台所のコンロ」を火の元とする事例では「腕（袖)」の着火が最も多く 192 件、次いで「すそ」が 23 件であった。「ストーブ」事例では「すそ」の着火が最も多く 16 件、「たばこ」の事例では「胸、腹」の着火が最も多く 18 件であった。

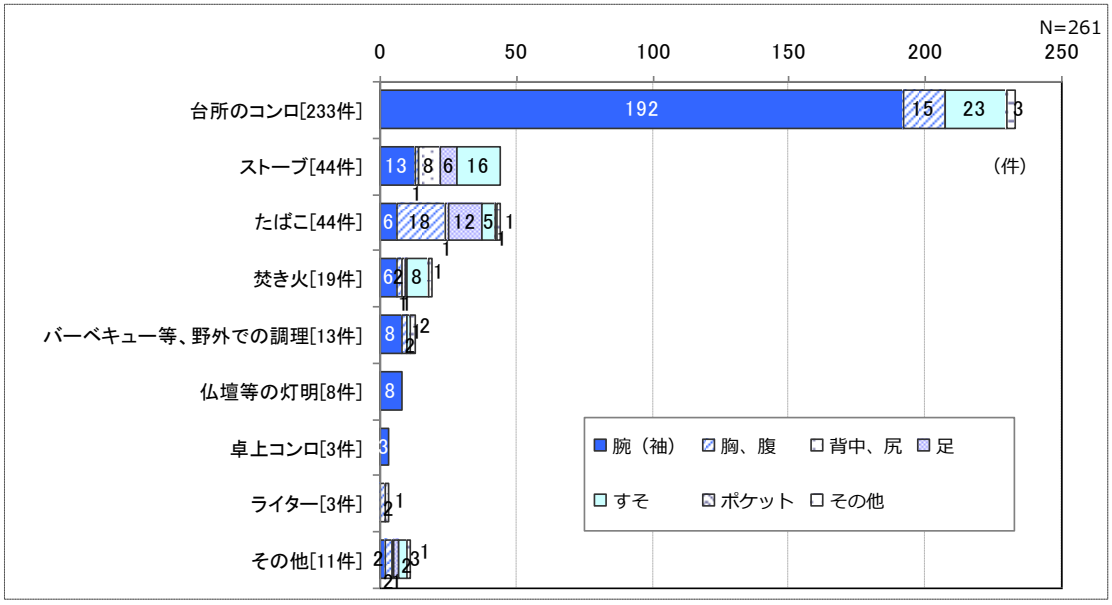


図 2_4_6. 着衣着火〔火の元×着火部位別〕

表 2_4_2 は着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験のうち、火の元ごとに男女･年代別にまとめたものである。男女で比較してみると全体で男性が 162 件、女性が 216 件と女性の方が多くヒヤリ･ハットや危害を経験している。特に「台所のコンロ」の事例では男性が 58 件、女性が 175 件と女性による経験数が男性の 3 倍になる。

年代別に見ると、男性は 60 代でのヒヤリ･ハットや危害経験が多く見られる。女性においては年代による大きな差は見られず、80 代以上においても 34 件報告されている。

表 2_4_2. 着衣着火〔火の元×男女･年代別〕

	N数	台所のコンロ（件）	ストーブ（件）	たばこ（件）	焚き火（件）	バーベキュー等、野外での調理（件）	仏壇等の灯明（件）	卓上コンロ（件）	ライター（件）	その他（件）
【全　　体】	378	233	44	44	19	13	8	3	3	11
【男女・年代別】										
男性	162	58	23	39	16	10	2	1	3	10
60 代前半	49	21	6	11	2	3	0	1	1	4
60 代後半	48	21	11	4	5	2	1	0	0	4
70 代前半	27	8	1	11	1	3	0	0	1	2
70 代後半	17	2	1	9	3	1	1	0	0	0
80 代以上	21	6	4	4	5	1	0	0	1	0
女性	216	175	21	5	3	3	6	2	0	1
60 代前半	41	37	1	0	0	1	2	0	0	0
60 代後半	45	37	3	5	0	0	0	0	0	0
70 代前半	56	43	11	0	1	1	0	0	0	0
70 代後半	40	31	3	0	2	1	1	1	0	1
80 代以上	34	27	3	0	0	0	3	1	0	0

表 2_4_3. 着衣着火〔具体的な内容〕

項目		衣服種類	衣服部位	火元	内容	回答者
1	コンロの火がついた	フリースのジャケット等の上着	胸、腹	台所のコンロ	カーディガンを着て、ガスコンロで調理していたらすそに火がついて火傷しそうになった	60 代男性
2	コンロの火がついた	薄地のブラウス、ワイシャツ	腕(袖)	台所のコンロ	炊事の際、コンロの向こうに落ちた食材を拾おうとしたところ袖に火が付いたが火傷はしなかった。	60 代男性
3	コンロの火がついた	セーター	腕(袖)	台所のコンロ	奥のコンロにかけた鍋の蓋を取ろうとして、手前のコンロにかけた鍋の縁から火が移った。	60 代女性
4	コンロの火がついた	薄地のブラウス、ワイシャツ	腕(袖)	台所のコンロ	コンロでお湯をわかすため火をつけた。袖口のボタンをはずしてあったために火が付いて、軽いやけどをした。	70 代男性
5	コンロの火がついた	セーター	腕(袖)	台所のコンロ	鍋を取ろうとしてコンロの火の上に手を伸ばしたところ、手首にやけどをしたので冷やした。	80 代女性
6	コンロの火がついた	割烹着、エプロン	胸、腹	台所のコンロ	料理中にコンロに近ずき過ぎて火に触れ、化学繊維のエプロンが溶けた。	60 代女性
7	タバコの火がついた	ズボン	足	たばこ	椅子に座ってたばこを吸っていた時、たばこの火の一部が太ももに落ち、トレーナーの下衣に穴があき小さくやけどした。	70 代男性
8	ストーブで焦げた	セーター	胸、腹	ストーブ	反射式石油ストーブの前で横になっていたところ、セーターが焦げて気が付いた。もし寝ていたら火傷をしていた。	70 代男性
9	ストーブで焦げた	ズボン	足	ストーブ	寒いのでストーブのタンクに足をのせていたら、ズボンが黒焦げになり皮膚も膠着した。	60 代男性
10	ストーブで焦げた	ズボン	足	ストーブ	ズボンが化学繊維で燃えやすいのに、ストーブに近づきすぎたため一瞬で繊維が一部溶けた。	60 代男性
11	ストーブで焦げた	ズボン	すそ	焚き火	ストーブで暖をとっていたところ、ストーブの石油がこぼれ、その油に火がついてしまって、ズボンに火が飛び火してしまった。火傷をしたため医療機関を受診した。	70 代女性
12	たき火・バーベキューの火がついた	フリース以外のジャケット、スーツ、コート類	腕(袖)	バーベキュー等、野外での調理	バーベキューの着火剤が付着し火傷した。	60 代男性
13	たき火・バーベキューの火がついた	トレーナー、パーカー	腕(袖)	バーベキュー等、野外での調理	バーベキューで燃料の木を燃やしていた時、火の粉がはぜてウインドブレーカーに飛んで火がついた。	60 代男性
14	たき火・バーベキューの火がついた	セーター	背中、尻	焚き火	焚火の火が跳ねて、火の粉がセーターに付いた。火傷はしなかった。	70 代男性
15	その他	トレーナー、パーカー	背中、尻	その他	夏、花火に着火したあと出た火花が薄手のパーカーに飛び、火がついて、水ですぐ消し止めた。	60 代男性
16	その他	パジャマ等の寝間着	腕(袖)	仏壇等の灯明	仏壇の掃除中に、ろうそくの火が右袖に燃え移った。右上半身火だるまになり大やけどし、病院で皮膚移植手術を受けた。	80 代女性

図 2_4_7 は着衣着火によるヒヤリ・ハットや危害経験のうち、最も印象に残った事例が生じたと思われる理由について自由記述されたものを分類した結果である。「注意不足・油断」が 93 件（35.6%）と最も多く、「衣服に問題があった」が 44 件（16.9%）と続く。

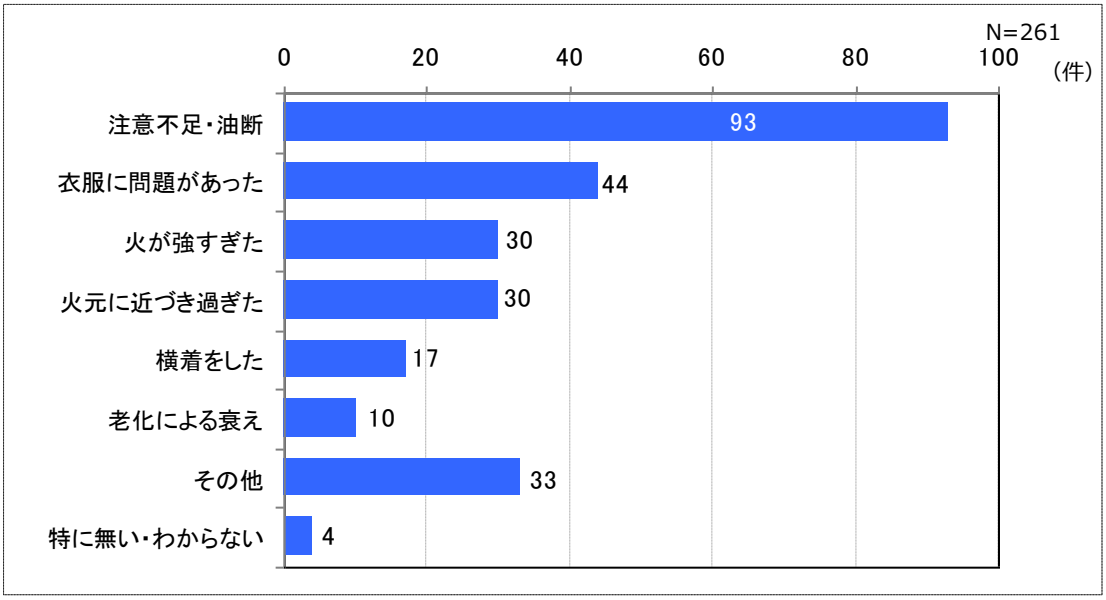


図 2_4_7. 着衣着火〔理由〕

表 2_4_4.着衣着火〔理由〕

項目		衣服種類	事例	理由	回答者
1	注意不足・油断	薄地のブラウス、ワイシャツ	コンロの火がついた	炊事をしていて、コンロの向こうに食材が落ちたので、とっさに何も考えずに手を伸ばした。	60 代男性
2	注意不足・油断	その他(ドテラ)	コンロの火がついた	よそ見をしてた、ほかの事を考えてた。	70 代男性
3	注意不足・油断	ズボン	ストーブで焦げた	石油ストーブから油がこぼれていることに気づかず、点火してしまったのが原因。	70 代女性
4	注意不足・油断	パジャマ等の寝間着	その他	仏壇の掃除に夢中になっていてロウソクの火を消すのを忘れていたらしい。とっさの判断が鈍っているのか、水をかける前に手で叩き余計に火が大きくなった。	80 代女性
5	衣服に問題があった	フリースのジャケット等の上着	たき火・バーベキューの火がついた	冬場は乾燥している上に、火で益々衣服が乾燥していて、毛羽立ってふわふわしているフリースはあっという間に引火する。	60 代男性
6	衣服に問題があった	フリース以外のジャケット、スーツ、コート類	コンロの火がついた	袖がルーズで落ちやすく化学繊維で火が付きやすかった。	60 代女性
7	衣服に問題があった	パジャマ等の寝間着	コンロの火がついた	袖が大きいことを忘れて、袖にコンロの火が点いた。	60 代男性
8	火が強すぎた	フリース以外のジャケット、スーツ、コート類	ストーブで焦げた	ガスストーブの火力はとても強いことを思い知らされた。ストーブの近くに洗濯物をぶら下げることも止めた。	60 代女性
9	火が強すぎた	セーター	コンロの火がついた	フライパンの外側に炎が出ていた。強くしすぎていた。	60 代男性
10	火が強すぎた	割烹着、エプロン	コンロの火がついた	袖全体がゆったりした割烹着だったことと、炒め物で火力も強くしていたのが原因ではと思った。臭いで気がついて大事には至らなかったが本当に驚いた。	60 代女性
11	火元に近づき過ぎた	フリース以外のジャケット、スーツ、コート類	コンロの火がついた	とても乾燥しており、燃えやすい素材であったのに、うかつに引火する距離に腕を近づけたため。	60 代女性
12	火元に近づき過ぎた	トレーナー、パーカー	その他	少し花火に近づきすぎて、着火しやすい化繊のパーカーに火が移ってしまった。	60 代男性
13	火元に近づき過ぎた	ズボン	ストーブで焦げた	ズボンが化学繊維で燃えやすいのにストーブに近づき過ぎた。距離感が鈍くなっている。	60 代男性
14	横着をした	セーター	コンロの火がついた	無精をして手前のコンロの火を止めず鍋を奥に移した。	60 代女性
15	横着をした	セーター	コンロの火がついた	コンロの火を着けたまま鍋を移動し、次の鍋を掛けようとした。	70 代男性
16	老化による衰え	トレーナー、パーカー	タバコの火がついた	若いころより、動作が鈍くなったため。	60 代男性
17	老化による衰え	割烹着、エプロン	コンロの火がついた	色々なことをいっぺんにすることが年配になると無理になってきたようです。	70 代女性

図 2_4_9 は燃えにくい・火がつきにくい衣服が市販されていたら着たいと思うかどうかについて尋ねた結果をまとめたものである。“買って着たい”（「多少高くても是非買って着たい」＋「多少高くてもデザインがよければ、買って着たい」＋「高くならなければ買って着たい」）との回答は 52.2%と 5 割を超えた。

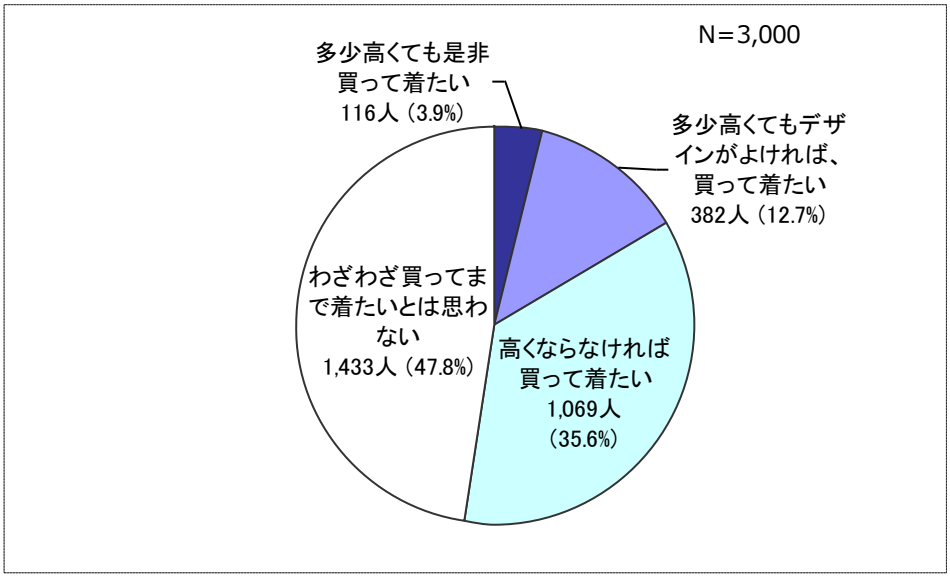


図 2_4_9. 防炎製品購入意向

図 2_4_10 は防炎製品の購入意向について男女別に比較した結果である。やや女性において“買って着たい”との回答割合が高くなっている。

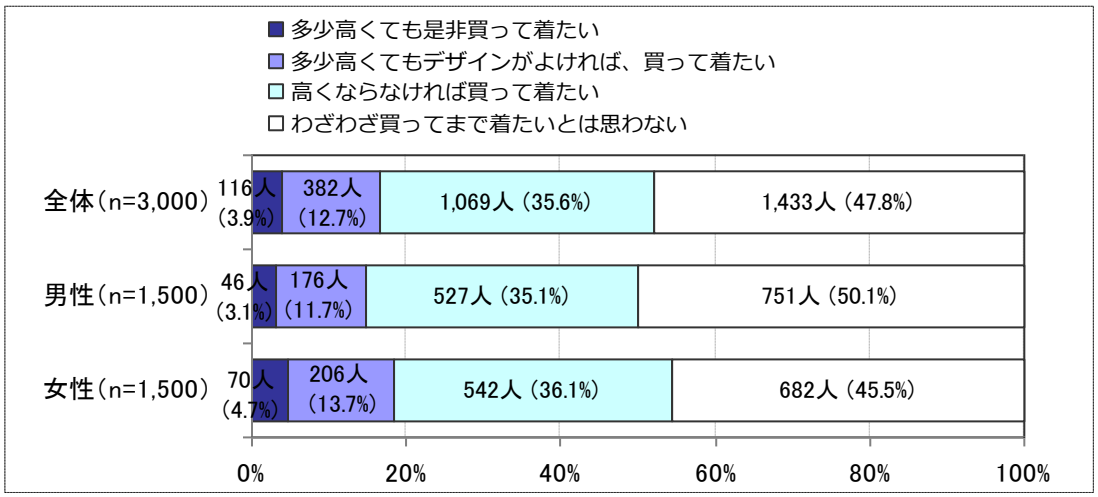


図 2_4_10. 防炎製品購入意向〔男女別〕

表 2_4_5 は燃えにくい・火がつきにくい衣服が市販されていたら着たいと思うかどうかについて尋ねた結果を男女･年代別にまとめたものである。年代別に見ると、女性の 80 代以上において「多少高くても是非買って着たい」との回答が 22 件と最も高くなっていた。

表 2_4_5. 防炎製品購入意向〔男女･年代別〕

	N数	多少高くても是非買って着たい（件）	多少高くてもデザインがよければ、買って着たい（件）	高くならなければ買って着たい（件）	わざわざ買ってまで着たいとは思わない（件）
【全　　体】	3,000	116	382	1,069	1,433
【男女・年代別】					
男性	1,500	46	176	527	751
60 代前半	300	10	45	108	137
60 代後半	300	9	39	119	133
70 代前半	300	8	28	105	159
70 代後半	300	11	25	99	165
80 代以上	300	8	39	96	157
女性	1,500	70	206	542	682
60 代前半	300	8	42	93	157
60 代後半	300	12	43	113	132
70 代前半	300	13	50	100	137
70 代後半	300	15	30	120	135
80 代以上	300	22	41	116	121

図 2_4_11 は「着衣着火で亡くなっている方のほとんどが高齢者であることを知っているかどうか」について尋ねたところ、「知っている」との回答は 44.6%だった。

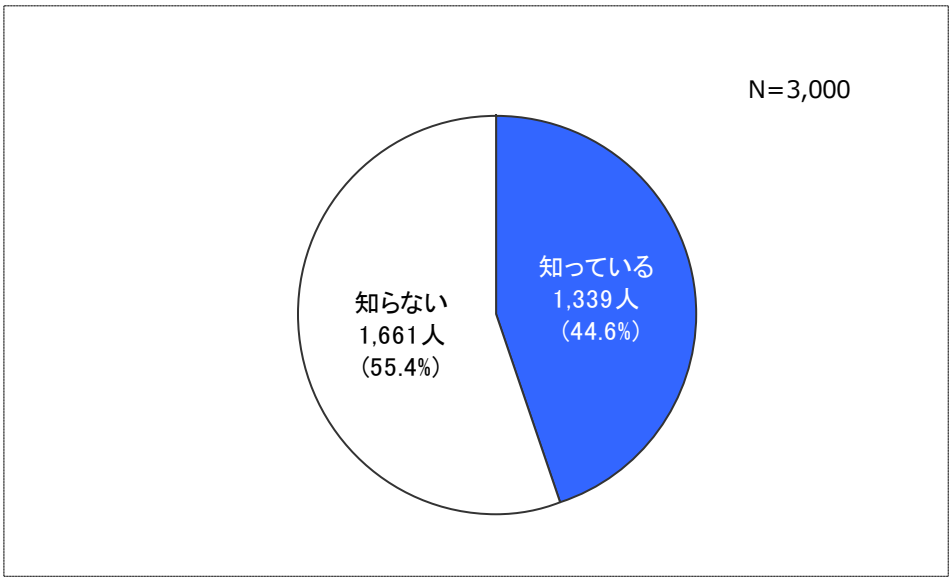


図 2_4_11. 着衣着火による死亡者に関する認知

図 2_4_13 は「パジャマやアームカバー等の防炎製品を知っているかどうか」についての回答結果をまとめたものである。「知らない」が 83.8%と 8 割を超えた。「知っている」との回答は 16.2%であった。

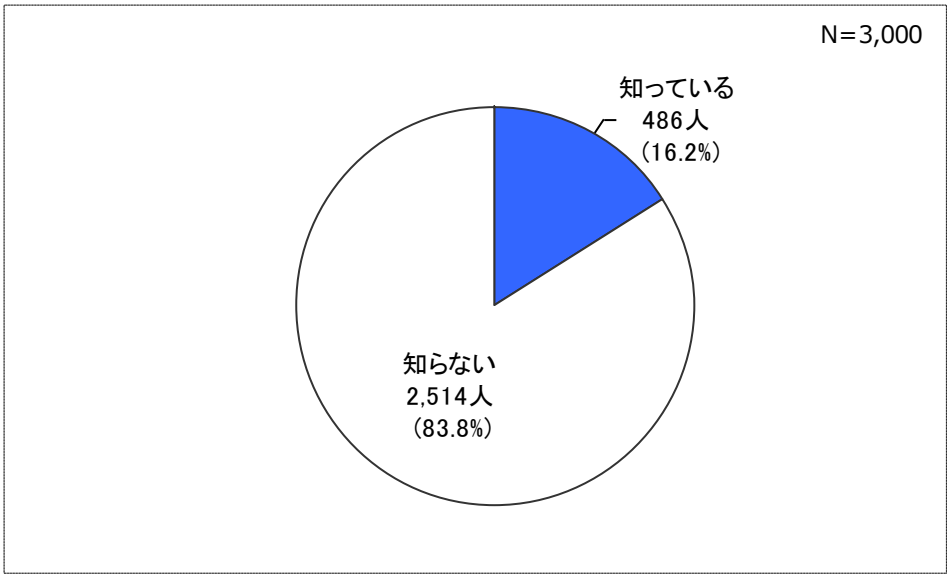


図 2_4_13. 防炎製品に関する認知

表 2_4_7 はパジャマやアームカバー等の防炎製品の認知について男女･年代別にまとめた結果である。

表 2_4_7. 防炎製品に関する認知〔男女･年代別〕

	N数	知っている（件）	知らない（件）
【全　　体】	3,000	486	2,514
【男女・年代別】			
男性	1,500	228	1,272
60 代前半	300	38	262
60 代後半	300	48	252
70 代前半	300	41	259
70 代後半	300	46	254
80 代以上	300	55	245
女性	1,500	258	1,242
60 代前半	300	40	260
60 代後半	300	54	246
70 代前半	300	68	232
70 代後半	300	54	246
80 代以上	300	42	258

図 2_4_15 はパジャマやアームカバー等の防炎製品を知っていると回答した 486 人に対し、それらの防炎製品の所有状況について尋ねた回答結果をまとめたものである。「持っている」はわずか 3.1%（15 人）となり、ほとんどの人が所有していない事が分かった。

また「持っている」との回答者に所有製品について尋ねたところ、パジャマが 6 人、カーテンが 4 人、アームカバーが 2 人、エプロン、枕カバー、タオルがそれぞれ 1 人ずつであった。

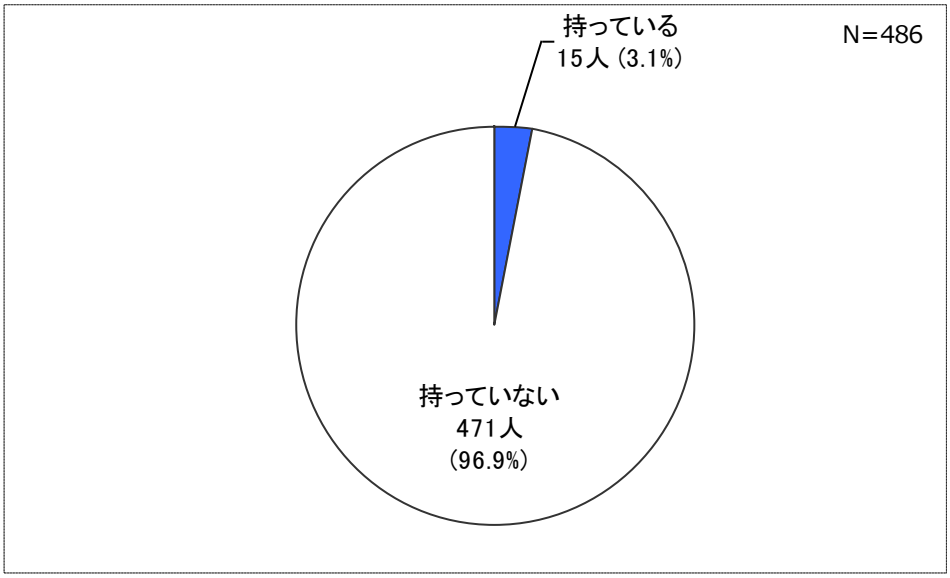


図 2_4_15. 防炎製品の所有状況

表 2_4_8 はパジャマやアームカバー等の防炎製品の所有状況について男女･年代別にまとめた結果である。

表 2_4_8. 防炎製品の所有状況〔男女･年代別〕

		N数	持っている（件）	持っていない（件）
【全　　体】		486	15	471
【男女・年代別】				
男性		228	9	219
	60 代前半	38	2	36
	60 代後半	48	3	45
	70 代前半	41	1	40
	70 代後半	46	2	44
	80 代以上	55	1	54
女性		258	6	252
	60 代前半	40	2	38
	60 代後半	54	2	52
	70 代前半	68	1	67
	70 代後半	54	0	54
	80 代以上	42	1	41

（５）皮膚障害

①衣服による皮膚障害経験

図 2_5_1 は衣服着用による皮膚障害が生じた際に着用していた衣服種類をまとめた結果である。衣服着用による何らかの皮膚障害が生じたと回答したのは 716 人、回答されたヒヤリ･ハットや危害経験は 1,922 件である。そのうち、ヒヤリ・ハットや危害経験が多く発生していた衣服は「ハイネックのセーター、カーディガン」で 383 件（53.5%）であった。次いで「靴下」が 160 件（22.3%）、「ブラジャー」が 143 件（20.0%）と続く。

皮膚障害を起こして医療機関を受診した事例は、「靴下」が 12 件と最も多く、次いで「冬用肌着の下衣〔パンツ、ステテコ等〕」が 8 件と続く。

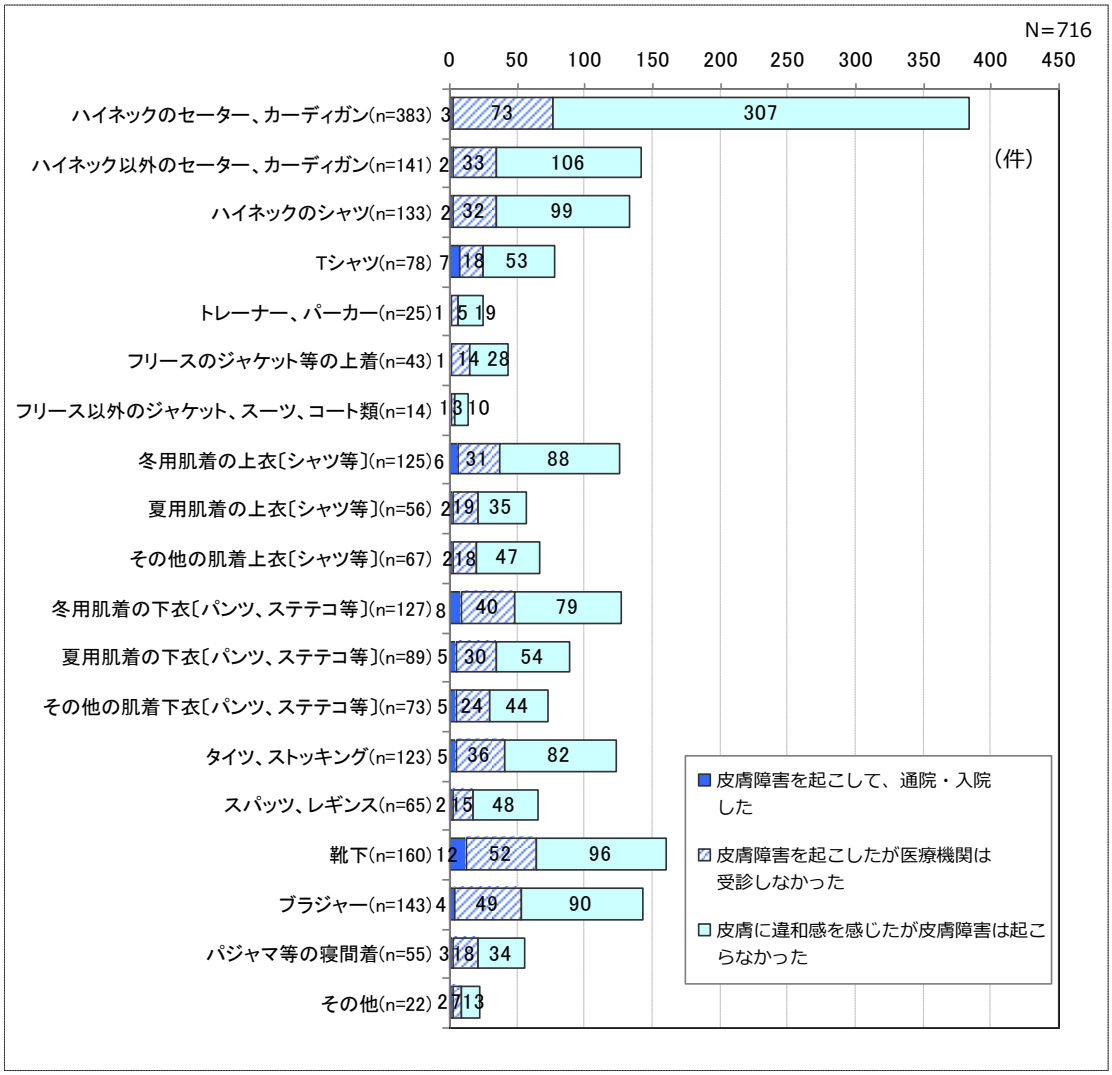


図 2_5_1. 皮膚障害〔危害程度別〕【複数回答】

図 2_5_2 は衣服着用による皮膚障害が生じた際に着用していた衣服の素材をまとめた結果である。最も多くのヒヤリ・ハットや危害経験が報告された「ハイネックのセーター、カーディガン」383 件のうち、「毛」の製品が 183 件（47.8%）、「アクリル、ポリエステル等の化学繊維」が 155 件（40.5%）であった。

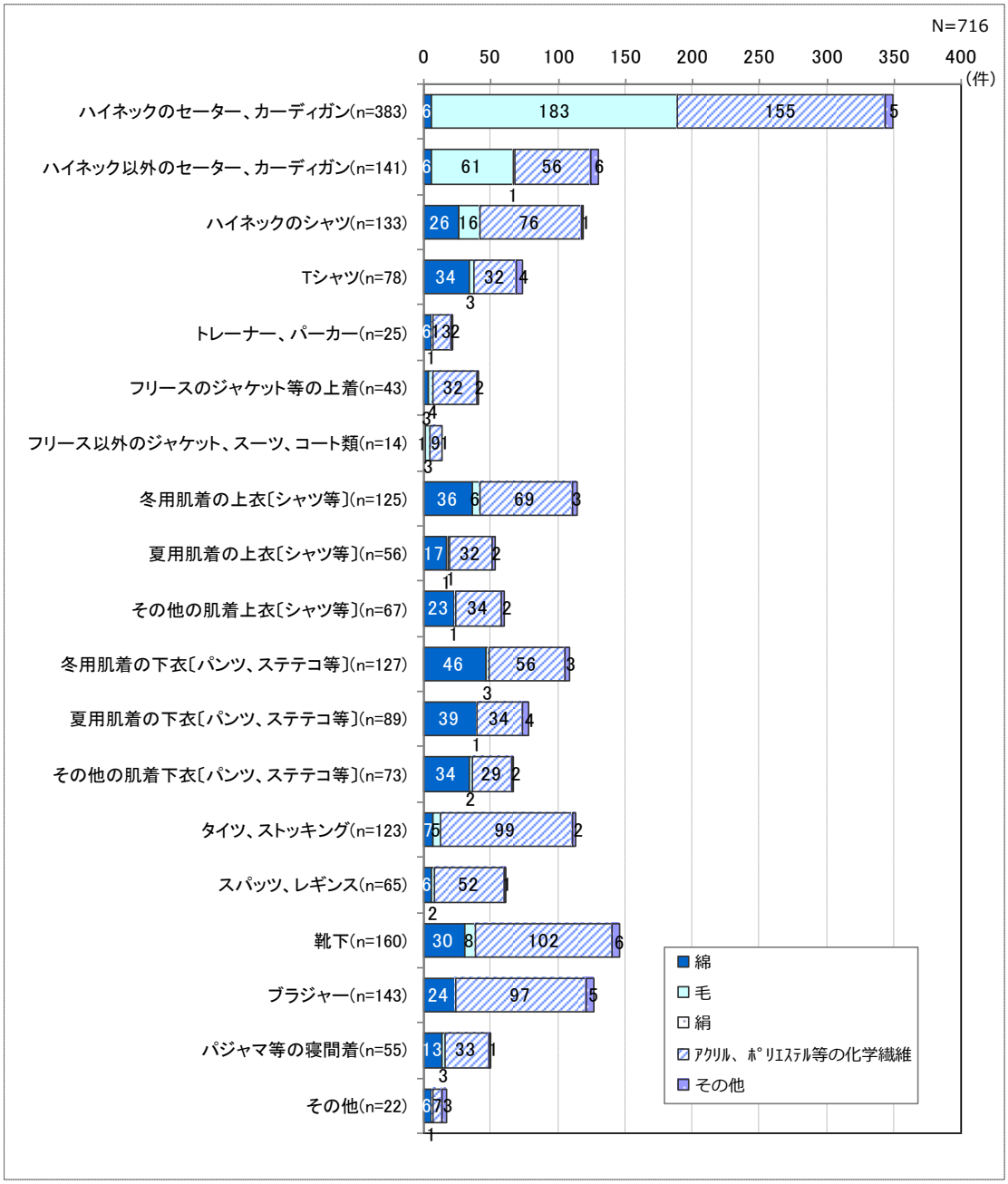


図 2_5_2. 皮膚障害〔衣服素材別〕【複数回答】

図 2_5_3 は衣服着用による皮膚障害が生じた際に着用していた衣服の素材別に危害程度についてまとめた結果である。ヒヤリ・ハットや危害経験が最も多く報告されたのは「アクリル、ポリエステル等の化学繊維」で 1,017 件（52.9%）と 5 割を超えていた。次いで、「綿」が 363 件（18.9%）、「毛」が 304 件（15.8%）と続く。

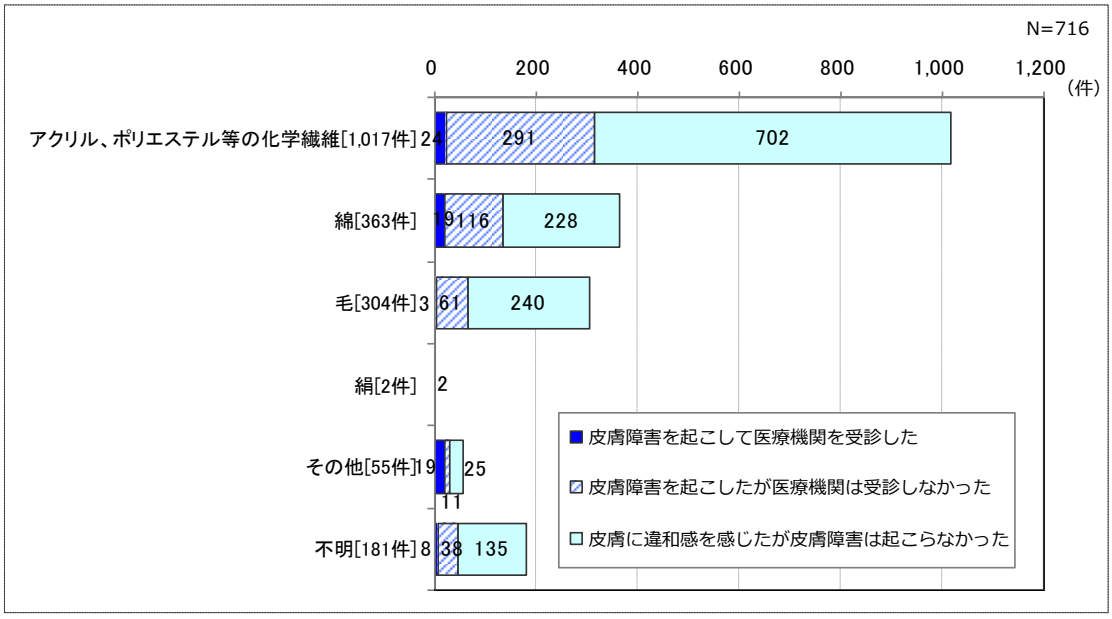


図 2_5_3. 皮膚障害〔衣服素材×危害程度別〕【複数回答】

表 2_5_1 は衣服着用による皮膚障害について、衣服の種類別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女別で比較してみると、「ハイネックのセーター、カーディガン」は男性が 157 件、女性が 226 件と女性の事例が多く見られる。一方、「靴下」は男性が 99 件、女性が 61 件と男性の事例が多く見られた。

表 2_5_1. 皮膚障害〔衣服種類×男女･年代別〕【複数回答】

		N数	ハイネックのセーター、カーディガン (件)	ハイネック以外のセーター、カーディガン (件)	ハイネックのシャツ (件)	Tシャツ (件)	トレーナー、パーカー (件)	フリースのジャケット等の上着 (件)	フリース以外のジャケット、スーツ、コート類 (件)	冬用肌着の上衣〔シャツ等〕 (件)	夏用肌着の上衣〔シャツ等〕 (件)	その他の肌着上衣〔シャツ等〕 (件)	冬用肌着の下衣〔パンツ、ステテコ等〕 (件)	夏用肌着の下衣〔パンツ、ステテコ等〕 (件)	その他の肌着下衣〔パンツ、ステテコ等〕 (件)	タイツ、ストッキング (件)	スパッツ、レギンス (件)	靴下 (件)	ブラジャー (件)	パジャマ等の寝間着 (件)	その他 (件)
【全体】		716	383	141	133	78	25	43	14	125	56	67	127	89	73	123	65	160	143	55	22
【男女・年代別】																					
男性		329	157	47	68	45	16	21	8	66	24	27	66	44	33	37	13	99	−	26	10
	60 代前半	83	44	18	23	14	8	9	4	15	8	5	13	12	7	11	4	31	−	5	4
	60 代後半	62	29	8	7	11	3	7	1	9	3	4	9	7	2	10	3	15	−	5	2
	70 代前半	70	35	8	8	4	0	2	1	16	2	4	10	7	3	2	1	21	−	5	2
	70 代後半	47	24	6	12	10	3	2	2	9	7	8	11	5	7	4	2	14	−	6	1
	80 代以上	67	25	7	18	6	2	1	0	17	4	6	23	13	14	10	3	18	−	5	1
女性		387	226	94	65	33	9	22	6	59	32	40	61	45	40	86	52	61	143	29	12
	60 代前半	105	61	29	15	10	5	7	0	13	7	7	12	10	9	30	11	17	46	7	3
	60 代後半	95	60	28	12	5	1	4	0	9	6	9	10	7	7	21	17	14	42	8	3
	70 代前半	92	58	21	25	9	3	6	4	17	8	8	16	15	12	19	15	13	35	7	2
	70 代後半	56	30	7	7	5	0	4	2	11	6	10	15	8	8	11	7	10	16	4	4
	80 代以上	39	17	9	6	4	0	1	0	9	5	6	8	5	4	5	2	7	4	3	0

図 2_5_4 は衣服着用による皮膚障害のうち、最も印象的な事例について自由記述されたものをカテゴリー別に分類した結果である。

「かゆみ」が最も多く 375 件（52.4%）、次いで「チクチクする等の刺激」が 124 件（17.3%）と続く。皮膚障害を起こして、医療機関を受診した事例は「かゆみ」が 20 件と最も多く、次いで「発疹・炎症」が 11 件であった。

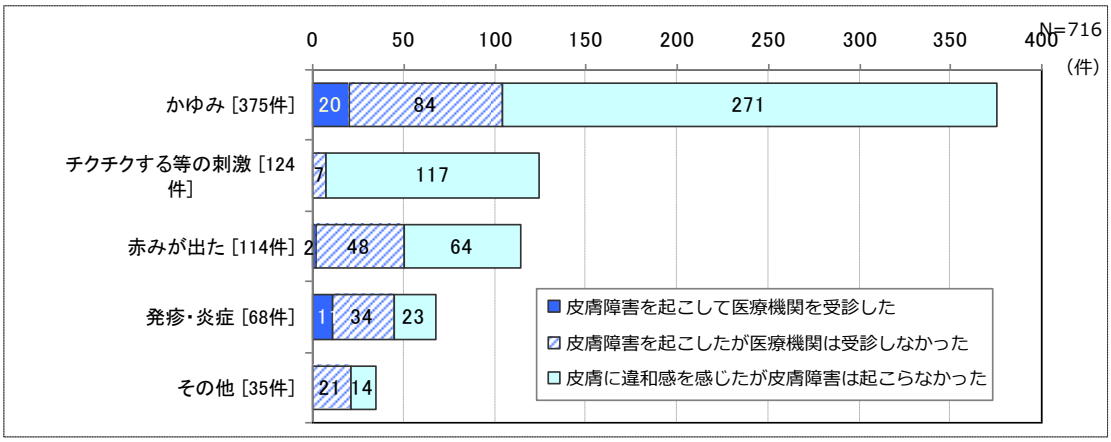


図 2_5_4. 皮膚障害〔危害程度別〕

表 2_5_2 は衣服着用による皮膚障害のうち、最も印象的な事例について男女･年代別にまとめたものである。男女で比較してみると、女性限定のアイテムも調査対象としているので一概には比較はできないが、全体として女性が 387 件、男性が 329 件と女性の経験者が多い。

表 2_5_2. 皮膚障害〔具体事例×男女･年代別〕

		N数	かゆみ（件）	チクチクする等の刺激（件）	赤みが出た（件）	発疹・炎症（件）	その他（件）
【全　　体】		716	375	124	114	68	35
【男女・年代別】							
男性		329	177	56	47	34	15
	60 代前半	83	46	14	16	6	1
	60 代後半	62	34	10	10	4	4
	70 代前半	70	38	9	9	11	3
	70 代後半	47	24	10	3	6	4
	80 代以上	67	35	13	9	7	3
女性		387	198	68	67	34	20
	60 代前半	105	54	19	18	8	6
	60 代後半	95	48	15	15	11	6
	70 代前半	92	47	18	20	4	3
	70 代後半	56	27	11	8	5	5
	80 代以上	39	22	5	6	6	0

表 2_5_3. 皮膚障害〔具体的な内容〕

項目		衣服種類	内容	回答者
1	かゆみ	タイツ、ストッキング	昨年の冬、ズボンの下にバルキータイツをはいていたら、脛が痒くなって掻きむしったので皮膚障害を起こし、皮膚科に行った。	60 代女性
2	かゆみ	タイツ、ストッキング	毎年、寒くなりタイツを履く時期になると、足の脛がかゆくなり皮膚科で塗り薬を貰い塗布している。	80 代男性
3	かゆみ	ブラジャー	下着が擦れる箇所が痒くてかさぶたのようになり、皮膚科に通院した。	60 代女性
4	かゆみ	靴下	化繊で出来た靴下を一日はいていたら痒くなった。	60 代男性
5	かゆみ	靴下	靴下の上部のゴムがきつく感じて、皮膚がかゆくて皮膚科に行った。	80 代女性
6	かゆみ	冬用肌着の上衣(ｼｬﾂ等)	通販で化繊でできた厚手の防寒下着を買い、2 年位使用したところ、背中がかゆくなったため皮膚科にいった。	70 代男性
7	チクチクするなどの刺激	トレーナー、パーカー	寒くなってきたので、トレーナーを素肌につけたところ、肌に違和感を感じて着用を止めた。	60 代男性
8	チクチクするなどの刺激	ハイネックのセーター、カーディガン	毛100％のとっくりのセーターを着用していたら、皮膚がムズムズしてきたので、綿の洋服に着替えた。	60 代女性
9	チクチクするなどの刺激	ハイネックのセーター、カーディガン	首回りが寒いと思い買ったのですが、化学繊維のハイネックの上衣を着たところチクチクした。	80 代女性
10	赤みが出た	ハイネックのセーター、カーディガン	ハイネックのセーターを着た時に、チクチクと気になったので母に見てもらったら、肌が赤くなっていたのでセーターを着るのを止めた。	60 代男性
11	赤みが出た	ハイネックのセーター、カーディガン	皮膚にじかにつくと痒くなり、赤く腫れたので皮膚科を受診した。	60 代女性
12	赤みが出た	タイツ、ストッキング	下肢の外側がかぶれて赤くかゆくなり、ぶつぶつが出来て皮膚科で薬をもらった。	70 代女性
13	赤みが出た	ブラジャー	肩ひもの部分が、すれて痒くなり赤く腫れて、いつまでも跡になった。	70 代女性
14	発疹・炎症	スパッツ、レギンス	縫製段階での化学薬品が原因と医者に言われた。赤い湿疹ができかゆかった。	60 代女性
15	発疹・炎症	パジャマ等の寝間着	2年位使用しているパジャマで、最近になって、着ていると、かぶれるようになり、新しいものと取り替えた。	80 代女性
16	発疹・炎症	夏用肌着の上衣(シャツ等)	上腕、左膝、左腰に痒みが生じ、掻いているうちに、潰瘍になり、皮膚科にて塗り薬、飲み薬を処方され、三カ月かかってようやく鎮静した。まだ完治とは言えない。	80 代男性
17	発疹・炎症	冬用肌着の下衣(パンツ、ステテコ等)	幅広のゴムの入った下着を履き、湿疹が出来た。	70 代男性
18	発疹・炎症	靴下	両足の甲に赤い湿疹が出来、病院を受診。塗り薬をもらい施用したが、完全に治癒していない。現在はクレゾール石鹸液で消毒している。	80 代男性

図 2_5_3 は皮膚障害のヒヤリ・ハットや危害経験のうち、最も印象に残った事例が生じたと思われる理由について自由記述されたものを分類した結果である。「素材が肌に合わない」が 212 件（29.6%）と最も多い。

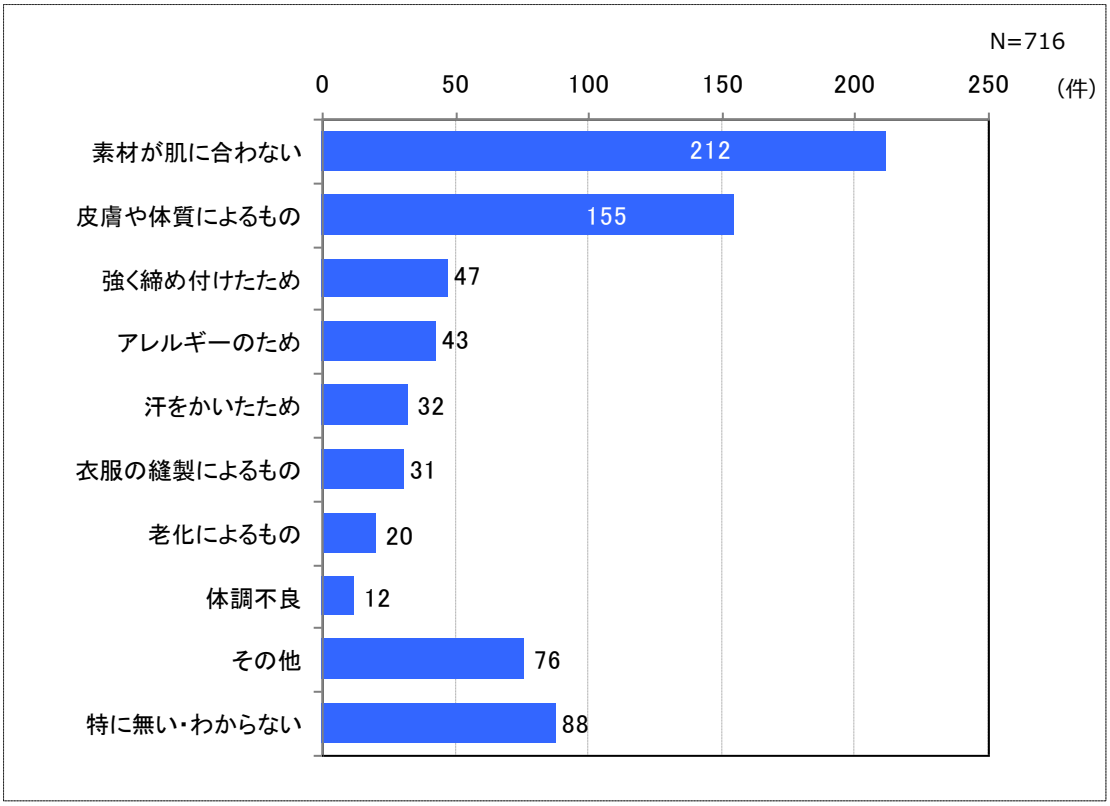


図 2_5_3. 皮膚障害〔理由〕

表 2_5_4.皮膚障害〔理由〕

項目		衣服種類	事例	理由	回答者
1	素材が肌に合わない	夏用肌着の上衣(シャツ等)	かゆみ	化繊が含まれていて、汗をかいたことにより肌を刺激したため。	60 代女性
2	素材が肌に合わない	冬用肌着の上衣(シャツ等)	かゆみ	従来は木綿のみ使用していた、防寒の木綿製がなく仕方なく購入。化繊の肌着はあわなかった。	70 代男性
3	素材が肌に合わない	ハイネックのセーター、カーディガン	かゆみ	冬場は乾燥しており、化繊の物は摩擦が起きやすく、肌トラブルが起きやすい。	70 代女性
4	素材が肌に合わない	ハイネックのセーター、カーディガン	発疹・炎症	デザインやカラーで選んでしまいモヘヤの毛の長さでチクチクして痒みが生じた。自分の不注意でした。	60 代女性
5	素材が肌に合わない	ハイネックのセーター、カーディガン	赤みが出た	元々、肌が敏感に反応するので毛の衣類は避けていたが、寒いのでハイネックのセーターを着たらすぐに反応してしまった。	60 代男性
6	素材が肌に合わない	靴下	赤みが出た	ウレタンは程度は軽いものの、今までにも似たような事故をおこしていた。良く素材を見て購入すべきだった。	60 代男性
7	皮膚や体質によるもの	ハイネック以外のセーター、カーディガン	発疹・炎症	寒くなり首の周りにマフラーなど巻き始め皮膚が弱っていたので少しの摩擦で直ぐ赤くなってしまう。	60 代女性
8	皮膚や体質によるもの	ハイネック以外のセーター、カーディガン	ﾁｸﾁｸする等の刺激	セーターの材質や作りにより肌に当たり、刺激が強すぎるため。クビの部分の肌が弱いため。	80 代男性
9	皮膚や体質によるもの	靴下	かゆみ	加齢のため、肌が乾燥しやすくなり、最初にしめつけのある靴下とパンツからかゆみが始まる。	60 代男性
10	皮膚や体質によるもの	その他の肌着下衣(パンツ、ｽﾃﾃｺ等)	かゆみ	若い時より皮膚に油分がなくなり乾燥すると痒くなる。	70 代女性
11	強く締め付けたため	靴下	赤みが出た	全ての靴下でなるわけではなく、ゴムがきついとなりやすい。体調もあるかもしれない。	60 代男性
12	強く締め付けたため	ブラジャー	かゆみ	普段はもっと楽なものを着けているが、外出時に着けた物がきつかった。	60 代女性
13	アレルギーのため	T シャツ	発疹・炎症	アレルギー体質のため肌に触れる部分はアクリル繊維の含む衣類は買わない。	70 代男性
14	アレルギーのため	ハイネックのセーター、カーディガン	赤みが出た	冬に肌が痒くなることが多くなった。色々なものに対してアレルギー反応が出る。	70 代女性
15	汗をかいたため	夏用肌着の下衣(パンツ、ｽﾃﾃｺ等)	その他	汗で皮膚が炎症を起こしたのに、すぐに着替えなかったので発疹が出た。	60 代女性
16	衣服の縫製によるもの	ブラジャー	赤みが出た	よく接触する部分で、紐が伸縮する度に皮膚を刺激する。	60 代女性
17	老化によるもの	靴下	発疹・炎症	若い時にはそのようなことはなかったということは、肌の抵抗力が衰えたということか。体のあちこちが痒くなる。	70 代男性

（６）その他の事例

①その他のヒヤリ・ハットや危害経験

図 2_6_1 は「転倒、着衣着火、皮膚障害」以外（以下、その他）の衣服に関するヒヤリ・ハットや危害経験をまとめた結果である。その他のヒヤリ・ハットや危害について 415 人から回答を得た。ヒヤリ・ハットや危害経験が多く発生していたのは「ファスナー等で身体の一部をはさんだり、指をケガした。」で 360 人（84.9%）、次いで「腰回りのゴムやベルトが締まって気分が悪くなった」が 84 人（19.8%）、「ボタンをかけているときに指や爪にケガをした」が 61 人（14.4%）であった。

「ケガをして、通院・入院した」という医療機関を受診したケースは見られなかった。

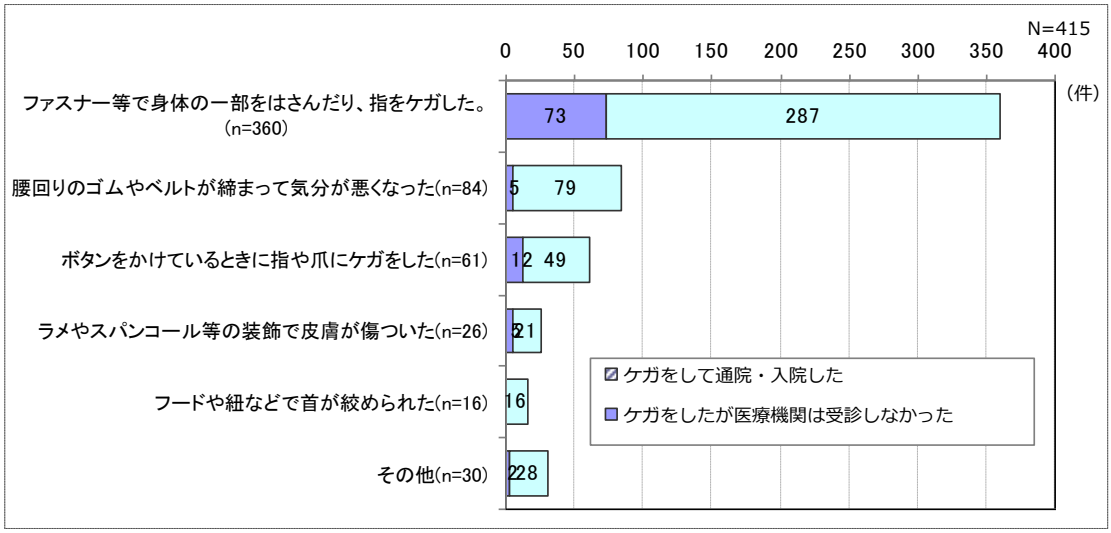


図 2_6_1. その他のヒヤリ・ハットや危害経験〔危害程度別〕【複数回答】

表 2_6_1 はその他のヒヤリ・ハットや危害経験について、危害別に男女、年代別の特徴を見た結果である。男女を比較すると、全体を通して男性が 251 件、女性が 164 件と男性の事例が多く見られる。特に「ファスナー等で身体の一部をはさんだり、指をケガした。」との回答が男性が 223 件、女性が 137 件と男性の事例が多く見られた。

表 2_6_1. その他のヒヤリ・ハットや危害経験〔危害×男女･年代別〕【複数回答】

	N数	ファスナー等で身体の一部をはさんだり、指をケガした。（件）	腰回りのゴムやベルトが締まって気分が悪くなった（件）	ボタンをかけているときに指や爪にケガをした（件）	ラメやスパンコール等の装飾で皮膚が傷ついた（件）	フードや紐などで首が絞められた（件）	その他（件）
【全　　体】	415	360	84	61	26	16	30
【男女・年代別】							
男性	251	223	39	38	8	9	15
60 代前半	81	76	11	13	4	4	6
60 代後半	53	49	11	7	2	3	2
70 代前半	36	26	8	4	1	2	3
70 代後半	42	36	5	8	1	0	2
80 代以上	39	36	4	6	0	0	2
女性	164	137	45	23	18	7	15
60 代前半	36	29	12	3	3	1	1
60 代後半	35	31	7	4	5	3	2
70 代前半	44	38	13	10	3	3	5
70 代後半	27	22	7	3	5	0	3
80 代以上	22	17	6	3	2	0	4

表 2_6_3. その他のヒヤリ・ハットや危害経験〔具体的な内容〕

項目		衣服種類	内容	回答者
1	ファスナーで体の一部を挟んだ	ズボン	3キロほど体重が増えたため、ズボンがきつくなったが、お腹を引っ込めずにファースナーを勢い良くあげたらお腹を挟んでしまい、出血した。	60 代女性
2	ファスナーで体の一部を挟んだ	ズボン	ズボンのファスナーを上げようとした時、皮膚を挟んで少し切れた。	70 代男性
3	ファスナーで体の一部を挟んだ	ズボン	ファスナーを上げる際に身体の一部を挟んでしまい出血したが、止血をしておさまった。	70 代男性
4	ファスナーで体の一部を挟んだ	スカート	スカートのウエスト部分のサイドのファスナーを上げた時に、お腹の皮膚を挟んでにじむ程度の出血をした。	70 代女性
5	ファスナーで指を挟んだ	ウインドブレーカー	ウインドブレーカーのファスナーが上手くかみ合わなくなってしまい、はめ込もうとしたところ指の先端がファスナーに食い込んだ	60 代男性
6	ファスナーで指を挟んだ	パーカー	ファスナーのすべりが悪く、勢いよくあげたら、指をはさんだ。	60 代女性
7	ファスナーで指を挟んだ	ジャンパー	ジャンパーのファスナーが布をはさんだので無理に開けようとして指を挟んだので少し血が出た。	70 代女性
8	ウエストを締め付けて気分が悪くなった	ジャージ	締め付けがきついと、思っていたら、気持ちが悪くなり、ホームセンターで違う製品を買って着替えた。	60 代男性
9	ウエストを締め付けて気分が悪くなった	下着	下着のゴムがきつく、気分が悪くなった。	70 代男性
10	ウエストを締め付けて気分が悪くなった	下着	下着でおなかが締め付けられる感じが続き、気持ちが悪くなりおなかも痛くなった。	70 代女性
11	ウエストを締め付けてかゆみや炎症を起こした	ズボン	たまに1サイズ小さいものをかうと、ウエストがきつくて赤くなったり痒くなったりする。	70 代女性
12	ファスナーを無理に引いて怪我をした	ジャンパー	ファスナーのかみ合わせが悪く思いっきり力を込めて引っ張ったら、指の一部がファスナーに挟まってしまい内出血をおこした。	80 代男性
13	ボタンを掛けている時に指や爪を損傷した	ズボン	ジーパンのボタンをはめるとき、何回も指の爪を折った。	70 代男性
14	ボタンを掛けている時に指や爪を損傷した	カーディガン	ボタンをはめている時、自分の爪で別の指を切った。	70 代女性
15	その他	ブラウス	装飾のスパンコールで手の甲を切ってしまった。でも直ぐ薬を付けておしまいの簡単な処置で大丈夫だった。	60 代女性
16	その他	セーター	装飾が欠けていて指を少し切ったが傷は深くはなかったので自分で手当てした。	70 代女性

3． 高齢者における衣服・履物に関する意識について

①衣服の購入チャネル

図 3_1 は普段衣服を購入している店について尋ねた結果をまとめたものである。「総合スーパー」が 36.3%と最も多く、次いで「衣類専門の量販店」が 30.2%、「デパート」が 14.8%と続く。

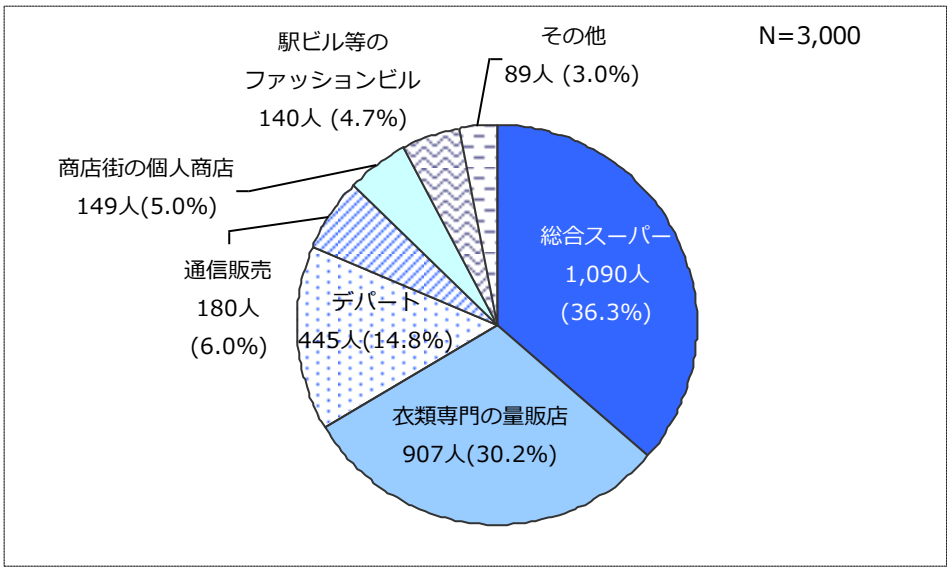


図 3_1. 衣服の購入チャネル〔全体〕

図 3_2 は普段衣服を購入している店について男女別で比較した結果である。男性は「総合スーパー」が 40.4%、「衣類専門の量販店」が 38.7%と多く、合わせると 79.1%とほぼ 8 割に達する。女性においては「総合スーパー」や「衣類専門の量販店」以外に「デパート」や「通信販売」等様々なチャネルを利用している。

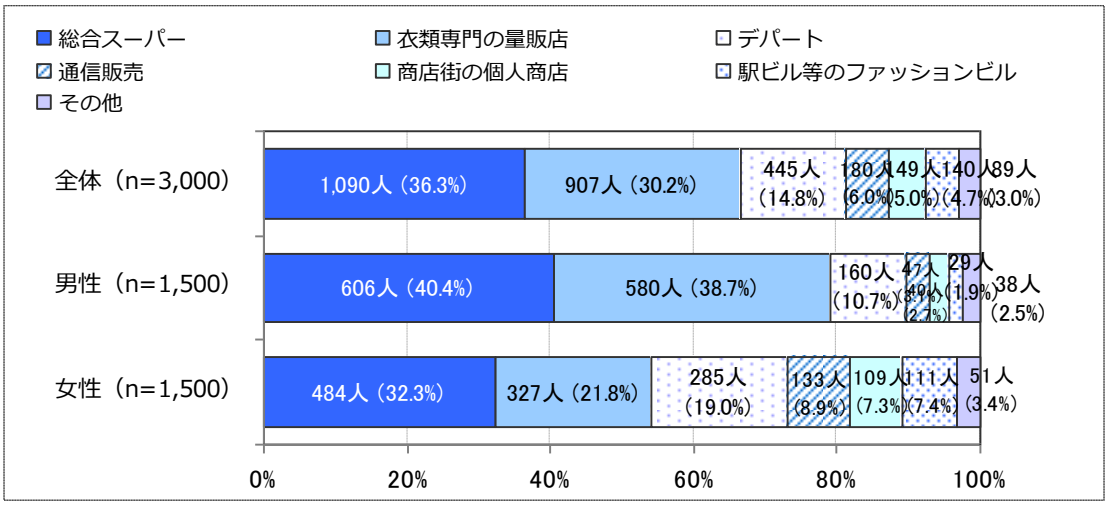


図 3_2. 衣服の購入チャネル〔男女別〕

図 3_3 は普段衣服を購入している店について年代別に比較した結果である。「総合スーパー」は 60 代前半では 28.3%だが、80 代以上では 41.0%と高年齢になる毎に利用される割合が高くなっている。

一方、「衣類専門の量販店」は 60 代前半では 34.3%だが、80 代以上では 24.0%と高年齢になる毎に利用される割合が低くなっている。

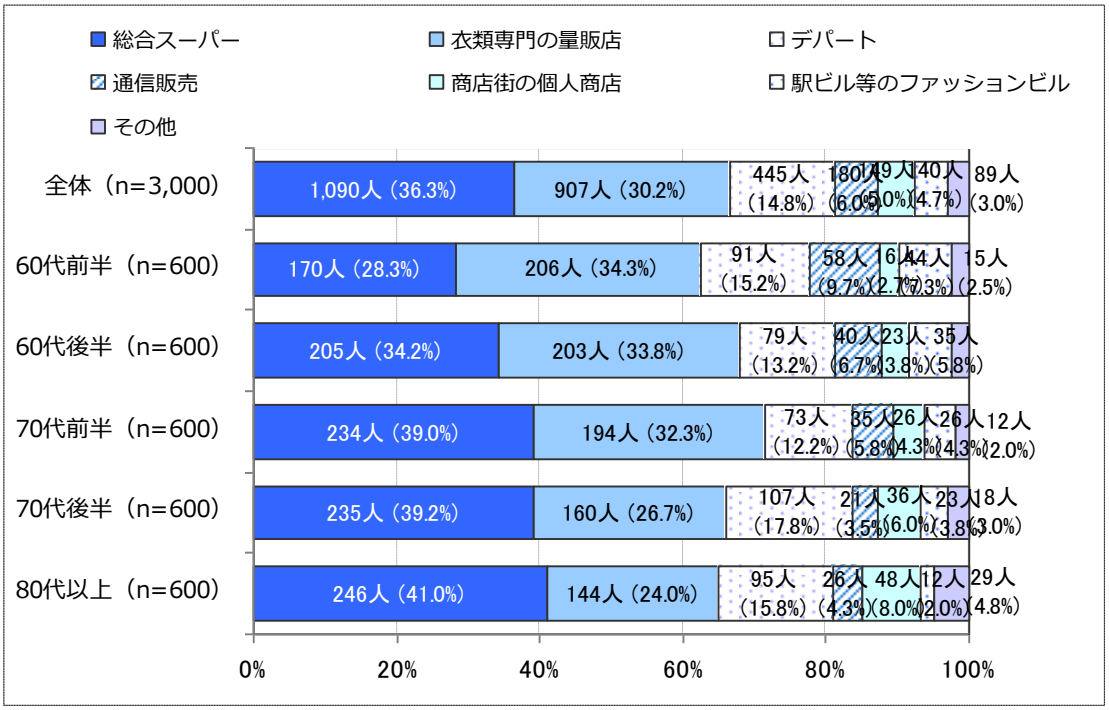


図 3_3. 衣服の購入チャネル〔年代別〕

表 3_1 は普段衣服を購入している店について男女･年代別に比較した結果である。特徴的な点として、男性の 70 代後半と 80 代以上において「デパート」の利用がそれぞれ 43 件、40 件と高くなっている。また、女性の 80 代以上において「商店街の個人商店」が 34 件（11.1%）と 1 割を上回っており、同様に女性の 60 代前半では「駅ビル等のファッションビル」の利用が 35 件（11.7%）と 1 割を上回っている。

表 3_1. 衣服の購入チャネル〔男女･年代別〕

		N数	総合スーパー（件）	衣類専門の量販店（件）	デパート（件）	通信販売（件）	商店街の個人商店（件）	駅ビル等のファッションビル（件）	その他（件）
【全　　体】		3,000	1,090	907	445	180	149	140	89
【男女・年代別】									
男性		1,500	606	580	160	47	40	29	38
	60 代前半	300	99	140	30	12	6	9	4
	60 代後半	300	119	125	21	13	6	8	8
	70 代前半	300	131	121	26	7	5	4	6
	70 代後半	300	128	101	43	8	9	4	7
	80 代以上	300	129	93	40	7	14	4	13
女性		1,500	484	327	285	133	109	111	51
	60 代前半	300	71	66	61	46	10	35	11
	60 代後半	300	86	78	58	27	17	27	7
	70 代前半	300	103	73	47	28	21	22	6
	70 代後半	300	107	59	64	13	27	19	11
	80 代以上	300	117	51	55	19	34	8	16

②衣服の選択基準

図 3_4 は普段衣服を購入するときの選択基準について尋ねた結果をまとめたものである。「脱いだり着たりしやすいこと」が 58.1%と最も多く、次いで「暖かかったり涼しかったりすること」が 52.7%、「肌ざわり」が 48.4%と続く。

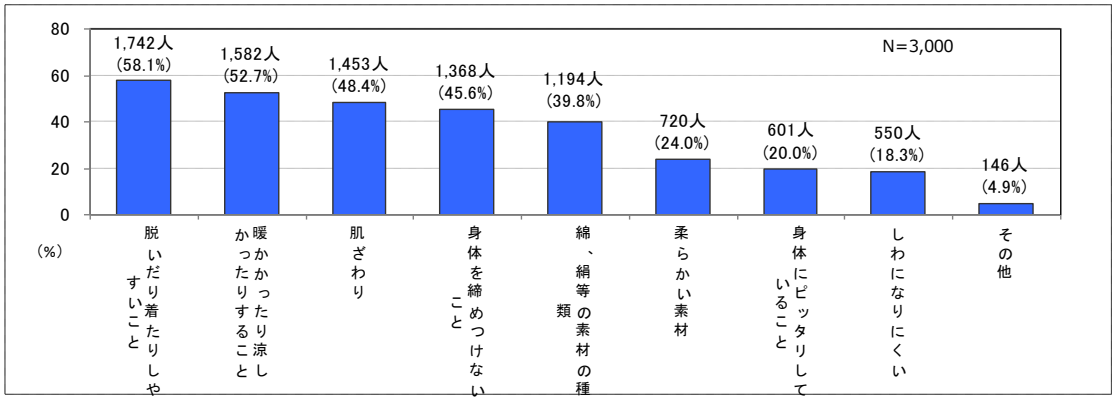


図 3_4. 衣服の選択基準〔全体〕【複数選択】

衣服を購入するときの選択基準について男女別に見ると、最も男女差が大きく見られたのは「身体にピッタリしていること」で男性が 25.7%、女性が 14.3%と男性の方が 11.4 ポイント多く選択していた。次いで「しわになりにくい」は男性が 14.5%、女性が 22.1%と女性の方が 7.6 ポイント多く選択していた。

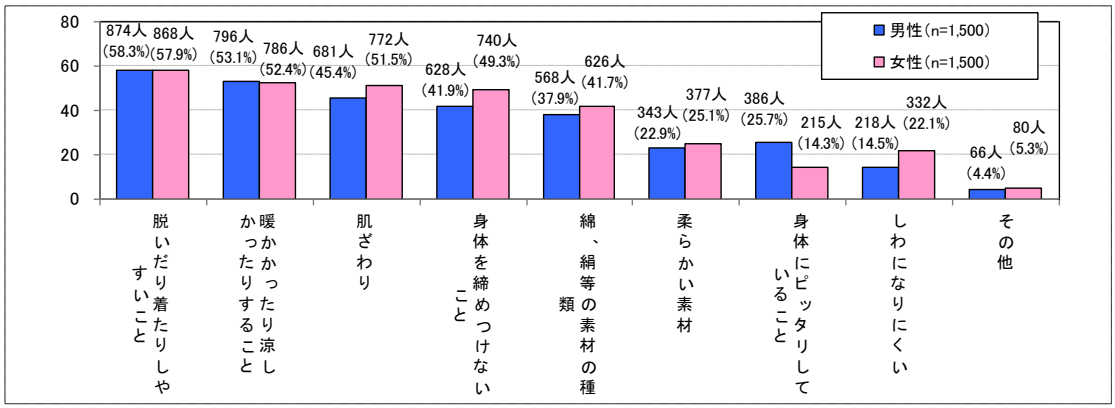


図 3_5. 衣服の選択基準〔男女別〕【複数選択】

表 3_2 は普段衣服を購入するときの選択基準について男女･年代別に比較した結果である。特徴的な点として、男性においては「脱いだり着たりしやすいこと」が 60 代前半では 152 件、80 代以上では 193 件と年代が高くなるにつれて重要な基準となってくることが分かる。

また女性において「しわになりにくい」が、60 代前半では 89 件（29.7%）と 3 割近いが、80 代以上では 24 件（8.0%）と 1 割を下回っている。

表 3_2. 衣服の選択基準〔男女･年代別〕【複数選択】

		N数	脱いだり着たりしやすいこと（件）	暖かかったり涼しかったりすること（件）	肌ざわり（件）	身体を締めつけないこと（件）	綿、絹等の素材の種類（件）	柔らかい素材（件）	身体にピッタリしていること（件）	しわになりにくい（件）	その他（件）
【全　　体】		3,000	1,742	1,582	1,453	1,368	1,194	720	601	550	146
【男女・年代別】											
男性		1,500	874	796	681	628	568	343	386	218	66
	60 代前半	300	152	154	130	143	108	61	52	28	16
	60 代後半	300	164	153	130	122	104	66	69	33	12
	70 代前半	300	175	149	136	128	116	64	70	44	12
	70 代後半	300	190	183	152	125	119	77	101	61	12
	80 代以上	300	193	157	133	110	121	75	94	52	14
女性		1,500	868	786	772	740	626	377	215	332	80
	60 代前半	300	156	142	175	160	141	60	39	89	13
	60 代後半	300	189	164	185	151	158	88	33	81	15
	70 代前半	300	178	161	155	143	135	84	55	79	9
	70 代後半	300	171	160	140	137	100	75	53	59	18
	80 代以上	300	174	159	117	149	92	70	35	24	25

③衣服選択における意識の変化

図 3_6 は若い頃と比較して、衣服の選び方に変化があるかどうかについて自由記述されたものをカテゴリー別に分類した結果である。回答のうち、変化があると回答した 1,866 件（62.2%）について分類している。

この結果によると「着心地を重視する」ようになったとの回答が 1,119 件（60.0%）と最も多く、次いで「色・柄の好みが変わった」が 122 件（6.5%）、「着脱が楽なものを選ぶ」が 121 件（6.4%）であった。

「着心地を重視する」ようになったとの回答の中では、『ゆったりとした衣服を選ぶ』との回答が多く見られた。

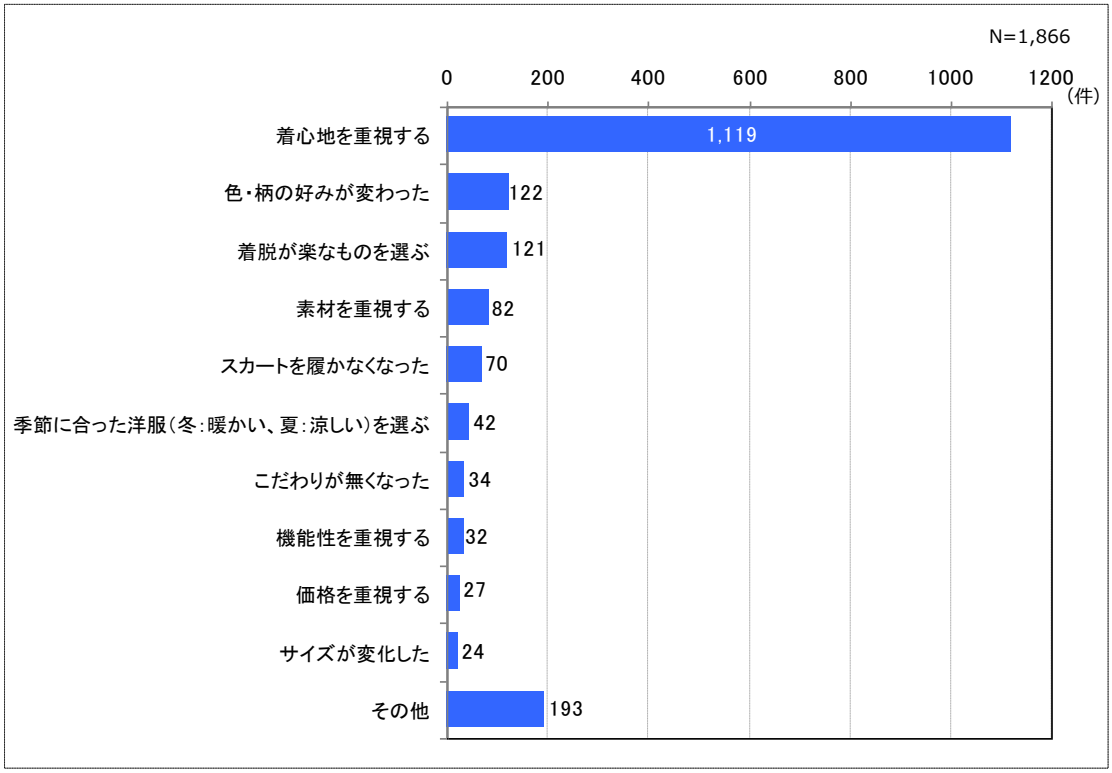


図 3_6. 衣服選択における意識の変化〔全体〕

表 3_3 は若い頃と比較して、衣服の選び方に変化があるかどうかについて男女・年代別に比較した結果である。「着心地を重視する」は男性が 474 件、女性が 645 件と女性の方が多く見られた。

表 3_3. 衣服選択における意識の変化〔男女・年代別〕

		N数	着心地を重視する（件）	色・柄の好みが変わった（件）	着脱が楽なものを選ぶ（件）	素材を重視する（件）	スカートを履かなくなった（件）	季節に合った洋服（冬：暖かい、夏：涼しい）を選ぶ（件）	こだわりが無くなった（件）	機能性を重視する（件）	価格を重視する（件）	サイズが変化した（件）	その他（件）	特に無い（件）
【全体】		3,000	1,119	122	121	82	70	42	34	32	27	24	193	1,134
【男女・年代別】														
男性		1,500	474	70	37	28	－	28	22	21	21	12	122	665
	60 代前半	300	114	14	2	10	－	4	9	4	6	0	24	113
	60 代後半	300	101	18	6	5	－	5	4	3	2	3	14	139
	70 代前半	300	98	15	8	3	－	9	2	7	6	2	17	133
	70 代後半	300	80	14	8	3	－	5	3	2	4	2	35	144
	80 代以上	300	81	9	13	7	－	5	4	5	3	5	32	136
女性		1,500	645	52	84	54	70	14	12	11	6	12	71	469
	60 代前半	300	143	8	17	13	10	4	1	4	1	2	16	81
	60 代後半	300	141	8	12	19	23	2	1	0	0	4	11	79
	70 代前半	300	138	11	17	9	12	4	1	3	3	5	17	80
	70 代後半	300	114	11	14	9	11	2	6	2	0	1	13	117
	80 代以上	300	109	14	24	4	14	2	3	2	2	0	14	112

表 3_4. 衣服選択における意識の変化〔具体的な内容〕

項目		内容	回答者
1	着心地を重視する	ゆったりとした衣服を選ぶようになった。	60 代男性
2	着心地を重視する	あまり締め付けない種類の服を着用するようになった。	60 代女性
3	着心地を重視する	ゆったりしたものを選ぶようになった。ウエストにゴムが入ってないものはぜったい買わなくなった。	60 代女性
4	着心地を重視する	ウエストがゴムのズボンがほとんどになった。	70 代男性
5	着心地を重視する	ズボンをはくことが多くなり、ゆったりした服を着るようになった。	80 代女性
6	色・柄の好みが変わった	色の薄いもの、特に白系統を選ばなくなった。汚れのつきにくい色、特に黒系統を選ぶようになった。	60 代男性
7	色・柄の好みが変わった	夕暮れ時や曇りの日などに、他人に（特に交差点を横切るタクシー等に）発見されやすい様に明るい色調を選ぶ様になった。	60 代男性
8	色・柄の好みが変わった	流行を追わず無難なデザインや色を選ぶようになった。	80 代女性
9	着脱が楽なものを選ぶ	シャツやセーターが頭からかぶる物でなく、前あきの商品を買うようになった。	60 代男性
10	着脱が楽なものを選ぶ	脱ぎ着が楽に出来るものを選ぶようになりました。	60 代女性
11	着脱が楽なものを選ぶ	頭からかぶるセーターよりも前開きのカーディガンを選ぶようになった	70 代女性
12	素材を重視する	デザインより素材重視になった。	60 代女性
13	素材を重視する	材質に綿などの天然素材を多く用いているものを選んでいる。	60 代男性
14	スカートを履かなくなった	スカートは全く履かなくなり、ストレッチの効いた総ゴムタイプのパンツばかりになった。	60 代女性
15	スカートを履かなくなった	殆どスカートをはかなくなった。楽な物を選ぶようになった。	60 代女性
16	季節に合った洋服(冬：暖かい、夏：涼しい)を選ぶ	オシャレより、温度変化等に対応した実質を大切にしたものを選ぶようになった。	60 代男性
17	季節に合った洋服(冬：暖かい、夏：涼しい)を選ぶ	夏はより涼しいもの、冬はより暖かいものを選ぶようになった。	60 代男性
18	こだわりが無くなった	おしゃれにこだわらなくなった。	60 代男性
19	機能性を重視する	見た目、デザインよりも、着心地、機能性、流行に左右されないものを選ぶようになった。	70 代女性

④履物選択における意識の変化

図 3_7 は若い頃と比較して、履物の選び方に変化があるかどうかについて自由記述されたものをカテゴリー別に分類した結果である。回答のうち、変化があったと回答した 2,077 件（69.2%）について分類している。

この結果によると「幅が広い・踵が低いものを選ぶ」ようになったとの回答が 843 件（40.6%）と最も多く、次いで「疲れない靴を選ぶ」が 240 件（11.6%）、「運動靴（ウォーキングシューズ、スニーカー等）が多くなった」が 219 件（10.5%）であった。

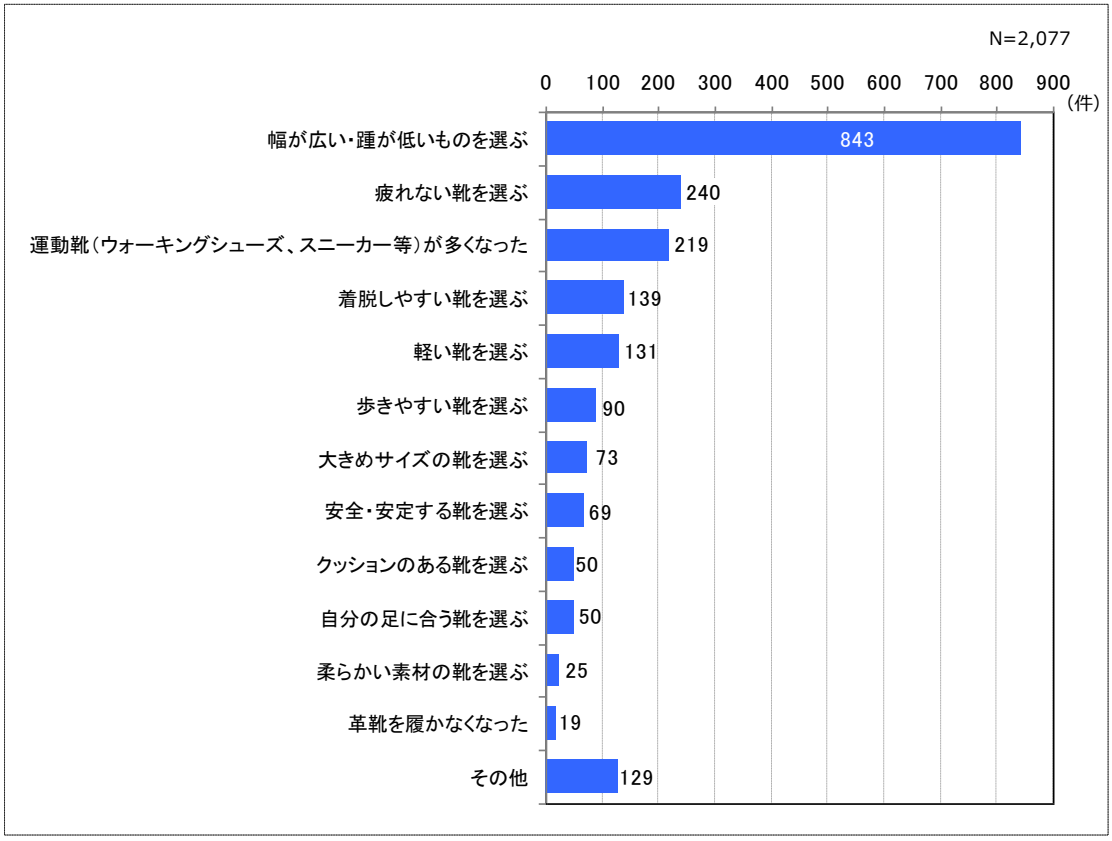


図 3_7. 履物選択における意識の変化〔全体〕

表 3_5 は若い頃と比較して、履物の選び方に変化があるかどうかについて男女・年代別に比較した結果である。「幅が広い・踵が低いものを選ぶ」は男性が 220 件、女性が 623 件と女性の方が多く見られた。一方、「軽い靴を選ぶ」は男性が 95 件、女性が 36 件と男性の方が多く見られた。

表 3_5. 履物選択における意識の変化〔男女・年代別〕

		N数	幅が広い・踵が低いものを選ぶ (件)	疲れない靴を選ぶ (件)	運動靴（ウォーキングシューズ、スニーカー等）が多くなった (件)	着脱しやすい靴を選ぶ (件)	軽い靴を選ぶ (件)	歩きやすい靴を選ぶ (件)	大きめサイズの靴を選ぶ (件)	安全・安定する靴を選ぶ (件)	クッションのある靴を選ぶ (件)	自分の足に合う靴を選ぶ (件)	柔らかい素材の靴を選ぶ (件)	革靴を履かなくなった (件)	その他 (件)	特に無い (件)
【全体】		3,000	843	240	219	139	131	90	73	69	50	50	25	19	129	923
【男女・年代別】																
男性		1,500	220	107	116	81	95	42	48	39	32	29	14	15	69	593
	60 代前半	300	46	26	23	14	12	12	14	12	9	9	1	3	16	103
	60 代後半	300	46	14	20	17	15	5	11	8	12	3	2	2	9	136
	70 代前半	300	45	22	27	22	19	7	8	4	2	7	6	2	9	120
	70 代後半	300	41	17	28	18	21	7	8	6	4	4	2	8	17	119
	80 代以上	300	42	28	18	10	28	11	7	9	5	6	3	0	18	115
女性		1,500	623	133	103	58	36	48	25	30	18	21	11	4	60	330
	60 代前半	300	163	31	14	6	2	9	3	4	2	3	1	0	12	50
	60 代後半	300	153	34	34	1	5	9	5	4	1	5	2	0	10	37
	70 代前半	300	136	32	21	8	10	10	3	8	4	4	2	1	8	53
	70 代後半	300	102	23	15	15	6	11	6	5	6	3	4	2	12	90
	80 代以上	300	69	13	19	28	13	9	8	9	5	6	2	1	18	100

表 3_6. 履物選択における意識の変化〔具体的な内容〕

項目		内容	回答者
1	幅が広い・踵が低いものを選ぶ	主にスニーカーを履くようになった。軽くて幅の広い靴を選んでいる。	60 代男性
2	幅が広い・踵が低いものを選ぶ	かかとの低いヒールの部分の広い靴やクッションの良い靴わ選ぶようになった。	60 代女性
3	幅が広い・踵が低いものを選ぶ	ヒールが高くないフラットに近いもの、つま先が細くないもの、脱げにくいものを選ぶようになった。	60 代女性
4	幅が広い・踵が低いものを選ぶ	外反母趾なのでつま先の広いもので躓きにくい先が少し上がっているような、ヒールの低い靴を選ぶ。	70 代女性
5	幅が広い・踵が低いものを選ぶ	幅の広いものを選ぶようになった。履きやすく、脱ぎやすいファスナーが着いているタウンシューズを選ぶようになった。すべり止め、高さに気を付けて選んでいる。	70 代女性
6	疲れない靴を選ぶ	足の指、偏平足で足が痛くなるので疲れない履物を選ぶようになった。	70 代男性
7	疲れない靴を選ぶ	おしゃれより、長時間履いても楽な靴を選ぶ。	70 代女性
8	疲れない靴を選ぶ	疲れないスニーカータイプの靴が多くなった。	80 代男性
9	運動靴が多くなった	外反母趾があるので、リタイア後は皮底の靴を履く事がなくなり、もっぱらスニーカーっぽい靴を愛用している。	60 代男性
10	運動靴が多くなった	スニーカー、ウォーキングシューズなどよいものがあるので撰ぶようになった。	80 代女性
11	運動靴が多くなった	スニーカーのような、履いた時、足に負担が掛からないものを選ぶようにしています。サイズは４Ｅを選んでいます。	70 代男性
12	歩きやすい靴を選ぶ	デザインよりも穿きやすさ歩きやすさを重視する。	60 代女性
13	歩きやすい靴を選ぶ	フォーマルな靴でも歩きやすいものを店頭で試してから買うようになった。	70 代女性
14	軽い靴を選ぶ	軽い足に負担のかからないものを選んでいる。	70 代男性
15	軽い靴を選ぶ	足首が疲れないように軽いものを選ぶようになった。	70 代男性
16	着脱しやすい靴を選ぶ	ぬぎ履きがし易いようマジックテープの靴を履いている	60 代男性
17	着脱しやすい靴を選ぶ	ひもよりもベルクロテープなどのワンタッチで着脱できるものを選ぶ様になった。	60 代男性
18	安全・安定する靴を選ぶ	外出のときは、サンダルなどかかとを固定しないものはできるだけ履かないようにしている。	60 代男性
19	大きめサイズの靴を選ぶ	外反母趾がひどいので幅広のワンサイズ大きめだったり歩くのに楽なもの選ぶ	70 代女性
20	クッションのある靴を選ぶ	膝への衝撃が緩和されるものを選ぶようになった、又は中敷にて靴底をソフトにしている。サイズは幅広のゆったりした物を選ぶようになった。	60 代男性

⑤衣服に関する要望

図 3_8 は衣服に関する要望について自由記述されたものをカテゴリー別に分類した結果である。回答のうち、要望の記述があった 1,173 件（39.1%）について分類している。

この結果によると「着脱しやすいもの」が 327 件（27.9%）と最も多く、次いで「引っかかる、踏むなど危険でないもの」と「自分の体形に合うもの」がそれぞれ 135 件（11.5%）と続く。

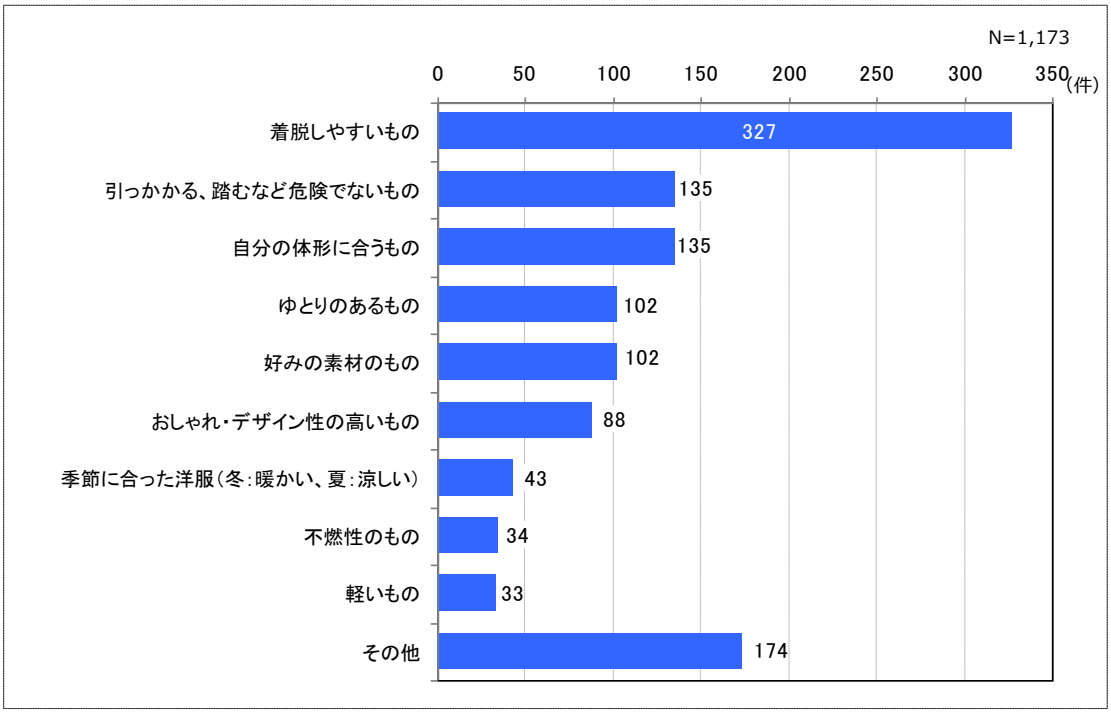


図 3_8. 衣服に関する要望〔全体〕

表 3_7 は衣服に関する要望について男女･年代別に比較した結果である。要望の記述のあった男性 507 件、女性 666 件のうち、「着脱しやすいもの」について男女とも最も多いが、それに続くものとしては、男性が「自分の体型に合うもの」「引っかかる、踏むなど危険でないもの」となり、女性が「引っかかる、踏むなど危険でないもの」「おしゃれ・デザイン性の高いもの」となっている。

男女とも身体に合ったおしゃれをしたいと望んでいる一方で、着脱性や安全性に配慮した衣服を望んでいることが見受けられる。

表 3_7. 衣服に関する要望〔男女･年代別〕

		N数	着脱しやすいもの (件)	引っかかる、踏むなど危険でないもの (件)	自分の体形に合うもの (件)	ゆとりのあるもの (件)	好みの素材のもの (件)	おしゃれ・デザイン性の高いもの (件)	季節に合った洋服（冬：暖かい、夏：涼しい） (件)	不燃性のもの (件)	軽いもの (件)	その他 (件)	特に無い (件)
【全体】		3,000	327	135	135	102	102	88	43	34	33	174	1,827
【男女・年代別】													
男性		1,500	136	61	70	41	42	15	25	16	20	81	993
	60 代前半	300	23	18	14	12	8	3	6	5	3	20	188
	60 代後半	300	23	11	15	8	7	6	5	6	3	16	200
	70 代前半	300	30	9	16	7	9	2	4	2	6	14	201
	70 代後半	300	21	10	15	6	7	2	6	2	3	18	210
	80 代以上	300	39	13	10	8	11	2	4	1	5	13	194
女性		1,500	191	74	65	61	60	73	18	18	13	93	834
	60 代前半	300	40	17	9	11	20	14	4	4	0	22	159
	60 代後半	300	31	21	16	11	12	19	3	6	2	19	160
	70 代前半	300	33	15	18	18	14	25	4	3	3	17	150
	70 代後半	300	37	13	8	8	7	7	3	0	4	14	199
	80 代以上	300	50	8	14	13	7	8	4	5	4	21	166

表 3_8. 衣服に関する要望〔具体的な内容〕

事例		内容	回答者
1	着脱しやすいもの	アームホールにゆとりがあって脱ぎ着がしやすい前開きタイプのデザインが欲しい。	60 代女性
2	着脱しやすいもの	ボタンが小さいとかけにくいので、大きめのボタンにして欲しい。	60 代女性
3	着脱しやすいもの	ファスナー、ボタンなどの着脱に難しいものからワンタッチで着脱出来るものにして欲しい。	70 代男性
4	引っかかる、踏むなど危険でないもの	ズボンのすそは、踏むといけないので、あまり広くないほうが良い。	60 代女性
5	引っかかる、踏むなど危険でないもの	袖口の広いトップやすそ口の広いズボンは危険を感じる。	60 代女性
6	引っかかる、踏むなど危険でないもの	ひらひらした紐、ベルトのついている製品は購入しない。電車等のドアーに挟まれないように。	70 代男性
7	自分の体形に合うもの	胴回りをサイズで合わせると手や足が長すぎてしまう、結局だぶついて物に引っかかりやすくなるサイズを簡単に直せるデザインをして欲しい。	60 代男性
8	自分の体形に合うもの	ウエストを広げたり縮めたりできるもの。	60 代女性
9	自分の体形に合うもの	お年寄りの体サイズに合ったものを多く販売してほしい（股下の短いズボン、2 の腕がゆったりしたもの)。	70 代女性
10	ゆとりがあるもの	全体的にはゆったりとした作りだけど、袖やすそなどひっかける可能性が高い部分はタイトな作りの服があれば。	70 代女性
11	ゆとりのあるもの	締め付け感や、ゴム部分の圧迫がない下着が欲しい。	70 代女性
12	好みの素材のもの	伸縮性があり、しわになりにくく型崩れがしない素材がよい。	60 代女性
13	好みの素材のもの	天然繊維の柔らかいものを。	60 代女性
14	おしゃれ・デザイン性の高いもの	高齢者にふさわしいデザインのものがすくない。安価で落ち着いたデザインのものがあるとよい。通販では数量をまとめないといけないが，同じものの色違いなど買いたくない。選択の幅がほしい。	70 代男性
15	おしゃれ・デザイン性の高いもの	シニアでも若々しく見える色やデザインのものがもっとたくさんあればよい。	70 代女性
16	軽いもの	軽くて、暖かく、動きやすい服	80 代女性
17	季節に合った洋服 (冬：暖かい、夏：涼しい)	夏は、涼しく冬は暖かく感じる服を開発してほしい。(ユニクロの衣服、肌着は思った程効果がないと思う)	60 代女性
18	不燃性のもの	防火・防炎性能が強化されたもの。	60 代男性
19	その他	子供、老人のものは安価で品質のよいものを売って欲しい。	80 代女性
20	その他	汚れが目立ちにくく複数回の洗濯に耐えるもの。	90 代女性

⑥履物に関する要望

図 3_9 は履物に関する要望について自由記述されたものをカテゴリー別に分類した結果である。回答のうち、要望の記述があった 1,607 件（53.6%）について分類している。

この結果によると「着脱しやすい」が 393 件（24.5%）と最も多く、次いで「安全・安定しているもの」が 319 件（19.9%）、「軽量・柔らかいもの」が 177 件（11.1%）と続く。

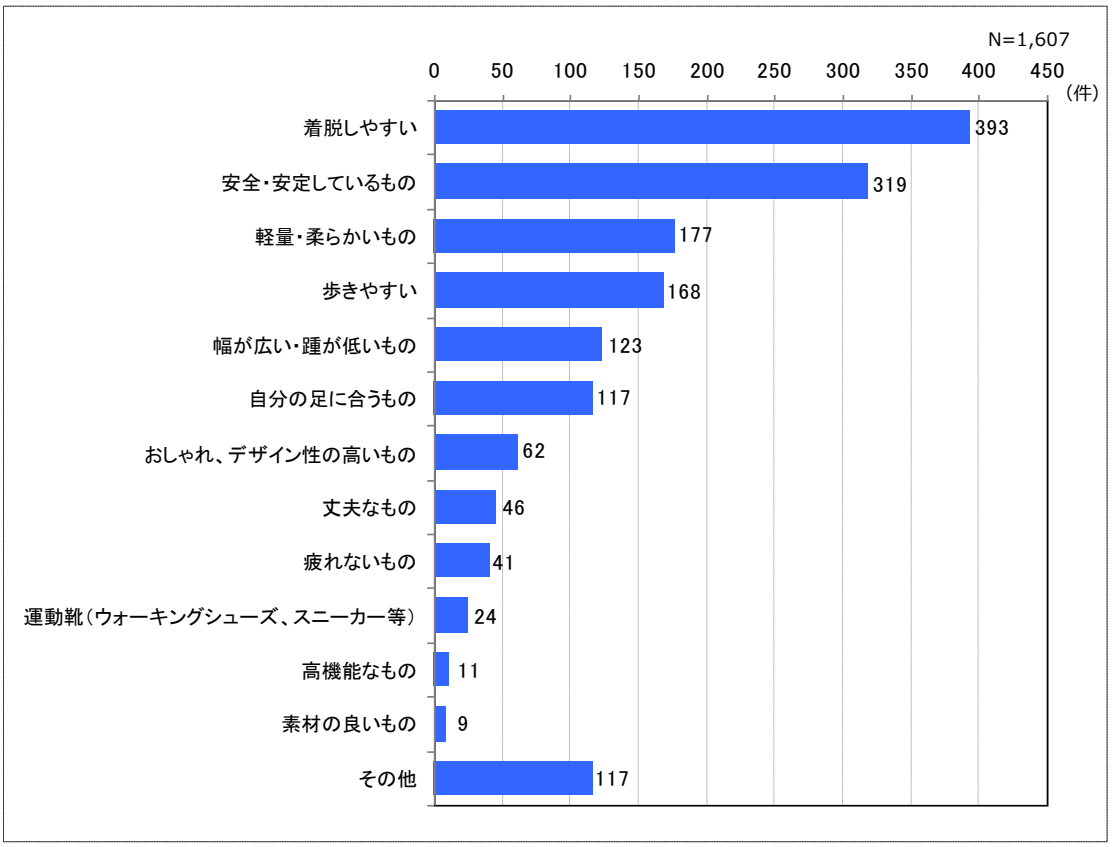


図 3_9. 履物に関する要望〔全体〕

表 3_9 は履物に関する要望について男女･年代別に比較した結果である。「着脱がしやすい」が男性において 214 件と最も多いが、「歩きやすい」は男性が 48 件、女性が 120 件と女性の方に多く見られた。また、「幅が広い・踵が低いもの」も男性が 34 件、女性が 89 件と女性の方に多く見られた。

表 3_9. 履物に関する要望〔男女･年代別〕

		N数	着脱しやすい (件)	安全・安定しているもの (件)	軽量・柔らかいもの (件)	歩きやすい (件)	幅が広い・踵が低いもの (件)	自分の足に合うもの (件)	おしゃれ、デザイン性の高いもの (件)	丈夫なもの (件)	疲れないもの (件)	運動靴（ウォーキングシューズ、スニーカー等） (件)	高機能なもの (件)	素材の良いもの (件)	その他 (件)	特に無い (件)
【全体】		3,000	393	319	177	168	123	117	62	46	41	24	11	9	117	1,393
【男女･年代別】																
男性		1,500	214	152	94	48	34	54	11	35	7	8	7	4	66	766
	60 代前半	300	38	37	13	8	8	14	4	9	0	1	0	1	15	152
	60 代後半	300	45	25	14	10	4	8	2	7	2	3	3	0	12	165
	70 代前半	300	42	36	23	9	7	16	3	4	2	1	2	1	11	143
	70 代後半	300	42	31	14	7	6	9	2	9	1	2	1	1	16	159
	80 代以上	300	47	23	30	14	9	7	0	6	2	1	1	1	12	147
女性		1,500	179	167	83	120	89	63	51	11	34	16	4	5	51	627
	60 代前半	300	44	29	5	33	19	24	12	2	12	3	0	2	8	107
	60 代後半	300	35	33	18	32	20	13	16	4	6	2	1	2	8	110
	70 代前半	300	45	35	23	21	23	8	11	1	5	8	1	0	9	110
	70 代後半	300	25	28	17	15	17	10	7	2	5	2	1	1	10	160
	80 代以上	300	30	42	20	19	10	8	5	2	6	1	1	0	16	140

表 3_10. 履物に関する要望〔具体的な内容〕

項目		内容	回答者
1	着脱しやすい	着脱が楽な靴。それでいて普通に歩くときは脱げない安定感のあるもの	60 代男性
2	着脱しやすい	靴ベラを使わないで、履いたり、脱いだりがし易い靴があれば良い。	70 代男性
3	着脱しやすい	はきやすく、歩いているときは脱げにくく、家に上がる時は脱ぎやすいもの。	80 代女性
4	安全・安定しているもの	雨の日でも、雪の日でも滑りにくい履物を開発して欲しい。	60 代男性
5	安全・安定しているもの	底がしっかりしていて、スニーカーレベルのすべりどめがあるもの。	70 代女性
6	安全・安定しているもの	つま先がそっているもの（つまずきずらくする）。踵は深く、脱げずらくする。	70 代男性
7	軽量・柔らかいもの	軽くて、足の形に合う、濡れても大丈夫な靴。	60 代男性
8	軽量・柔らかいもの	柔らかい素材で足に優しい靴が欲しい。	70 代女性
9	軽量・柔らかいもの	軽くて防水性と発汗性に優れている履き物。	80 代女性
10	歩きやすい	歩きやすい靴がほしい足の土踏まずがホールドされるような形状ウォーキングシューズの紐が伸びる素材のもの。	60 代男性
11	歩きやすい	足を包み込むようなぐらつかない、歩きやすい靴。	70 代女性
12	幅が広い・踵が低いもの	見た目がいい靴はほとんど幅が狭くて買えない。幅広を製作してほしい。	60 代男性
13	幅が広い・踵が低いもの	かかとの低い幅広のスポーツ靴ではなくおしゃれなくつがほしい。	60 代女性
14	自分の足に合うもの	ひもでなくても、足にぴったりフィットする靴。	70 代男性
15	自分の足に合うもの	外反母趾なので、柔らかく、幅広でいて、足にフィットするもの外反母趾に合う靴を作ってほしい。	70 代女性
16	おしゃれ、デザイン性の高いもの	フィットし易く，簡単に着脱できて，その上にかっこいいひもやジッパーなどをデザインしてほしい。	60 代男性
17	おしゃれ、デザイン性の高いもの	いかにもおばあさん風な靴ではなく、おしゃれで安全な靴を作って欲しい。	90 代女性
18	丈夫なもの	かかとがすぐに減らない材質にしてほしい。	60 代男性
19	丈夫なもの	高齢者用の靴で雨にも強いものがあるといいと思う。	90 代女性
20	疲れないもの	長時間履いていても疲れないパンプスがほしい。	60 代女性

Ⅲ．まとめ

今回は高齢者におけるヒヤリ・ハット経験のうち衣服と履物に関する「転倒」「着衣着火」「皮膚障害」についての調査を行った。

【転倒】

東京消防庁管内における平成 24 年中に日常生活の事故で救急搬送された 119,314 人のうち 65 歳以上の高齢者が 59,401 人で全体の約 5 割を占めており、そのうち約 8 割が転倒の事故となっている。骨量が低下している高齢者の骨折には転倒の関与が大きい。今回の調査では、衣服の着用による何らかのヒヤリ・ハットや危害の経験者が 614 人、履物の着用による経験者が 1,234 人いた。適度な運動による体力低下の防止や段差のない住宅等の環境整備のほかにも、体格や体調に合った衣類や履物の着用を心がけることでも、転倒の要因を減らすことに繋がることと思われる。また、自由記述で質問した衣服や履物に関する要望では「着脱しやすい」という項目に関する記述が最も多く見られたことからも、高齢者の身体的な状況に合った製品が望まれていることがうかがえた。

【着衣着火】

毎年秋冬シーズンの到来とともに、高齢者への着衣着火の注意喚起を目にする。

身につけている衣服等に着火する事象であるため、着衣着火による火災は死傷者の発生率が高い。平成 24 年中の東京消防庁管内での着衣着火火災での死傷者 85 人のうち「死亡」4 人、「重篤」3 人のすべてが 65 歳以上の高齢者だった。今回の調査では 261 人が着衣着火のヒヤリ・ハットや危害を経験していた。コンロ等による火の使用は毎日繰り返し行われる日常生活の行動であるため、注意深くなることを忘れてしまいがちである。一歩間違えば大やけどや死にも至る着衣着火への注意喚起を高齢者本人や周りの人々に繰り返し行っていくとともに、アンケート回答者の半数が防炎製品の購入意向があることから、購入しやすく日常生活に取り入れやすい防炎製品の開発が行われ、普及していくことも望まれる。

【皮膚障害】

転倒や着衣着火に比べて危険度は低い衣類による皮膚障害であるが、日常生活ではよく見聞きすることでもあり、今回の調査に組み入れた。皮膚の感受性は人により様々であり注意する点も一概には言えないが、加齢により若いときと較べて皮膚が敏感になっていると感じている人もいる。昨今は、消費者のニーズに応えるべく高い技術力で開発された様々な機能性繊維を用いた日用衣料品が販売されている。暑さ寒さ対策の肌着の中には、手触りは今まで慣れ親しんだ綿素材等と変わらない風合いであっても、表示を見ると複数の種類の化学繊維の混用で作られている場合も多い。かねてから自分で化学繊維について過敏と感じている人や、皮膚の感覚が変わってきていると自覚している人は、衣服の素材表示をよく見て自分の体質に合うかどうか考えてから購入することが、トラブル軽減に繋がると思われる。肌着を購入した場合、衛生上、返品や交換ができないことが多いので、経済的損失を防ぐためにも、肌に直に触れる衣服の素材表示は特によく確認することが望まれる。

【結果の活用】

(1) ヒヤリ・ハットや危害の事例及び注意のポイントをまとめ、ヒヤリ・ハットレポートを作成、配布し、都民へ情報提供を行い、事故の未然防止を図る。

(2) 収集したヒヤリ・ハットや危害の事例を商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。

(3) 国、自治体及び事業者団体等へ調査結果を情報提供する。